

⑥ コンクリート工事 (特記以外については構造特記仕様書による)	① コンクリートの強度	普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2) 設計基準強度 F_c (N/mm ²) 適用箇所 ○21 建物躯体(建物内土間コンクリートを含む) ○18 均しコンクリート 軽量コンクリートの設計基準強度等 (6.2.2) (6.10.1) (表6.10.1) 設計基準強度 F_c (N/mm ²) 気乾単位容積質量 (t/m ³) 種別 適用箇所 ・21 1種・2種 ・ 1種・2種 種類 ※Ⅰ類・Ⅱ類 (6.2.1) (6.4.1.2) (表6.2.1)
	② レディーミクストコンクリートの種類	スランブ (6.2.3) スランブ (cm) 適用箇所 ※18 建物躯体(建物内土間コンクリートを含む) ・15
	③ スランブ	スランブ (6.2.3) スランブ (cm) 適用箇所 ※18 建物躯体(建物内土間コンクリートを含む) ・15
	④ コンクリートの仕上り	部材の位置及び断面寸法の許容差 (6.2.5) (表6.2.3) ※標仕表6.2.2による (適用箇所:) 合板せき板を用いるコンクリートの打直し仕上げ (6.2.5) (表6.2.4) (6.9.6) 種別 適用箇所 ・A種 ○B種 壁壁 ・C種 仕上りの平たんさ (6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6) ※標仕表6.2.4による (適用箇所:)
	⑤ セメント	セメントの種類 (6.3.1) (6.13.2) (表6.3.1) 種別 適用箇所 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 =高炉セメントB種[G] ・フライアッシュセメントB種[G] 普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で352 J/g以下、かつ、28日目で402 J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。
	⑥ 骨材	細骨材は JIS A 5308 の付属書 A (規定) の規定 [レディーミクストコンクリート用骨材] の規定による。 細骨材及び混合細骨材 (6.3.1) ・フェロニッケルスラグ細骨材 [G] 使用部位 () ・鋼スラグ細骨材 [G] 使用部位 () ・電気炉酸化スラグ細骨材 [G] 使用部位 () 砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (6.3.1) 砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A・B (6.3.1)
	⑦ 混和材料	種類 ※混和剤・混和材 (6.3.1) 混和材料の使用量 ※標仕6.4.8(a)、(b)、(c)による (6.4.8)
	⑧ 無筋コンクリート	設計基準強度等 (6.14.1~3) 種別 設計基準強度 (N/mm ²) スランブ (cm) 粗骨材の最大寸法 (mm) 適用箇所 ※普通コンクリート ※18 ※18 ※25 ・軽量コンクリート ・ ・ ・20
	⑨ コンクリート躯体表面の処理	セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・高炉セメントB種 [G] (捨コンクリート) 外装タイルあと張り面の躯体表面の処理 MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上り面凹凸状態とする。 (6.9.3.4) 目荒し工法(高圧水洗)を行う場合は、水圧50N/mm ² 以上、かつ、2.5分/m ² 以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。 (15.2.4) コンクリートの増打ち厚さ ※20mm ※施工範囲は図示による。
	⑩ 新熱材業用型枠	適用及び適用箇所は、19章内装工事10新熱材による。 (6.9.4) ビットスラプ及び地中梁外周側：セラミック粉混入木繊維セメント板 t=30mm打込み

⑦ 鉄骨工事 (特記以外については構造特記仕様書による)	① 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3) ※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国建築工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める(M)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ○監督職員の承諾する工場
	② 入熱、パス間温度の溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※鉄骨溶接基準図による 適用箇所 ※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・図示 ()
	③ 施工管理技術者	※適用する・適用しない (7.1.3.4)
	④ 鋼材	鋼材の材質等 (7.2.1) (表7.2.1) (7.2.4) 種類の記号 適用箇所 規格等 SS400 ※JISによる SS400 ※JISによる STK400 ※JISによる STR400 ※JISによる BCR295 ※JISによる
	⑤ 高力ボルト	ボルトの区分 (7.2.2) ※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) (別2-1.1~1.3) ※(別2-1.1~1.3)による (7.4.2) ※行わない・行う (試験方法:)
	⑥ 溶融亜鉛めっき高力ボルト	ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.2) (7.3.2) (別2-1.1~1.3) ※(別2-1.1~1.3)による (7.12.4) 摩擦面の処理 ※プラスト処理(表面粗度50μmRz以上) ・りん酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験方法等 ・図示
	⑦ 普通ボルト	ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.3) (7.3.2) (別2-1.1~1.3) ※(別2-1.1~1.3)による
	⑧ 鉄骨工作仮組	・行う ○行わない (7.3.10)
	⑨ 溶接接合	開先の形状 ※鉄骨溶接基準図による (7.6.4) (別2-3.1~3.4) 鋼製エンドタブの切除する部分 ※図示 (7.6.7) スカラップの形状 ※鉄骨溶接基準図による (7.6.7)
	⑩ 溶接部の試験	超音波探傷試験 ※行う・行わない (7.6.11) (表7.6.2~4) 工場溶接の場合 AODL (%) ※4.0・2.5 節 ※すべて 検査水準 ※第6水準 工事現場溶接の場合 AODL (%) ※4.0・2.5 放射線透過試験 ※行わない・行う (7.6.11) マクロ試験(エンドタブ使用) ※行わない・行う (7.6.11)
11 スタッド(駆付きスタッド JIS B 1198)	呼び名等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・16 ・19 ・22	
⑫ 錆止め塗装	耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う(※JIS K 5622) ※行わない (7.8.3)	
13 耐火被覆	種別等 (7.9.2~7) 種別 所要性能及び適用箇所 ・耐火材 ・乾式吹付けロックウール 吹付け ・半乾式吹付けロックウール 梁 一時間耐火 t=25 FP060M-9408 ・湿式吹付けロックウール ・耐火板張り ・耐火材巻付け ・ラス張りモルタル塗り 耐火被覆面への錆止め塗装 行わない・行う(適用箇所:)	
⑭ アンカーボルトの保持及び埋込み工法	種別 (7.10.3) (表7.10.1) ・構造用アンカーボルト (※図示) ・建方用アンカーボルト (・A種 ※B種・C種)	
⑮ 柱底均しモルタルの工法	種別 ※A種・B種 (7.10.3) (表7.10.2) 無収縮モルタルの材料及び調合 (7.2.9) 混和材 セメント系(酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等)によって膨張する性質を利用するものとする。 セメント JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。 砂 (社)土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。(各重量比) (セメント+混和材) : 砂=1:1 無収縮モルタルの品質及び試験方法 (表7.2.6) コンシステンシー Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒 ブリーディング 練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下 凝結時間 凝結開始時間 1時間以上 最終時間 10時間以内 無収縮性 材齢7日 収縮しないこと 圧縮強度 材齢3日 25.0 N/mm ² 以上 材齢28日 45.0 N/mm ² 以上 附着強度 材齢28日 3.0 N/mm ² 以上 塩化物量 0.30kg/m ³ 以下 試験方法 (1) 日本道路公団規格 JHS 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6塩化物含有量の試験方法による。	

⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 補強コンクリートブロック造	ブロックの種類 ※空洞ブロック16・空洞ブロック16-W (8.2.2)
	2 コンクリートブロック根壁及び壁	ブロックの種類 ※標仕表8.3.1及び下表による (8.3.2) 適用箇所 厚さ (mm) ・間仕切壁 ・地下二重壁 ・外壁 ・塀 高さ 2m以下 ※120 2mを超える ※150 ・衛生配管用裏積みブロック ※100 ・
	3 ALCパネル	パネルの種類等 (8.4.2~5) (表8.4.2~4) 種別 単位荷重 (N/m ²) 厚さ (mm) 取付け方法種別 ・外壁パネル ※1180・1960 ※100 ・間仕切壁パネル ※100 ・屋根パネル ※100 ・床パネル ※2350・3530 ※100・150 ・床パネルの耐火性能 (・1時間・2時間) 外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅 (mm) ※20 伸縮目地への耐火自木材の充填 適用する (8.4.3)
	4 押出成形セメント板(ECP)	パネルの種類等 (8.5.2~4) (表8.5.1.2) 種別 表面形状 厚さ (mm) 幅 (mm) 工法種別 ※F・F-R 60 900 ○外壁パネル ・D・D-R ・T・T-R ・間仕切パネル ・D・D-R ・T・T-R 耐火性能 ○あり () ・なし ○二次防水工法とする。
	1 アスファルト防水	防水層の種類 (9.2.2.3) (表9.2.3~8) 種別 種別 施工箇所 ・A-1・A-2 ・B-1・B-2 屋根保護防水 ・A1-1・A1-2 ・B1-1・B1-2 屋根露出防水 ・D-1・D-2 屋内防水 ・E-1・E-2 (保護層は図示による) アスファルトの種類 ※3種・4種 (9.2.2) 断熱工法の断熱材 (9.2.2) ※押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付き [G] 厚さ (mm) ※25 厚さ (mm) ・ 立上り部の保護材 (9.2.2) ・乾式保護材 ※押出成形セメント板(厚さ15mm) ・れんが ※JIS R 1250によるもの ・市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック(見え隠れ部分) ・コンクリート
	2 改質アスファルトシート防水	防水層の種類 (9.3.2~4) (表9.3.1) 種別 厚さ (mm) 施工箇所 ・AS-1 ・AS-2
	3 合成高分子系ルーフィングシート防水	防水層の種類 (9.4.2.3) (表9.4.1) 種別 厚さ (mm) 施工箇所 仕上塗料塗り 使用分類 ・S-F1 ※1.2 ・S-F2 ※2.0 ・S-M1 ※1.5 ・S-M2 ※1.5・2.0 ・S-M3 ※1.2 ※屋根防水：ロンブルーファシャツ225US工法(ロンシール工業同等品)
	4 塗膜防水	防水層の種類 (9.5.2.3) (表9.5.1.2) 種別 施工箇所 備考 ・X-1 仕上塗料塗り ・X-2 シルバー・カラー ・Y-1 ※地下外壁防水 Y-2工法の保護シート ・Y-2 ※屋内防水 ※適用する・適用しない ・ワレポンR-200(ボース)同等
	5 脱気装置	脱気装置の種類等 (9.2.3) (9.5.3) 防水種別 種類 材質 設置数量 D-1 ※ルーフィング類製造所 ※ルーフィング類製造所の仕様による ※ルーフィング類製造所の仕様による D-2 X-1 ・平場脱気型 ・ポリイソシアネート樹脂・ABS樹脂 () m ² 当たり1箇所 ・立上り部脱気型 ・合成ゴム・塩化ビニル樹脂 () m ² 当たり1箇所 ・ポリイソシアネート樹脂・銅
	⑥ シーリング	シーリング材の種類 ※下表以外は、標仕表9.6.11による (9.6.2) (表9.6.1) 施工箇所 シーリング材の種類(記号) サッシ廻り 変成シリコン系 打ち継ぎ目地 変成シリコン系 接着性試験 ※簡易接着性試験 (9.6.5) ・引張接着性試験(部位:)

⑩ 石工事	1 石材	天然石 (10.2.1) (表10.2.1.2) 施工箇所 種類 産地・名称 厚さ (mm) 表面仕上げの種類
	2 壁の石張り工法	テラゾ 種石の種類 ※大理石 表面仕上げ ※本磨き 形状・寸法 ※図示 (10.2.1) (表10.2.2) 外壁石張り工法 (10.3.2.3) (10.5.2.3) ・外壁湿式工法(※流し筋工法) ・乾式工法 石裏面処理 ・行う(・小口共) 裏打ち処理 ・行う ドレンパイプ ※ステンレスSUS304
	3 床及び階段の石張り	内壁石張り工法 (10.4.2.3) (10.5.2.3) ・内壁空積工法(※あと施工アンカー横筋流し工法・あと施工アンカー工法) ・乾式工法 石裏面処理 ・行う(・小口共) 裏打ち処理 ・行う 床石張りの裏面処理 ・行う (10.6.2) 階段石張りの裏面処理 ・行う (10.6.3) 屋内のワックス掛け ・行う (10.1.5)
	1 タイル	タイルの種類 (11.2.1) 形状寸法 うわぐすり 吸水率 耐凍害性 役物 色 再生材の備考 施工箇所 (mm) 施ゆう無ゆう I II III 標準時 温冷繰返し後 長さ変化率 曲げ強さ (%) (kg/Q) (%) (%) (N/mm ²) 70.0以上 1.80程度 0.60以上 0.40以上 0.20以下 4.0以上 標準的な曲がり(小口、標準、二丁、びょうぶ)の役物は一体成形とする タイルの見本焼き ※行わない・行う(※外壁タイル) ※適用口 床：LIXIL製：ニューフロア100角程度
	2 張付け用材料	・既製調合モルタル (11.2.3) 性能 保水率 単位容積質量 接着強さ (N/mm ²) 長さ変化率 曲げ強さ (%) (kg/Q) 標準時 温冷繰返し後 (%) (%) (N/mm ²) 70.0以上 1.80程度 0.60以上 0.40以上 0.20以下 4.0以上 有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外・第三種 (11.2.3)
	3 あと張り工法	壁タイル張りの工法 (11.3.3) (表11.3.2) 内装タイル ※壁タイル接着剤張り・改良積上げ張り 外装タイル ※密着張り・改良積上げ張り・改良圧着張り 内装タイル以外のユニットタイル・マスク張り・モザイクタイル張り 躯体表面の処理 行わない(施工範囲 ※図示) 躯体表面の処理方法 MCR工法又は目荒し工法(6章コンクリート工事9項による) 下地モルタル塗り ※標仕15.2.2~15.2.5 (15.2.2~5) タイルの試験張り 行わない・行う(※外壁タイル) (11.2.1)
	4 型枠先付け工法	型枠先付けの種類 (11.2.2) (11.4.2) (表11.4.1) 種別 適用タイル タイル型枠先付け面のせき板 ※タイルシート法 ・小口タイル ※標仕6.9.3[材料](b)(2)又は ・目地削法 ・二丁掛けタイル 金属製タイル先付け用パネル ・積木法 大形タイル

12 木工事 (特記以外については構造特記仕様書による)

① 木材 G
表面仕上げの程度
現場搬入時の木材の含水率
保存処理木材
構造材及び下地材の品質の基準
造作材の材質の品質の基準
代用樹種を使用しない箇所
・ 杉材は鶴岡産杉材とする。
・ その他構造材は構造図による。

② 集成材等 G
集成材及び単板積層材のホルムアルデヒド放散量
構造用集成材 (構造図による)
構造用単板積層材

③ 接着剤
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
※接着剤のホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・ 第三種

④ 防蟻、防蟻処理
防腐処理
防蟻処理
防腐、防蟻処理剤の種類及び品質
表面処理用木材保存剤 (防腐・防蟻剤) は監督職員の承認のものとする。

⑤ 床張り用合板及びその他の合板
普通合板
構造用合板
天然木化粧合板

⑥ 金属成形板張り
特殊加工化粧合板

⑦ アルミニウム製笠木
手すり及びタラップ

⑧ 鋼製下地
床上換気口

⑬ 屋根及びとい工事
1 長尺金属葺き

⑭ 金属工事
1 ステンレスの表面仕上げ
2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理
3 鉄鋼の垂鉛めっき

⑮ 左官工事
① モルタル塗り
② コンクリート直均し仕上げ
3 セルフレバリング材塗り
4 仕上塗材仕上げ

⑯ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑰ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑱ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑳ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

㉑ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

㉒ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

㉓ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

㉔ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

㉕ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

① モルタル塗り
② コンクリート直均し仕上げ
3 セルフレバリング材塗り
4 仕上塗材仕上げ

③ アルミニウム製建具
④ ガラス

⑤ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑥ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑦ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑧ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑨ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑩ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑪ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑫ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑬ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

⑭ 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

6 ステンレス製建具
7 木製建具
8 建具用金物
9 自動ドア開閉装置

10 自閉式上吊り引戸装置
11 重量シャッター
12 軽量シャッター
13 オーバーヘッドドア

14 ガラス

15 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

16 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

17 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

18 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

19 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

20 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

21 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

22 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

23 建築工事
1 見本の製作等
2 防犯建物部品
③ アルミニウム製建具

17 カーテンウォール工事	1 メタルカーテンウォール	カーテンウォール材料の種類	※アルミニウム製 ※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
		カーテンウォール方式	○方立方式 ・バックマリオオン方式（・単純2辺支持構法 ・SSG構法） ・スバンドル方式 ・パネル方式 ・小型パネル組合せ方式（・ノックダウン方式 ・ユニット方式）
		シーリング材及びガラス取付け材料	下記以外は標仕表9.6.1による
		金属	ガラス
		ガラス	石、タイル
		ガラス	ガラス
		構造用ガasket	※適用しない ・適用する ・施工箇所 ※図示
		断熱材	※適用しない ・適用する 種類（ ）厚さ（ ）mm 施工箇所 ※図示
		製品の寸法許容差	※標仕表17.2.11による ・製作所標準製作規定寸法許容差による
		アルミニウムの表面処理	・A-1種 ・B-1種 無着色 ・A-2種 ○B-2種 ※ブラウン系 ・ブラック ○ステンカラー ・着色塗装 塗装材料（ ）焼付け方法（ ）コート（ ）ペーク
耐風圧性能	性能値 ※建築基準法施行令第82条の4及び平成12年建設省告示第1458号に基づく計算値 に対して安全であること。 ・正圧（ ）N/m ² 以上及び負圧（ ）N/m ² 以上に対して安全であること。 主要部材のたわみ 支点間距離（h） ※4m以下 ※±（1/150）×h 、かつ、絶対量20mm以下 ※部材の破損、残留変形及び 有る変形が起らないこと ・4mを超える		
耐震性能	設計用震度 水平方向（K _h ） ※1.0 垂直方向（K _v ） ※0.5		
鉄骨造	※±（1/100）×h以上 ※部材の脱落、ガラスの破損及び主要 部材に有害な歪みが起らないこと		
鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上 シーリングは補修程度の損傷である こと		
鉄骨鉄筋コンクリート造	・		
水密性	○W-4 ・W-5		
気密性	○A-3 ・A-4		
耐火性能	※適用しない ・適用する （ ）時間 施工箇所 ※図示		
映像調整	※行わない ・行う（建具表による）		
製作所	性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承認を受ける		

18 塗装工事	2 PCカーテンウォール	コンクリートの種類及び品質	※標仕17.3.2による ・下表による。ただし、下表以外は標仕17.3.2による。
		鉄筋の種類	※SD295A
		取付け用金物の表面処理	（鉄鋼の亜鉛めっき）及び材質
		PC版打込み金物	※E種 ・ ※A種
		PC版打込み取付けボルト	※E種 ・ ※ステンレスボルト
		二次ファスナー	※E種 ・ ※A種
		取付けボルト	※E種 ・ ※A種
		レベル調整ボルト	※E種 ・ ※A種
		上記以外はカーテンウォール製作所の仕様による	
		シーリング材料	下記以外は標仕表9.6.1による
カーテンウォール板間目地			
耐火目地材	・適用する 施工箇所 ※図示		
断熱材	※適用しない ・適用する 種類（ ）厚さ（ ）mm 施工箇所 ※図示		
製品の寸法許容差	※標仕表17.3.11による ・製作所標準製作規定寸法許容差による		
表面仕上げ	（ ）		
耐火材料			
・ファスナー一部			
・取付けブラケット			
・パネル目地部			
・層間ふさぎ			
耐風圧性能	性能値 ※建築基準法施行令第87条及び平成12年建設省告示第1454号に定められた風圧 力に対して安全であること。 ・正圧（ ）N/m ² 以上及び負圧（ ）N/m ² 以上に対して安全であること。		
耐震性能	設計用震度 水平方向（K _h ） ※1.0 垂直方向（K _v ） ※0.5		
鉄骨造	※±（1/100）×h以上 ※部材の損傷及び破損脱落が起らない こと		
鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上 ガラス等の破損が起らないこと シーリングは補修程度の損傷である こと		
鉄骨鉄筋コンクリート造	・		
①材料	建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 建物内部に使用する塗料の材質 ・水性系 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。		
2 表地ごしらえ	垂れめっき鋼面の表地ごしらえの種類 A種 2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り、 アクリルシリコン樹脂エナメル塗りの場合 B種 A種、C種以外 C種 下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合及び損壊建具等 せつこうボード面及びその他ボード面の表地ごしらえの種類 種類 ○A種 ・B種（施工箇所：壁、天井E P仕上げ面）		
3 床用塗料塗り	材質 ウレタン樹脂系塗料（※標準色） 仕上り種別 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ 塗布量 プライマー塗りのうえ主剤2回塗りとし、総塗布量は0.5kg/m ² 以上とする		
4 防塵用塗料塗り	材質 水性アクリル系樹脂塗料（※標準色） 仕上り種別 コーティング（ローラーばけ塗り） 塗布量 主剤2回塗りとし、総塗布量は0.25kg/m ² 以上とする。 ABC商金（カートトップUP水性カラー）程度		
⑤外壁塗装	コンクリート面 ランデックスコートNS疎水材B工法（大日技研工業）同等品		
6 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）	塗料の種類（JIS K 5516）：※1種 ・2種（表18.4.2） ・鉄鋼面 ・A種 ※B種		
7 耐熱性塗料塗り（DP）	垂れめっき鋼面耐熱性塗料塗り（18.7.1）（18.7.3）（表18.7.2） 以下設計図書において、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗り（2-FUE）と表示する。		
8 合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP）	塗料の種類（JIS K 5563）：※1種 ・2種（18.9.1）（表18.9.1） ・せつこうボード面、その他ボード面 ・A種 ※B種		
9 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り（EP-G）	壁：ケイ酸カルシウム板面		
10 木部塗装	内部無公害塗装：自然塗料ユーロ（大阪塗料工業）同等品 外部木材保護塗料塗装：自然塗料ユーロ（大阪塗料工業）同等品		
11 木部塗装（PU）	ポリウレタン樹脂ワニス塗り		

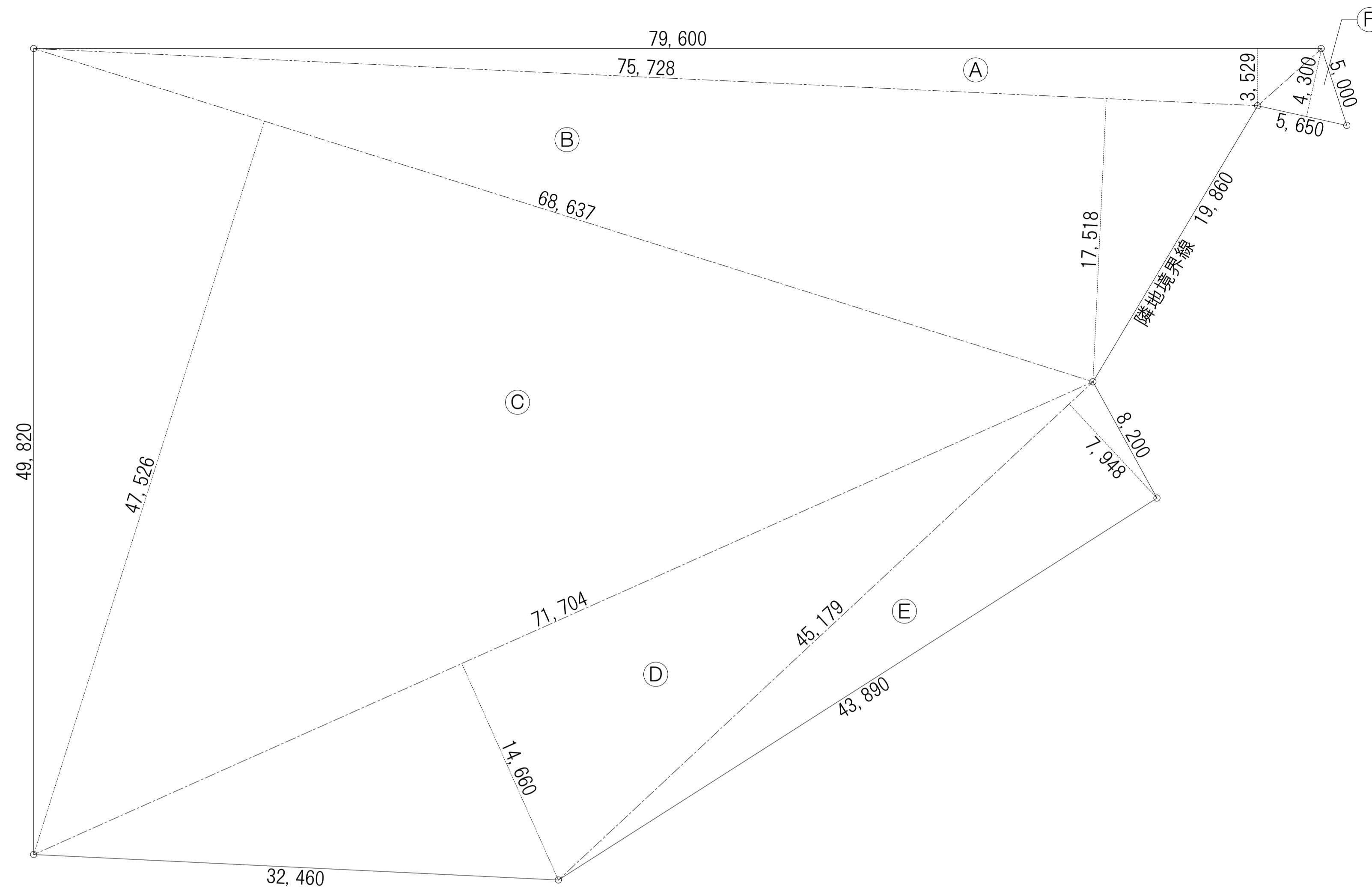
19 内装工事	①接着剤 （内装工事全般）	壁紙施工でん粉系接着剤、ユリア樹脂等又はホルムアルデヒド系防霉剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。		
		ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り	ビニル床シート及びビニル床タイルの特殊機能 帯電防止 ・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満 又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10 ¹⁰ ～10 ¹² Ω程度 耐動荷重 JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り試験、摩耗性試験、 層間接着強度試験（発泡層のあるビニル床シートのみ）及びキャスター性試験 等の試験後、異常がないこと	
		ビニル床シート		
		※発泡層のないもの	・マーブル柄 ・2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重	
		・発泡層のあるもの	・HS ・柄物 ・2.5 ・無地 ・2.8 ・帯電防止 ・耐動荷重	
		工法	※熱溶接工法 ・突付け（施工箇所：）	
		ビニル床タイル		
		種類		
		・コンポジション KT ※無地 ・300×300 ※2.0 ・耐動荷重 ・コンポジション KT ※無地 ・300×300 ※2.0 ・耐動荷重 ・ビニル床タイル（軟質） FT ※無地 ・450×450 ・耐動荷重 ・ビニル床タイル（軟質） FT ※無地 ・450×450 ・耐動荷重 ・置敷きビニル床タイル FOA ※無地 ・500×500 ・耐動荷重		
		・アウトガス対策 フリーアクセス用 床タイル	二重床部 ※無地 ・500×500 ※2.0 ・4.5 ・多機能床タイル エコフレックス ※無地 ・柄物 ・500×500 ※3.0 ・東リ （ソフト） 程度	
ビニル床タイル				
材質	※軟質 ・硬質			
高さ（mm）	※60 ・75 ・100			
厚さ（mm）	※2.0			
ゴム床タイル				
色柄	（ ）			
厚さ（mm）	・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0			
寸法	（ ）			
③カーペット敷き	織じゅうたん A種 ・カットバイル ・ウルトンカーペット ※無地 ※人体帯電圧 B種 ・ループバイル ・ダブルレスカーペット ・柄物 3kV以下 C種 ・カット、ループ併用 ・7&8&9&カーペット（標準品） 下敷き材 ※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ8mm タフテッドカーペット ・カットバイル ※5～7 ※全面接着工法 ※人体帯電圧 ・ループバイル ※4～6 ・グリッパー工法 3kV以下 ・レペルループバイル ※4 ・カット、ループ併用 下敷き材 ※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ8mm ニードルパンチカーペット 厚さ（mm） 帯電性 ※人体帯電圧3kV以下 備考 タイルカーペット ※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5 ※人体帯電圧3kV G400（東リ） ・第二種 ・6.0 以下（リアフレックス） 同等品 ・カットバイル 敷設範囲） ・カット、ループ併用 タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し 階段部分 ※模様流し ・市松敷き 見切り、押え金物 ・適用する（材質、形状等 ※図示） ・弾性ウレタン塗床材 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ ・エポキシ樹脂塗床材 ※薄膜流し履べ仕上げ ・厚膜流し履べ仕上げ（※平滑 ・防滑） ・樹脂モルタル仕上げ（※平滑 ・防滑） ・防滑仕上げ ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種			

5 フローリング張り	単層フローリング	・フローリングボード	根太張用 ※なら 直張用 ・	※15 幅 ※75 長さ 500以上	※合成樹脂 発泡シート ・	・釘留め工法 ・接着工法	
		・フローリングブロック	直張用 ※なら ・	※15 幅 ※303×303 長さ	※合成樹脂 発泡シート ・	・モルタル 埋込み工法 ・接着工法	
		・モザイクパーケット	直張用 ・なら ・	・8 幅	※合成樹脂 発泡シート ・	・接着工法	
		単層フローリングのホルムアルデヒド放散量	※規制対象外 ・第三種				
		天然木化粧複合フローリング	(19.5.2.3,5,6) (表19.5.3,4)				
		・複合1種 ・複合2種 ・複合3種	根太張用 ※なら ・カバ	・A種（表面層3mm） ・B種 ・C種	・防湿処理を行う	・釘留め工法	
		直張用	厚さ 8以上 幅 75以上 長さ 900以上	※合成樹脂発泡シート ・	・接着工法		
		複合フローリングのホルムアルデヒド放散量	※規制対象外 ・第三種				
		仕上げ塗装	・塗装品（UVセラミック塗装） ・無塗装品（・塗装する 施工箇所：） 種類 ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインのうえワックス塗り ・生地そのままワックス塗り				
		6 畳敷き	・標仕表12.5.11による床組 ※B種 ・ポリスチレンフォーム床下地 ※C種 ・畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする ・B種 床：2級品 WR-2 ・A種（ノンフロンのも） 畳下地 厚さ（mm） ※40 ・65 ・80（不燃） フローリング類下地 厚さ（mm） ※80 ・95（不燃）				
7 ポリスチレンフォーム床下地材	せつこうボード及びその他ボードの厚さ、規格等 ○せつこうボード GB-R ○9.5（準不燃） ※12.5（不燃） ・15.0（不燃） ○シーリングせつこうボード GB-S 12.5（不燃） ○強化せつこうボード GB-F ○12.5（不燃） ・15.0（不燃） ・21.0（不燃） ・せつこうラスボード GB-L 9.5 ・化粧せつこうボード（木目） GB-D 12.5（不燃） 幅40mm程度 ・9.5（準不燃） 仕様（※柱目 ・板目） 専用下地材付き ・不燃積層せつこうボード GB-NC 9.5（不燃） 化粧なし（下地張り用） 化粧あり（トラバーチン模様） ○けい酸カルシウム板 0.8FK タイプ2（無石棉） 1.0FK ○6 ・8 ・ロックウール化粧吸音板 DR ※フラットタイプ（※9（不燃）○12 ・凹凸タイプ（※12（不燃）・15・19） ・ロックウール吸音ボード1号 RW-B ・25 ・ガラス繊維吸音ボード2号32K GW-B ・25（ガラスクロス包） ・50（ガラスクロス包） ・硬質木毛セメント板 HW ・15 ・20 ・25 ・30 ・普通木毛セメント板 NW ・15 ・20 ・25 ・30 ・硬質木片セメント板 HF ・12 ・15 ・18 ・21 ・普通木片セメント板 NF ・30 ・単板張り ・無研磨板（VN） ・研磨板（VS） パーティクルボード ・単板オーバーレイ（DV） ・化粧パーティクルボード ・ガラス繊維入り（DO） ・塗装（DC） ・10（難燃） ・12（難燃） ・ミディアムデンシティ ファイバーボード MDF ・素地MDF（RS） ・化粧MDF（・DV ・DO ・DC） ・3 ・7 ・9 ・12 ・ハードボード（素地） HB ・未研磨板（RM） ・研磨板（RS） ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・ハードボード（化粧） HB ・内装用化粧（DI） ・外装用化粧（DE） ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・インシュレーションボード IB A級二次加工品（・天井仕上 ・内装仕上） ・9 ・12 ・15 ・18 ・メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903による 厚さ1.2 パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない 天井及び壁に使用する合板は、12章木工5床張り用合板及びその他の合板による。 合板類の張付け ・A種 ※B種						

21 排水工事	1 排水管	排水管用材料	<table border="1"> <tr> <td>※遠心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※外圧管 (※1種・2種)</td> <td>・ B形 (ゴム接合)</td> </tr> <tr> <td>・ 硬質塩化ビニル管</td> <td>※VP・VU ・ RS-VU □ ・ RF-VP □</td> <td></td> </tr> </table>	※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管 (※1種・2種)	・ B形 (ゴム接合)	・ 硬質塩化ビニル管	※VP・VU ・ RS-VU □ ・ RF-VP □						
	※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管 (※1種・2種)	・ B形 (ゴム接合)											
	・ 硬質塩化ビニル管	※VP・VU ・ RS-VU □ ・ RF-VP □												
	2 鋼鉄製ふた	車道部の排水管の敷設 ※図示 ・ 砂基礎 (地業厚さ20cm以上 材料 山砂の類)												
	3 グレーティング	<table border="1"> <tr> <td>・ 水封形</td> <td>・ T-2用 (5)</td> <td>・ あり</td> </tr> <tr> <td>・ 簡易密閉形 (パッキン式)</td> <td>・ T-6用 (15)</td> <td>・ なし</td> </tr> <tr> <td>・ 密閉形 (テーパ・パッキン式)</td> <td>・ T-20用 (50)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	・ 水封形	・ T-2用 (5)	・ あり	・ 簡易密閉形 (パッキン式)	・ T-6用 (15)	・ なし	・ 密閉形 (テーパ・パッキン式)	・ T-20用 (50)		・ 中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式)		
・ 水封形	・ T-2用 (5)	・ あり												
・ 簡易密閉形 (パッキン式)	・ T-6用 (15)	・ なし												
・ 密閉形 (テーパ・パッキン式)	・ T-20用 (50)													
・ 中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式)														
4 埋戻し土	種別 ※B種													
5 コンクリートL型側溝	L型側溝250B標準型													

22 舗装工事	① 盛土に用いる材料	種別 ・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種																											
	2 遮断層及び凍上抑制層の材料	・ 遮断層 ※川砂、海砂又は良質な山砂 厚さは図示 ・ 凍上抑制層 ※再生クラッシュラン ・ クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 砂 厚さは図示																											
	3 路床安定処理	※添加材料による安定処理 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種 ・ 生石灰 () ・ 消石灰 () 添加量 () kg/m ³ (目標CBR ※5以上 ())																											
	4 路床土の支持力比 (CBR) 試験	※行う																											
	5 路床締固め度の試験	※行う																											
	6 砂の粒度試験	※行う																											
	⑦ 路盤材料 ㊦	※再生クラッシュラン (RC-40) ・ クラッシュラン (C-40) 又はクラッシュランスラグ (CS-40)																											
	8 路盤の締固め度試験	※行う																											
	⑨ アスファルト舗装	<table border="1"> <tr> <td>※アスファルト舗装</td> <td>※なし ・ あり</td> <td>※顔料混入加熱アスファルト混合物</td> </tr> <tr> <td>・ カラー舗装</td> <td>※なし ・ あり</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>アスファルト ※再生アスファルト □ ・ ストレートアスファルト カラー舗装の着色骨材 ・ 有色骨材 (焼成) ・ 着色骨材 (樹脂被覆) 加熱アスファルト混合物の種類</p> <table border="1"> <tr> <td>※一般地域</td> <td>○寒冷地域</td> </tr> <tr> <td>※密粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td>※再生密粒度アスファルト混合物 (13F)</td> </tr> <tr> <td>・ 細粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td>・ 細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)</td> </tr> <tr> <td>・ 粗粒度アスファルト混合物 (20)</td> <td></td> </tr> </table> <p>シールコート ※行わない ・ 行う (施工範囲:) アスファルト混合物等の抽出試験 ※行わない ・ 行う</p>	※アスファルト舗装	※なし ・ あり	※顔料混入加熱アスファルト混合物	・ カラー舗装	※なし ・ あり	・	※一般地域	○寒冷地域	※密粒度アスファルト混合物 (13)	※再生密粒度アスファルト混合物 (13F)	・ 細粒度アスファルト混合物 (13)	・ 細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)	・ 粗粒度アスファルト混合物 (20)														
	※アスファルト舗装	※なし ・ あり	※顔料混入加熱アスファルト混合物																										
	・ カラー舗装	※なし ・ あり	・																										
	※一般地域	○寒冷地域																											
	※密粒度アスファルト混合物 (13)	※再生密粒度アスファルト混合物 (13F)																											
	・ 細粒度アスファルト混合物 (13)	・ 細粒度ギャップアスファルト混合物 (13F)																											
・ 粗粒度アスファルト混合物 (20)																													
10 コンクリート舗装	早強セメント ※使用しない ・ 使用する 注入目地材料 ※低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ ・ なし 溶接金網 ※あり ・ なし 厚さ試験 ※行わない ・ 行う																												
11 透水性 アスファルト舗装 ㊦	アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・ 行う																												
12 排水性 アスファルト舗装 ㊦	アスファルト混合物 ・ 改質アスファルト I 型 ※改質アスファルト II 型 タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類 ※PKR-T アスファルト混合物の抽出試験 ※行わない ・ 行う																												
13 ブロック系舗装	・ コンクリート平板舗装 (JIS A 5371による)																												
	<table border="1"> <tr> <td>※普通平板 (N)</td> <td>※300角</td> <td>※60</td> <td>※砂</td> </tr> <tr> <td>・ 透水平板 (P)</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ モルタル</td> </tr> </table> <p>○インターロッキングブロック舗装 (JIS A 5371による)</p> <table border="1"> <tr> <td>※普通ブロック (N)</td> <td>車道部 ※80</td> <td>※標準品</td> </tr> <tr> <td>・ 透水性ブロック (P)</td> <td>歩道部 ※60</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ 誘導、注意喚起用ブロック</td> <td></td> <td>誘導、注意喚起用は黄色系とする</td> </tr> <tr> <td>・ 植生用ブロック (V)</td> <td>※90 ・ 100</td> <td></td> </tr> </table> <p>・ 鋪石舗装</p> <table border="1"> <tr> <td>※小鋪石 (花こう岩)</td> <td>※80~100</td> <td>※うろこ張り</td> <td>※コンクリート舗装</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ アスファルト舗装</td> </tr> </table>	※普通平板 (N)	※300角	※60	※砂	・ 透水平板 (P)	・	・	・ モルタル	※普通ブロック (N)	車道部 ※80	※標準品	・ 透水性ブロック (P)	歩道部 ※60	・	・ 誘導、注意喚起用ブロック		誘導、注意喚起用は黄色系とする	・ 植生用ブロック (V)	※90 ・ 100		※小鋪石 (花こう岩)	※80~100	※うろこ張り	※コンクリート舗装	・	・	・	・ アスファルト舗装
※普通平板 (N)	※300角	※60	※砂																										
・ 透水平板 (P)	・	・	・ モルタル																										
※普通ブロック (N)	車道部 ※80	※標準品																											
・ 透水性ブロック (P)	歩道部 ※60	・																											
・ 誘導、注意喚起用ブロック		誘導、注意喚起用は黄色系とする																											
・ 植生用ブロック (V)	※90 ・ 100																												
※小鋪石 (花こう岩)	※80~100	※うろこ張り	※コンクリート舗装																										
・	・	・	・ アスファルト舗装																										
14 路面標示用塗料	JIS K 5665 (路面標示用塗料) による																												
	<table border="1"> <tr> <td>・ 1種 □ 常温</td> <td>液状</td> <td>※白</td> <td>※150</td> <td>※1.0</td> <td>塗料総質量に対して</td> </tr> <tr> <td>・ 2種 □ 加熱</td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>5%以下</td> </tr> <tr> <td>※3種1号</td> <td>熔融</td> <td>粉体状</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	・ 1種 □ 常温	液状	※白	※150	※1.0	塗料総質量に対して	・ 2種 □ 加熱		・	・	・	5%以下	※3種1号	熔融	粉体状													
・ 1種 □ 常温	液状	※白	※150	※1.0	塗料総質量に対して																								
・ 2種 □ 加熱		・	・	・	5%以下																								
※3種1号	熔融	粉体状																											

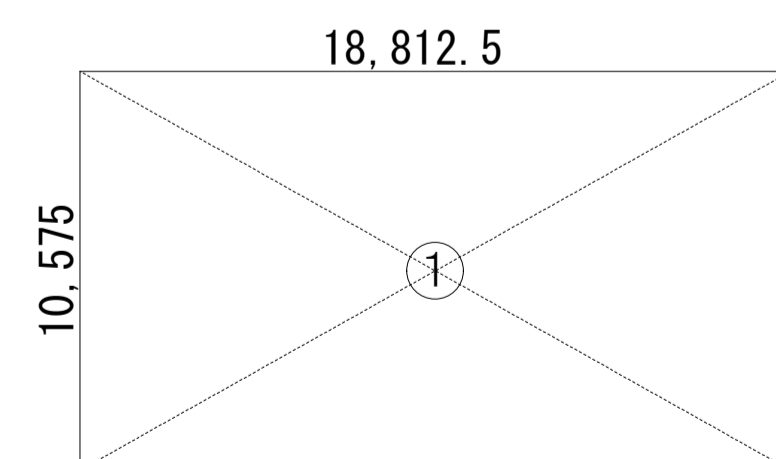
23 植栽工事及び屋上緑化工事	1 植栽基盤整備	芝及び地被類	<table border="1"> <tr> <td>※行う ・ 行わない</td> <td>※20</td> <td>※B種</td> <td>※植栽範囲</td> <td>・ 図示</td> </tr> </table> <p>樹木</p> <table border="1"> <tr> <td>・ 12以上</td> <td>※100</td> <td>※A種</td> <td>・ 葉張りの範囲</td> </tr> <tr> <td>・ 7以上~12未満</td> <td>※80</td> <td>・ B種</td> <td>・ 植栽範囲</td> </tr> <tr> <td>・ 3以上~7未満</td> <td>※60</td> <td>・ C種</td> <td>・ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 3未満</td> <td>※50</td> <td>・ D種</td> <td></td> </tr> </table> <p>工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。</p>	※行う ・ 行わない	※20	※B種	※植栽範囲	・ 図示	・ 12以上	※100	※A種	・ 葉張りの範囲	・ 7以上~12未満	※80	・ B種	・ 植栽範囲	・ 3以上~7未満	※60	・ C種	・ 図示	・ 3未満	※50	・ D種	
	※行う ・ 行わない	※20	※B種	※植栽範囲	・ 図示																			
	・ 12以上	※100	※A種	・ 葉張りの範囲																				
	・ 7以上~12未満	※80	・ B種	・ 植栽範囲																				
	・ 3以上~7未満	※60	・ C種	・ 図示																				
	・ 3未満	※50	・ D種																					
	2 植込み用土	※現場発生土の良質土 ・ 客土 (・ 黒土 ・ 真砂土)																						
	3 土壌改良材 □	※適用する 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示																						
	4 支柱材	※杉、ひのき又はから松 (皮はぎもの、間伐材) □ 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理 ・ ・ 真竹 (良質な2年生以上)																						
	5 幹巻き用材料	※幹巻き用テープ ・ わら及びこも																						
	6 芝張り	種類 ※こらい芝 ・ 野芝 工法 ・ 目地張り ・ べた張り																						
	7 吹付けは種用種子等	※洋芝類 ・ クローバー																						
	8 地被類	※コンテナ栽培品																						
	9 屋上緑化 □	植栽基盤及び材料 ・ 屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・ 図示 保水・排水層 ・ 軽量骨材 (層の厚さ:) ・ 板状成形品 植込み用土 ※改良土 ・ 人工軽量土 樹木の樹種、寸法、株立数、数量等 ※図示 ・ ・ 屋上緑化軽量システム 芝及び地被類の種類等 ※図示 ・ ※ロンググリーン箱庭名人VUS仕様 省管理型屋上緑化システム セダム類 工法 支柱 ・ 設置する (種類 ・ 図示 ・) かん水装置 ・ 設置する (工事区分は図示による)																						



敷地面積求積図 S=1:200

○敷地面積計算表

記号	計算式	m ²
Ⓐ	$79,600 \times 3,529 \div 2$	140,4542
Ⓑ	$75,728 \times 17,518 \div 2$	663,3015
Ⓒ	$68,637 \times 47,526 \div 2$	1,631,0210
Ⓓ	$71,704 \times 14,660 \div 2$	525,5903
Ⓔ	$45,179 \times 7,948 \div 2$	179,5413
Ⓕ	$5,650 \times 4,300 \div 2$	12,1475
計		3,152,0558
改め計		3,152,05



建築面積・延床面積求積図 S=1:100

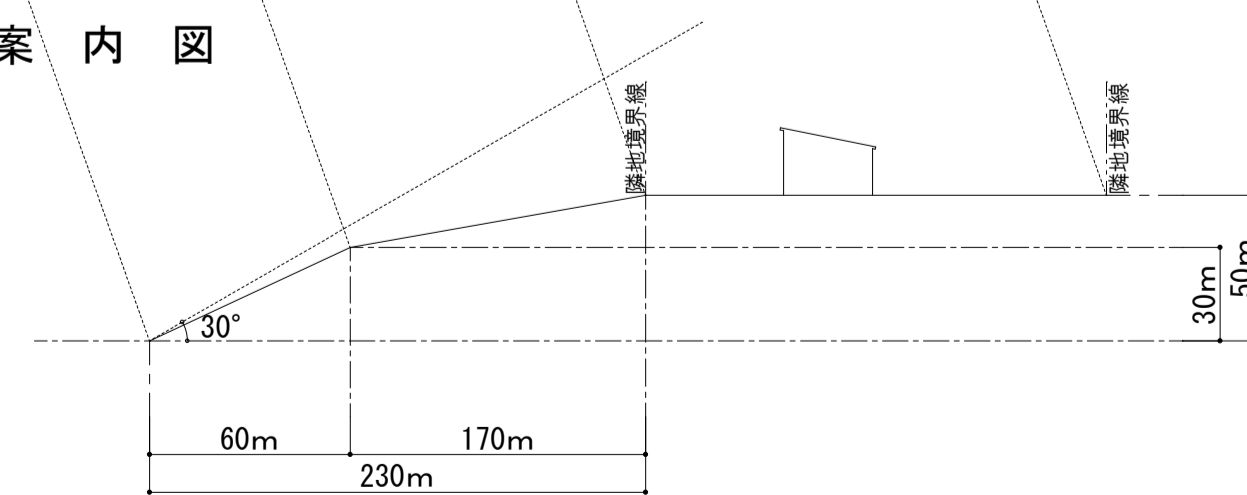
○建築面積・延床面積計算表

記号	計算式	m ²
①	$18,812.5 \times 10,575$	198,9421
計		198,9421
改め計		198,94

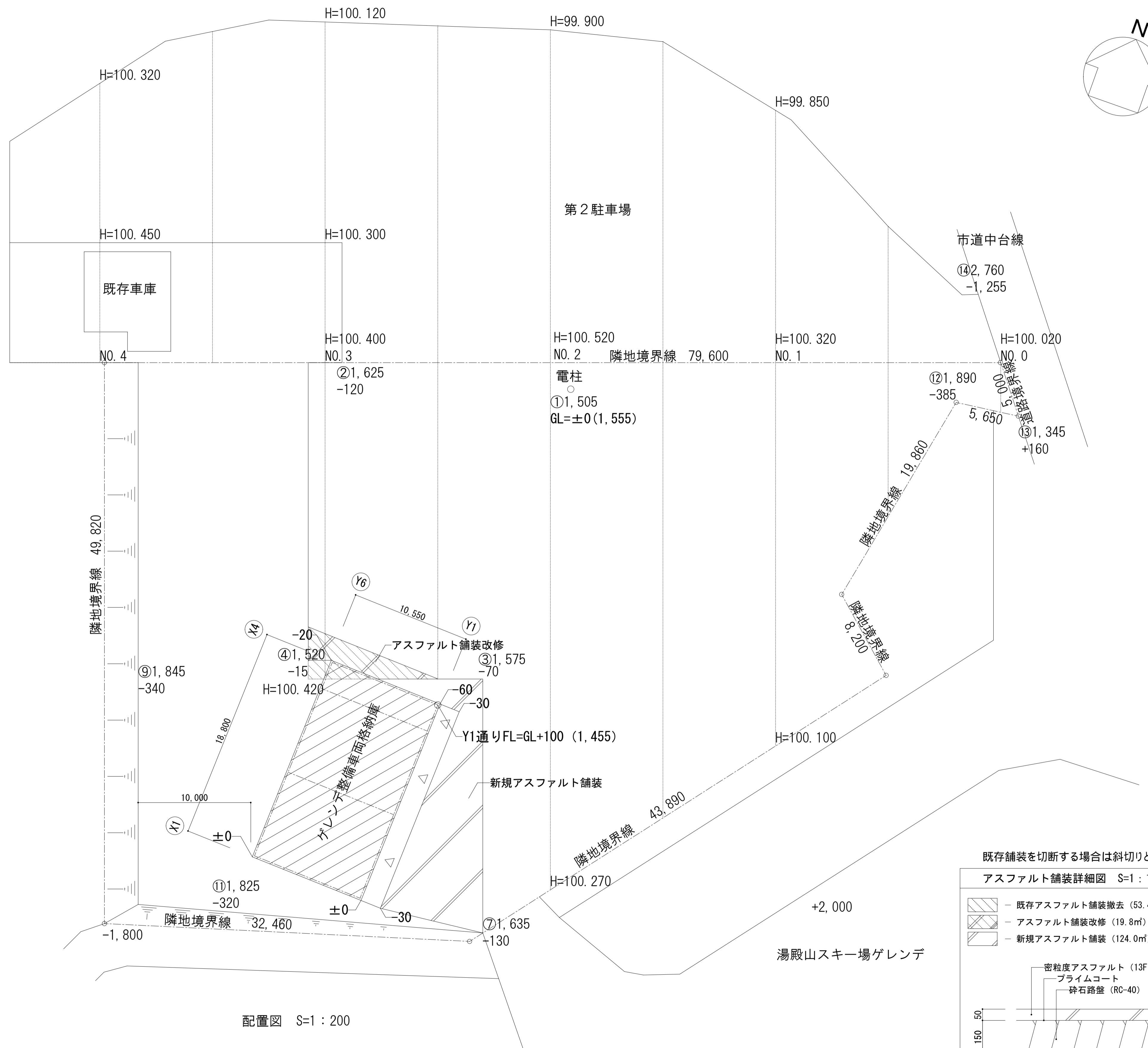
施工地：山形県鶴岡市田麦俣六十里山地内



案内図



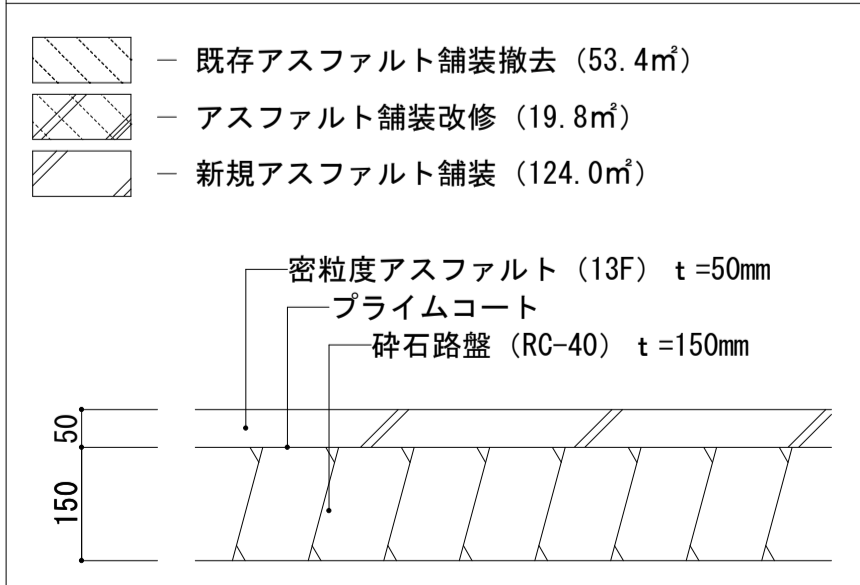
A-A断面図



配置図 S=1:200

既存舗装を切断する場合は斜切りとする。

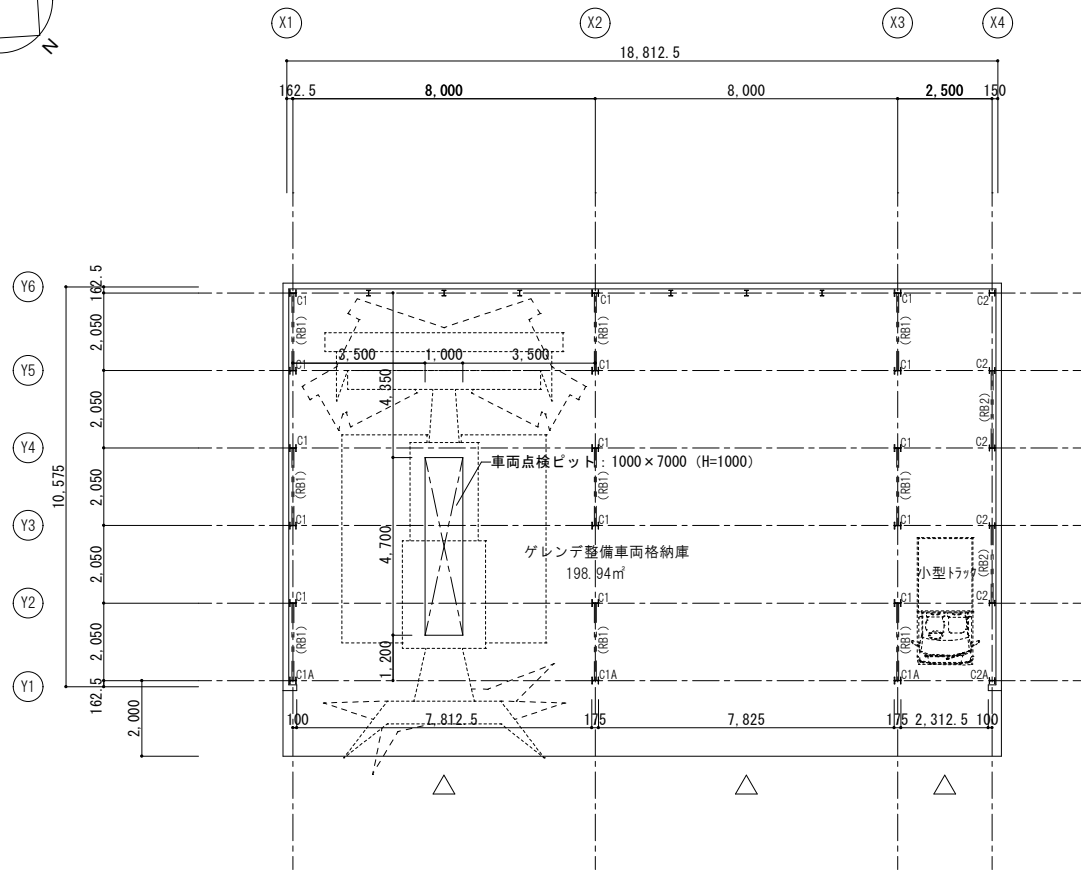
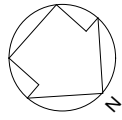
アスファルト舗装詳細図 S=1:10



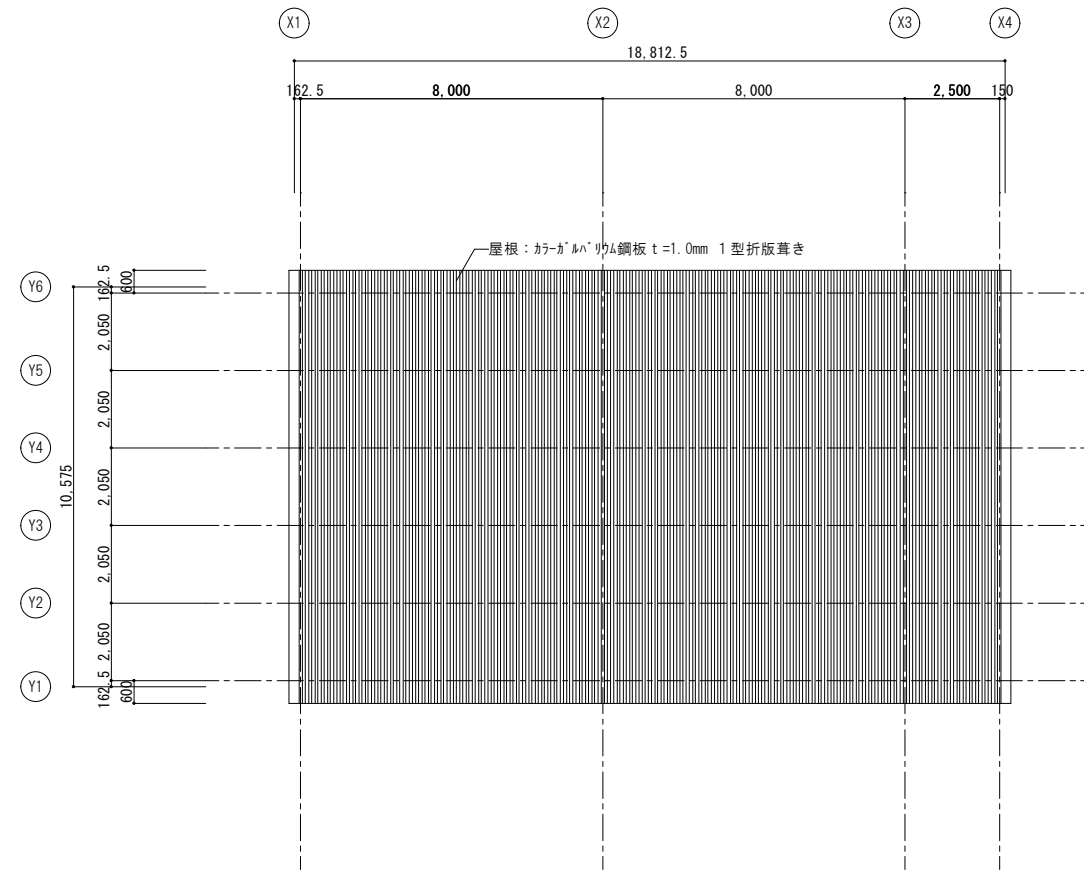
面積表	
敷地面積	3,152.00 m ²
建築面積	198.94 m ²
延床面積	198.94 m ²
最高高さ	8.122 m
最高軒高	7.750 m
用途地域	無指定
防火地域	無指定
地名地番	山形県鶴岡市田麦俣六十里山内
主要用途	第一号車庫 (第1類)

外部仕上表				
屋根	カラーガルバリウム鋼板 t=1.0mm [不燃 NM-8697] はげ締め1型折版葺き 補強型タイトフレーム 折版裏張り: フネンエース t=4mm [不燃 NM-0758]	エプロン	コンクリート金ゴテ仕上げ	
軒天	折版裏あらわし			
外壁	カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm [不燃 NM-8697] スパンドレル加工 腰壁部水切り: カラーガルバリウム鋼板 t=0.5mm加工 東側開口部枠: カラーガルバリウム鋼板 t=0.8mm加工、西側開口部枠: カラーガルバリウム鋼板 t=0.5mm加工			
腰壁	コンクリート打ち放し吹付タイル仕上げ (GL+2,000mm) 誘発目地 (20×10) シーリング充填 打継目地 (20×10) シーリング充填			

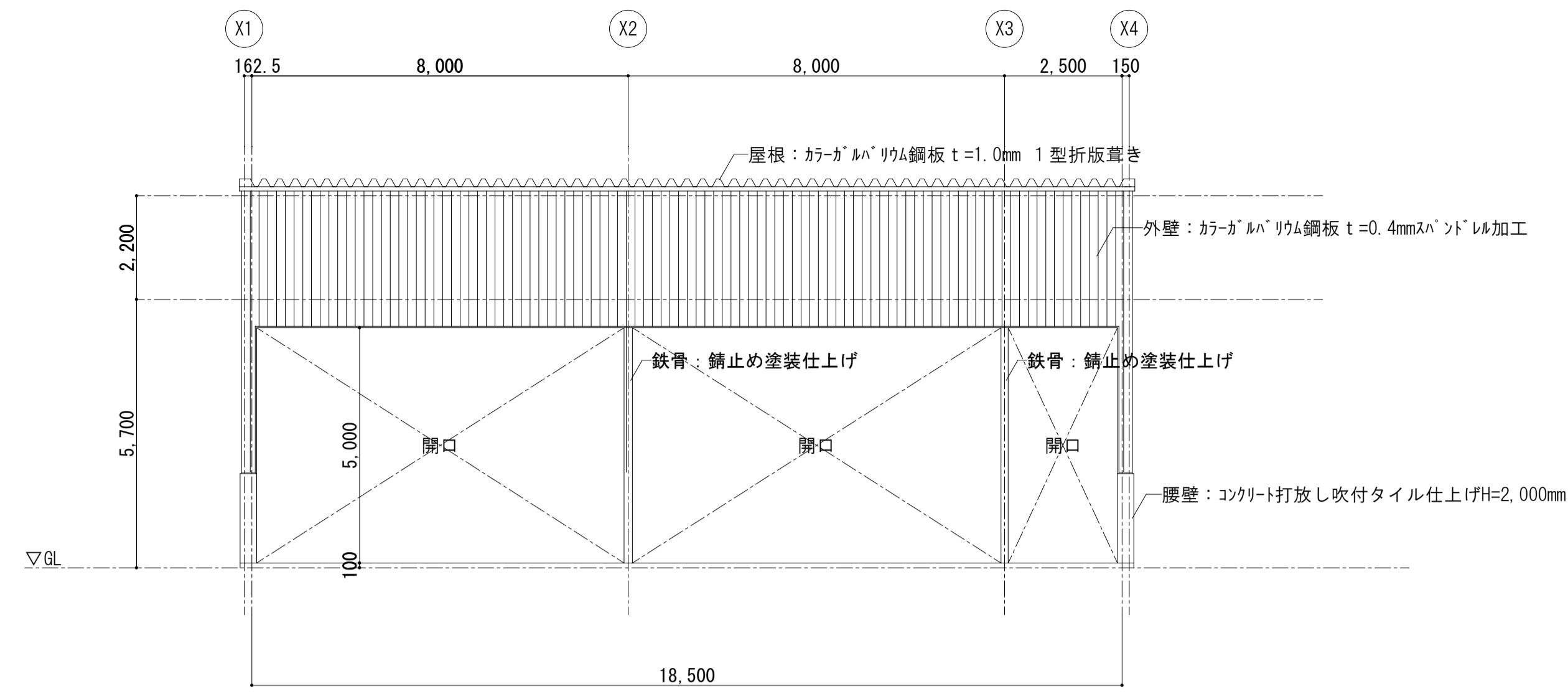
内部仕上表											
室名	床			巾木		壁		天井			備考
	下地	仕上	床高	仕上	高さ	下地	仕上	下地	仕上	天井高	
格納庫 (ゲレンデ整備用車両)	土間コンクリート	コンクリート金ゴテ仕上げ	±0~+110	-		R C S	腰壁: コンクリート打ち放し仕上げ (GL+2,000mm) 壁: 外壁裏あらわし	S	折版裏張り材あらわし 折版裏張り: フネンエース [不燃 NM-0758]	7,650~5,500	点検ピット: 1,000×4,700 (H=1000mm)



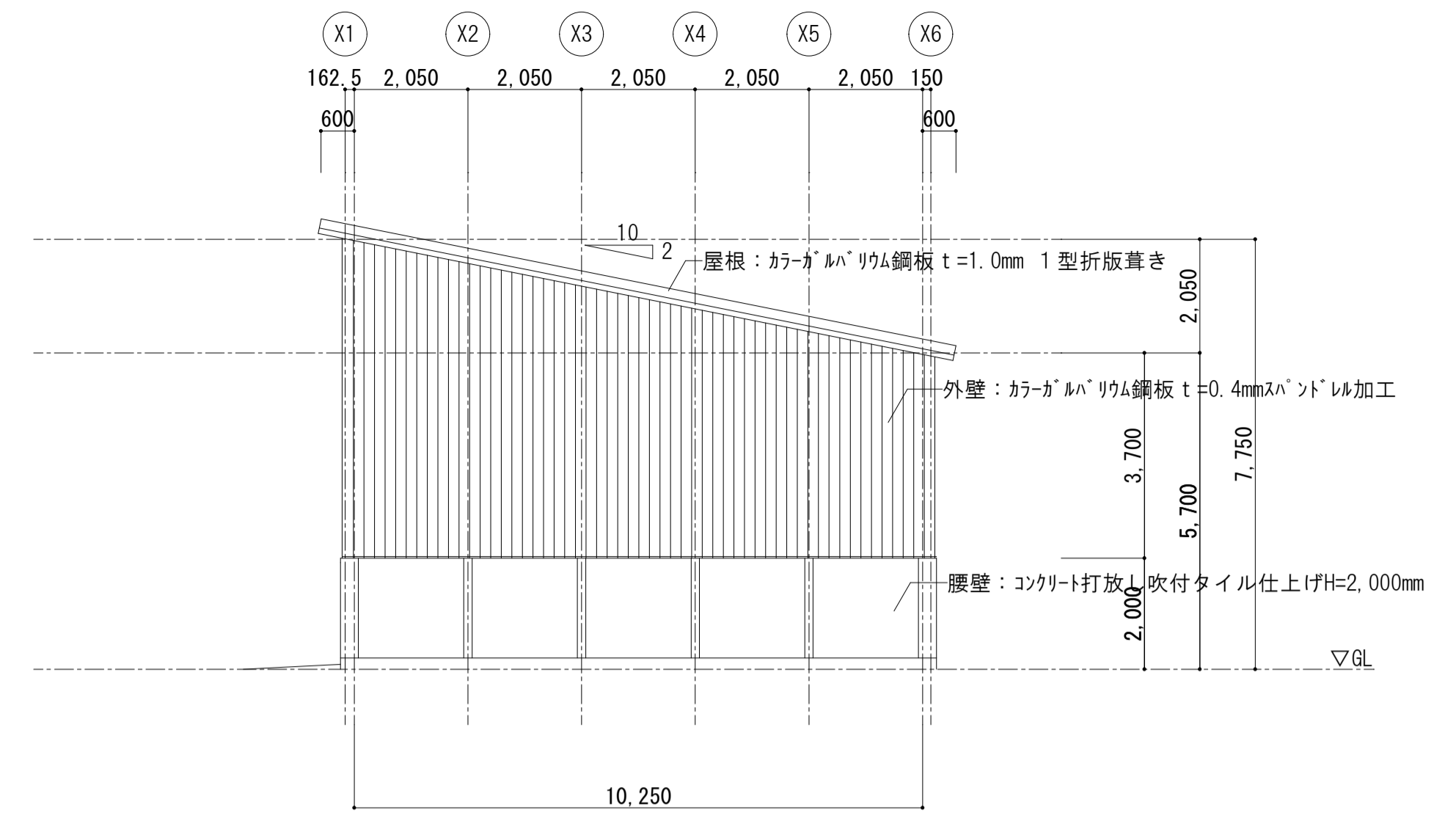
平面図 S=1:100



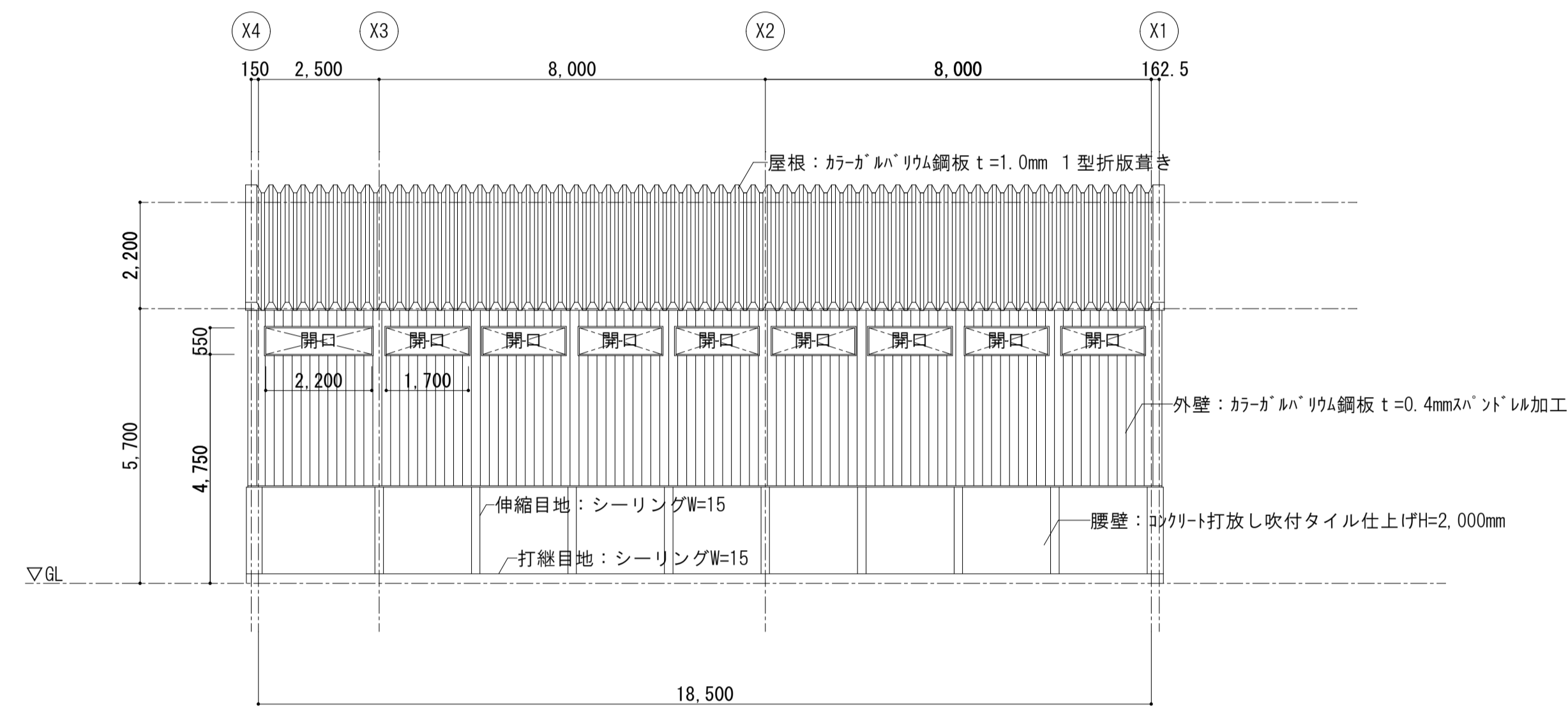
屋根伏図 S=1:100



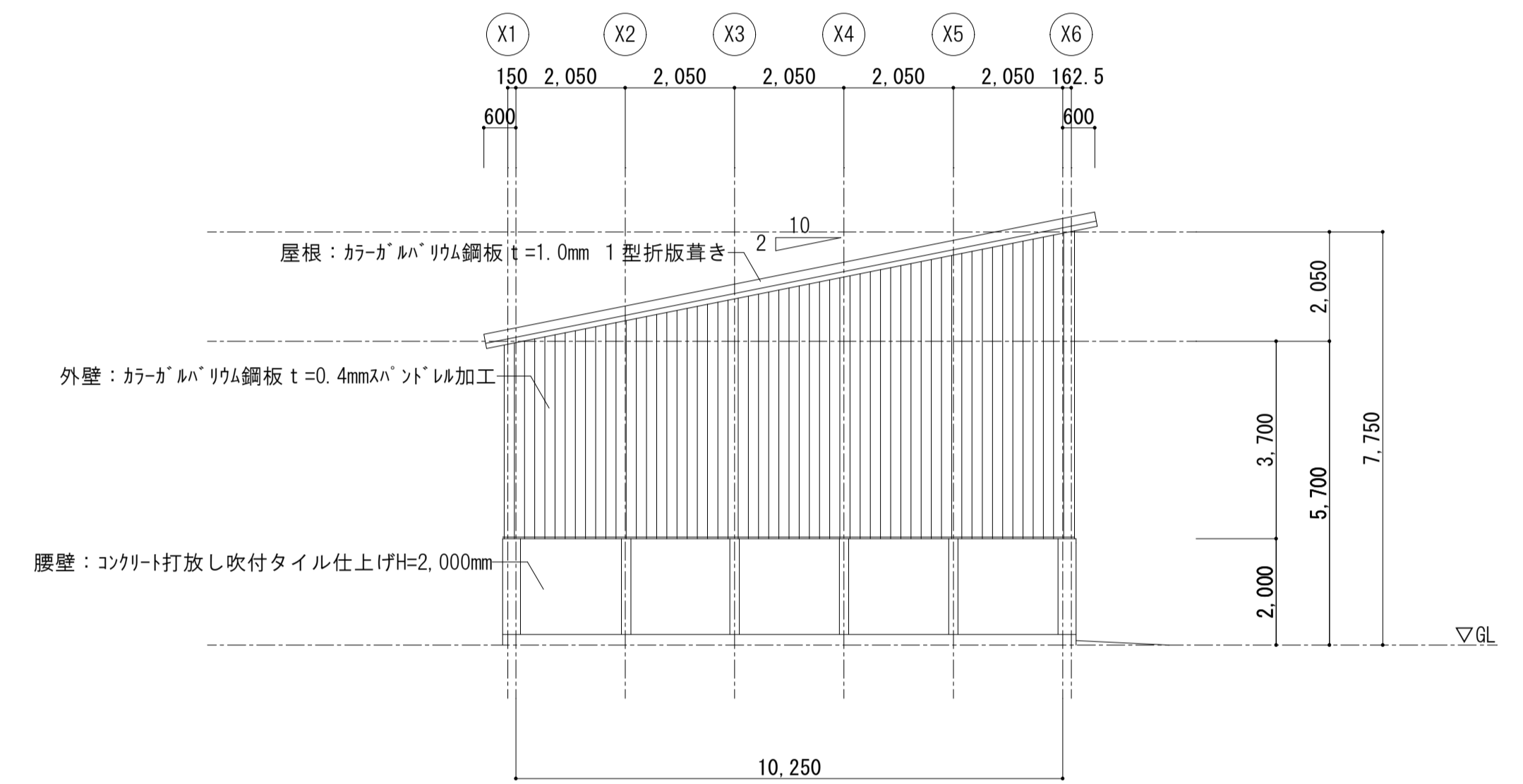
東立面図 S=1:100



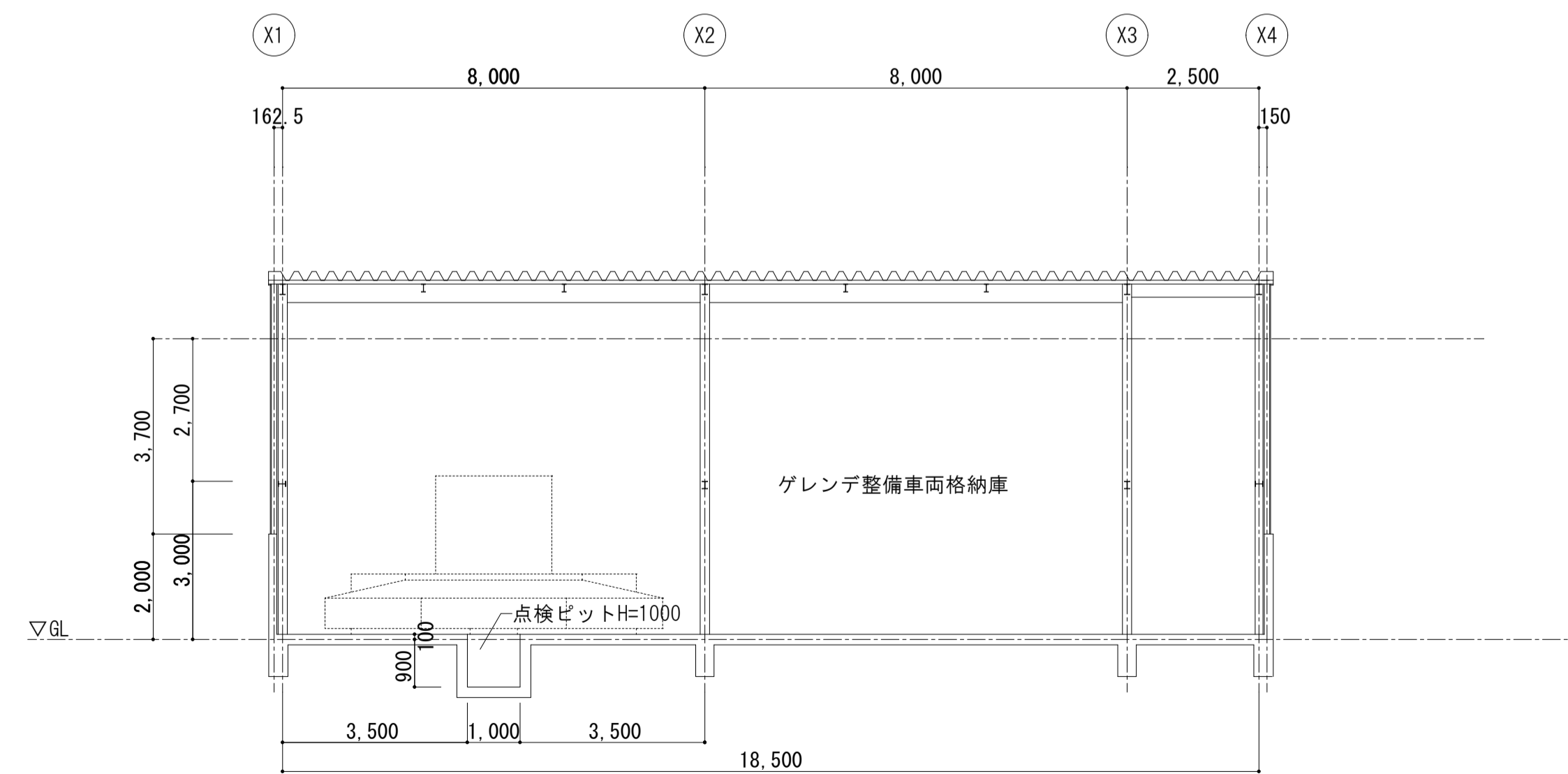
北立面図 S=1:100



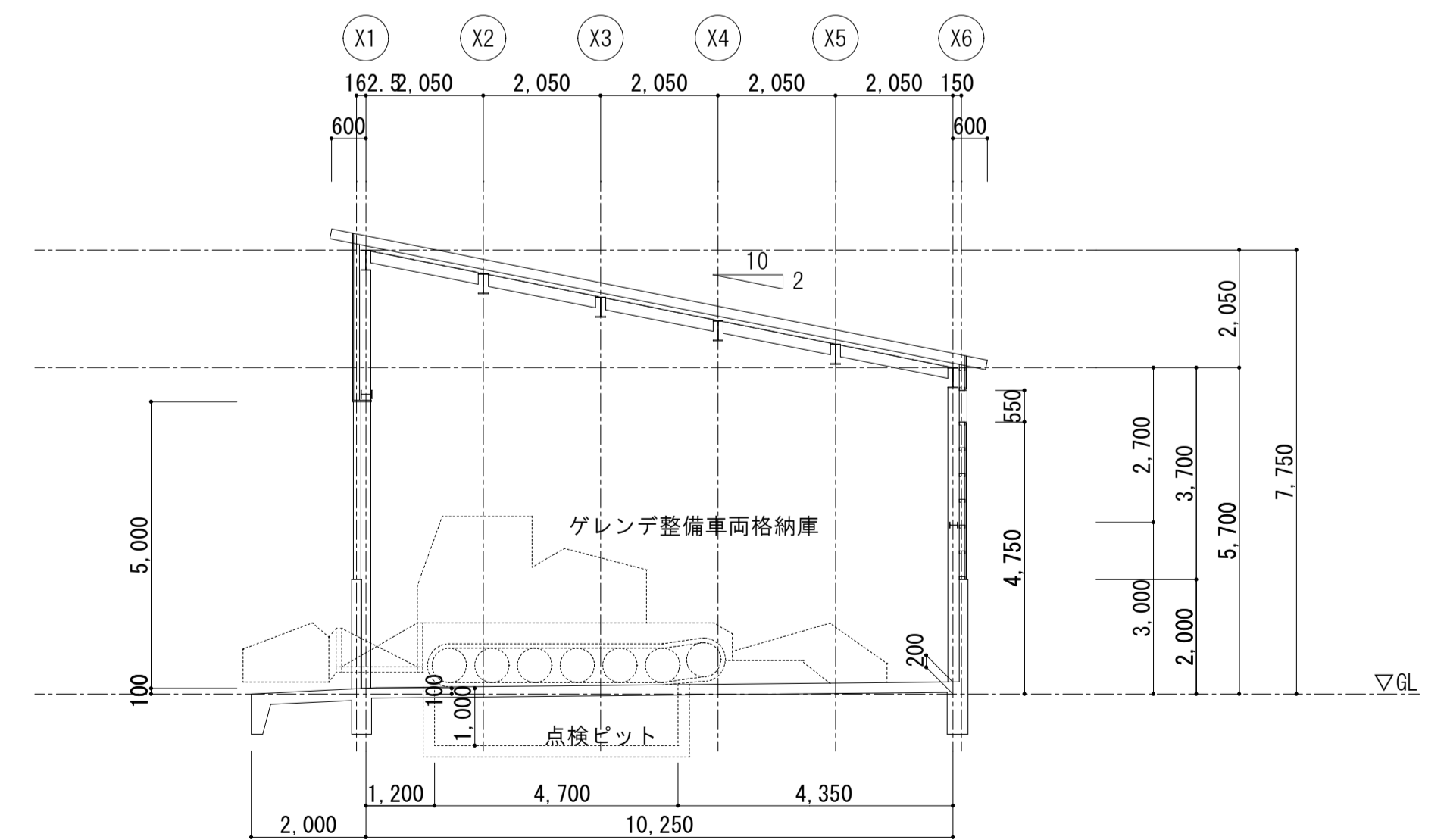
西立面図 S=1:100



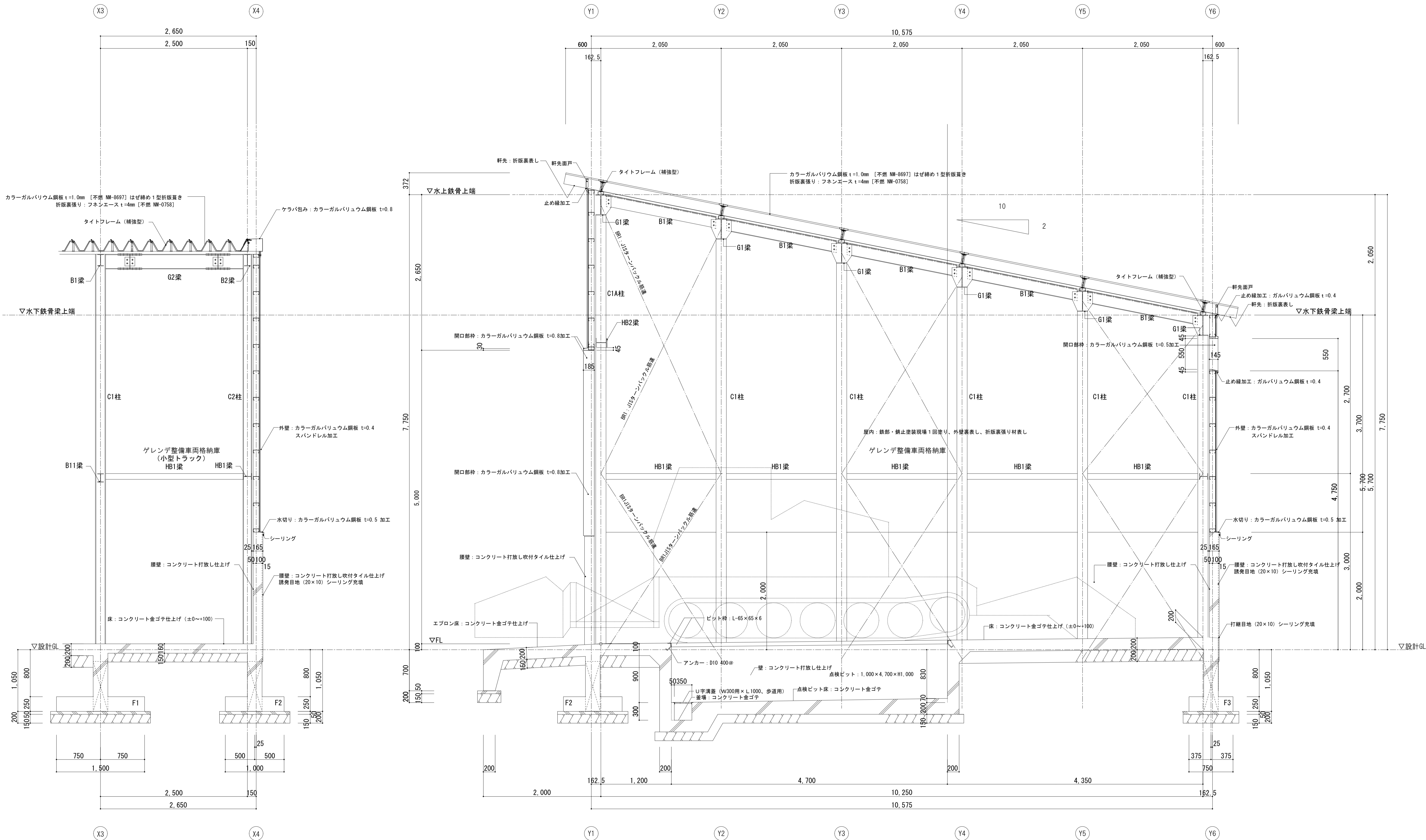
南立面図 S=1:100



東立面図 S=1:100



断面図 S=1:100



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

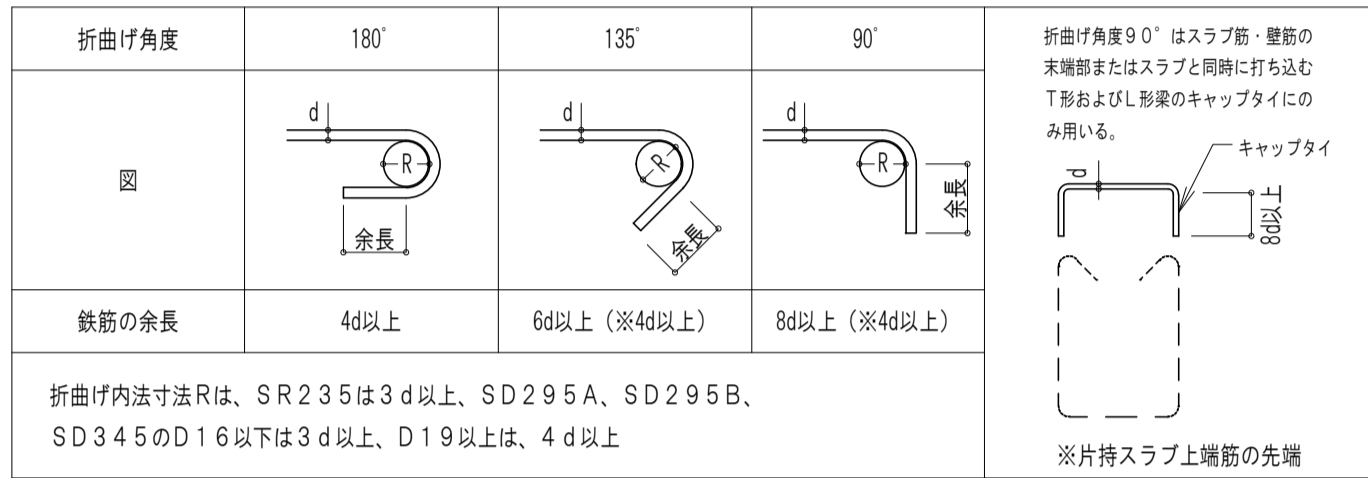
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図面に優先して適用する。

(2) 記号

d: 異形棒筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D: 部材の成 R: 直径
 @: 間隔 r: 半径 Q: 中心線 l0: 部材間の内法距離 h0: 部材間の内法高さ
 ST: あばら筋 HOOP: 帯筋 S, HOOP: 補強帯筋 φ: 直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度以下90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SD295A, SD295B, SD345	SR235, SD295A, SD295B, SD345	16φ D16 以下	3d 以上
			19φ D19 以下	4d 以上
上記以外の鉄筋	SR235, SD295A, SD295B, SD345	SR235, SD295A, SD295B, SD345	16φ D16 以下	3d 以上
			19φ~25φ D19~D25	6d 以上
			28φ~32φ D28~D32	8d 以上

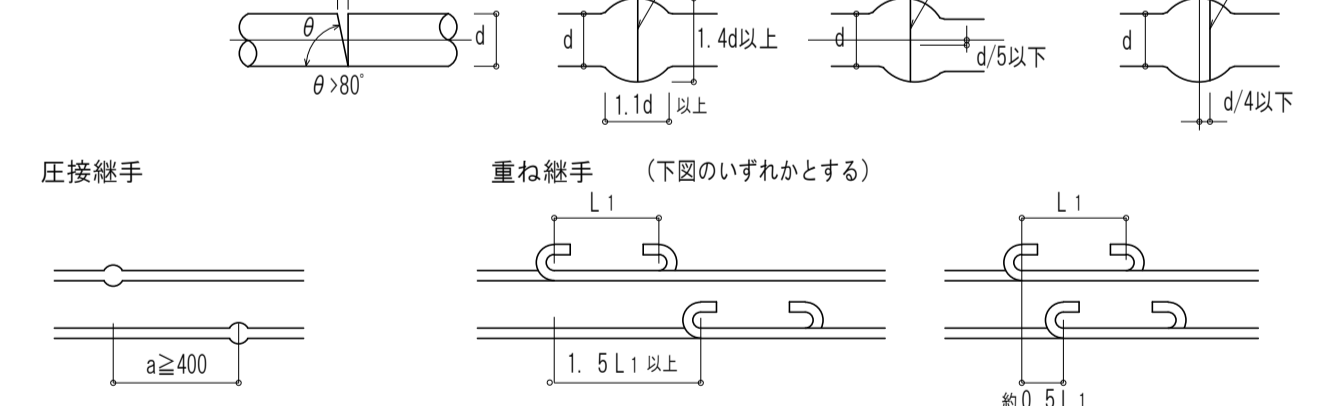
(3) 鉄筋の定着および重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般(L2)	下ば筋(L3)		
SR235	21~36	35dフックつき	小梁	スラブ	35dフックつき
			25dフックつき	15cmフックつき	
SD295A SD295B SD345 SD390	21~36	35dまたは25dフックつき	小梁	スラブ	45dまたは30dフックつき
			25dまたは15dフックつき	10dかつ15cm以上	

継手

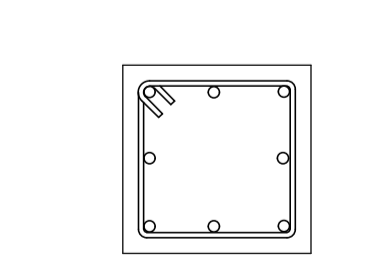
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接の形状



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ防止目的など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても、最少かぶり厚さを確保する。

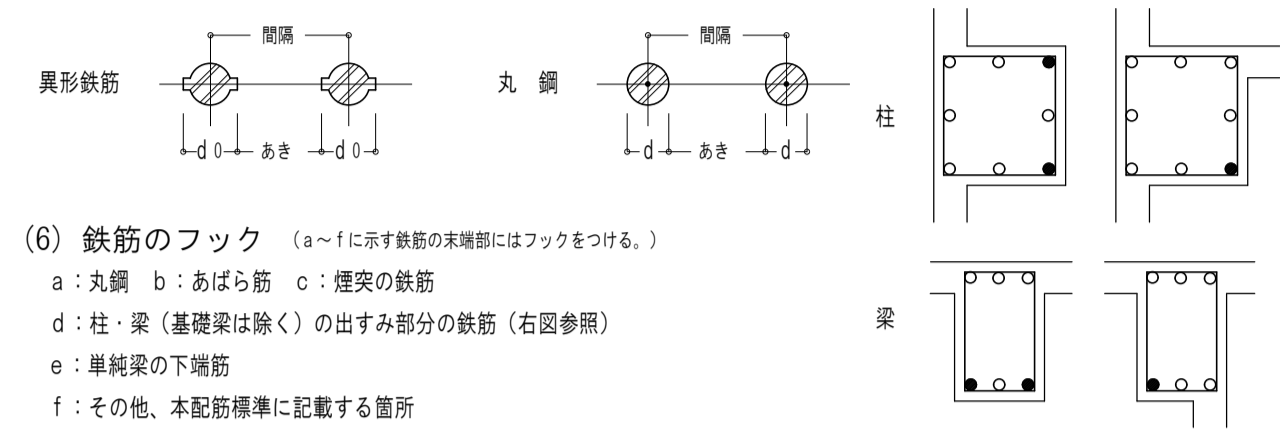


部	位置	設計かぶり厚さ(mm)	最少かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	屋根スラブ	30	20
	床スラブ	40	30(20)
	非耐力壁	40	30
	柱	40	30
土に接する部分	はり	50	40(30)
	耐力壁	50	40
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50	40
	基礎・擁壁	70	60

- 注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
 (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 (5) () 内は仕上げがある場合。

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5倍以上
 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

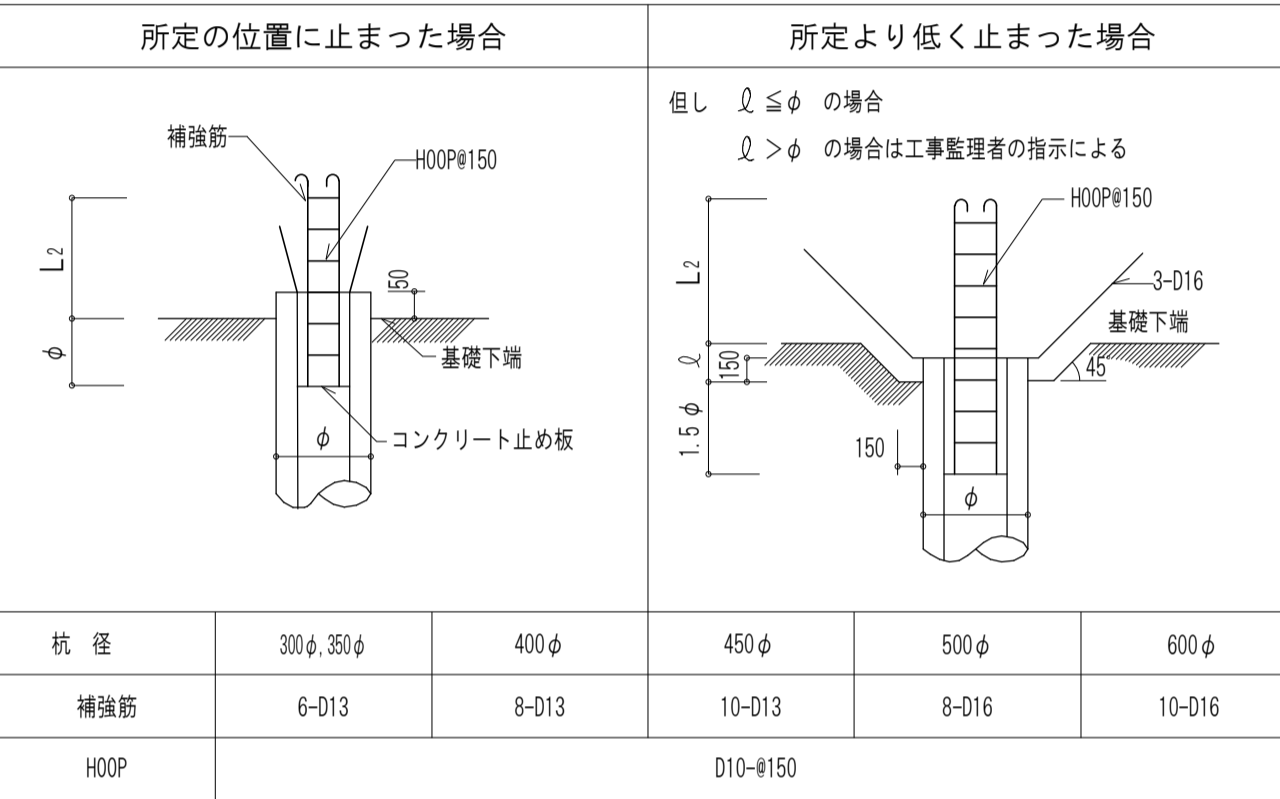


(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックをつける。)

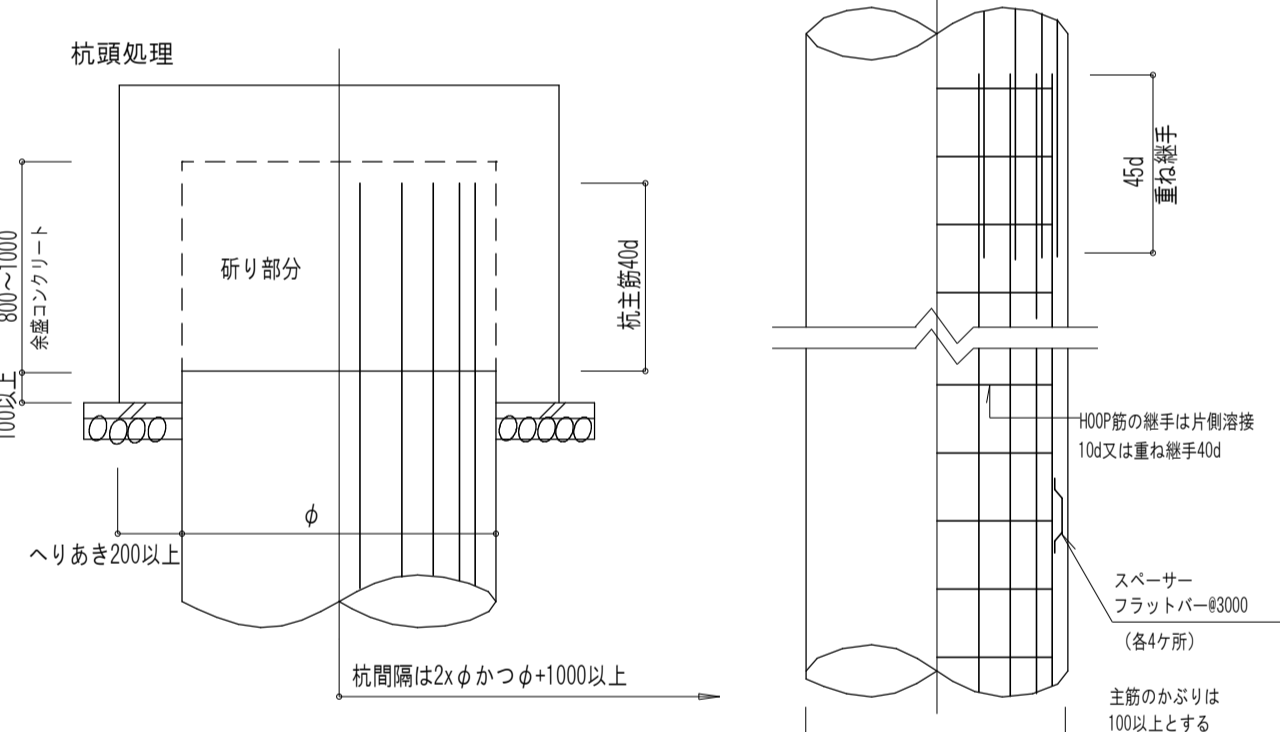
a: 丸鋼 b: あばら筋 c: 耐力の鉄筋
 d: 柱・梁 (基礎梁を除く) の出す部分の鉄筋 (右図参照)
 e: 基礎梁の下端筋
 f: その他、本配筋標準図に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う ※補強方法は別途記載

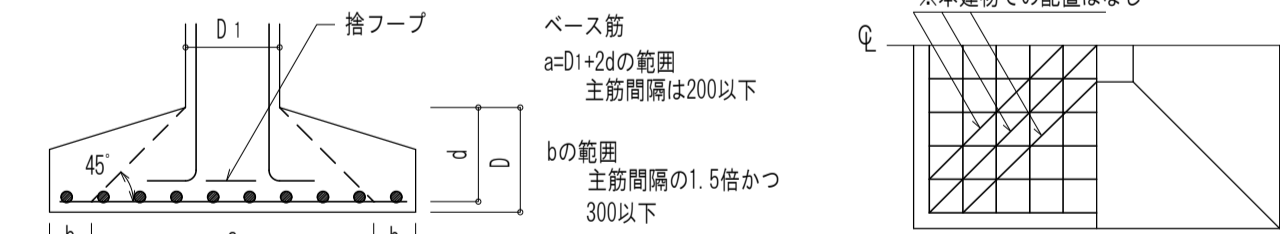


(2) 現場打ちコンクリート杭

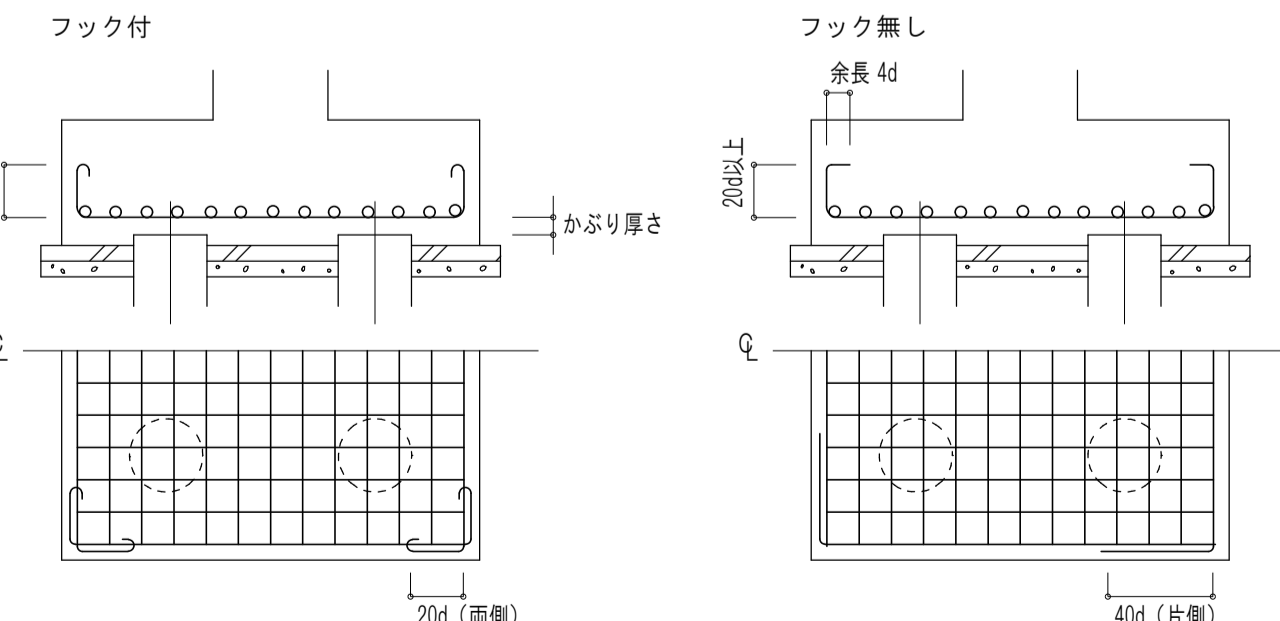


4. 基礎

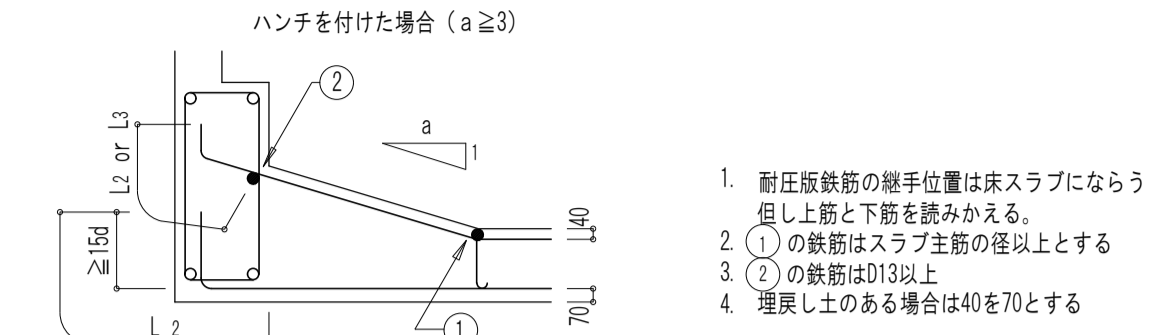
(1) 直接基礎



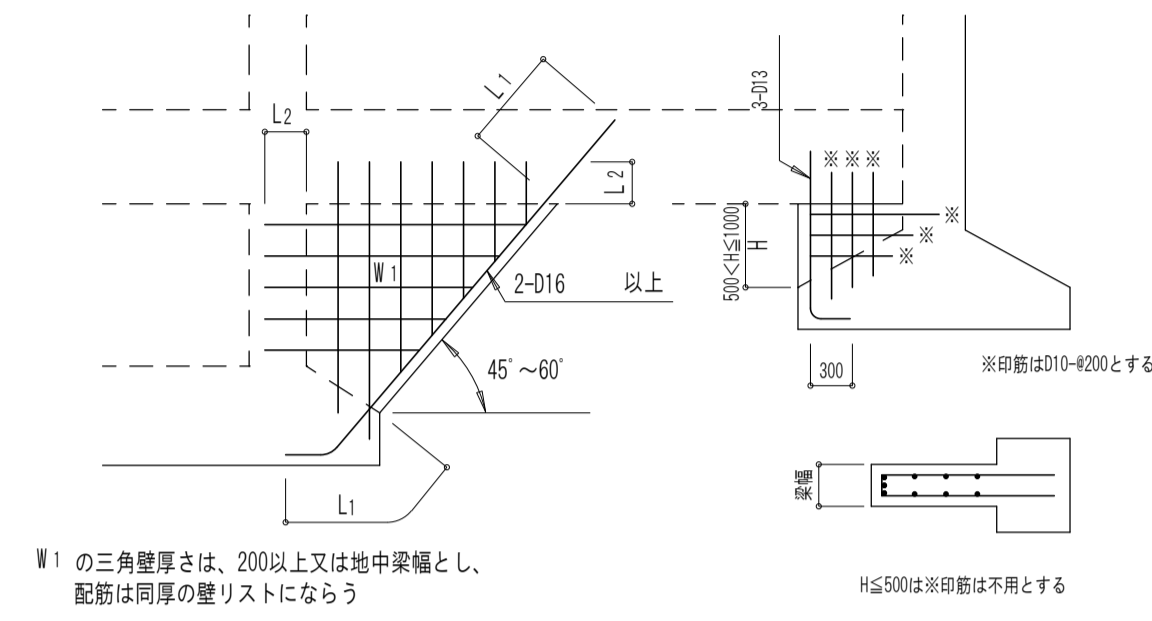
(2) 杭基礎



(3) べた基礎

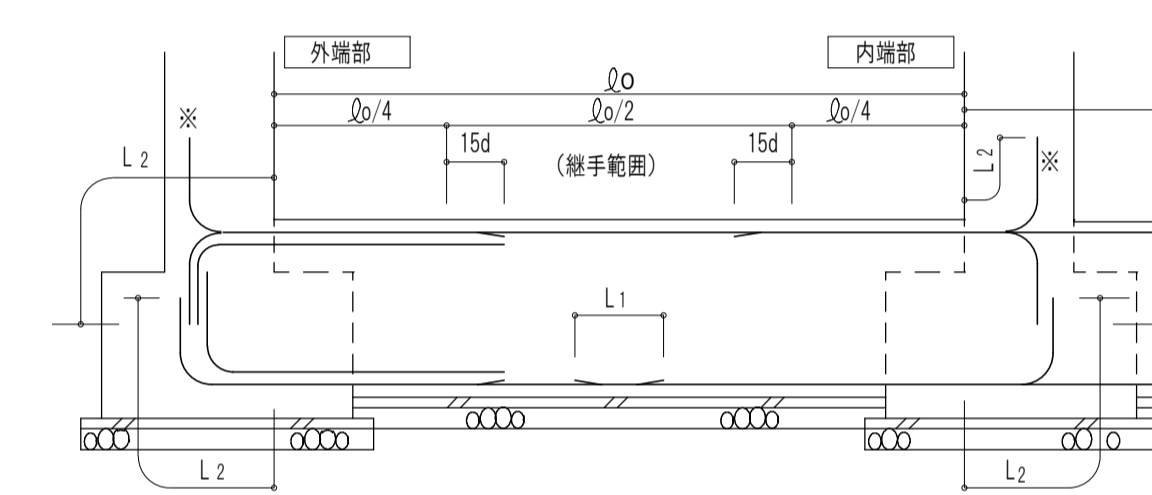


(4) 基礎接合の補強

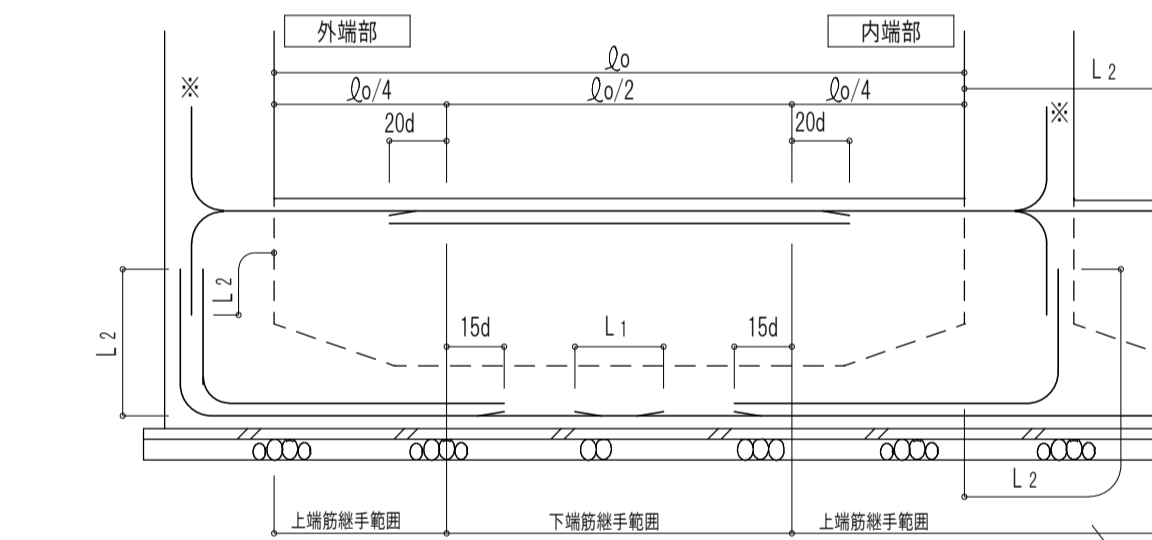


5. 地中梁

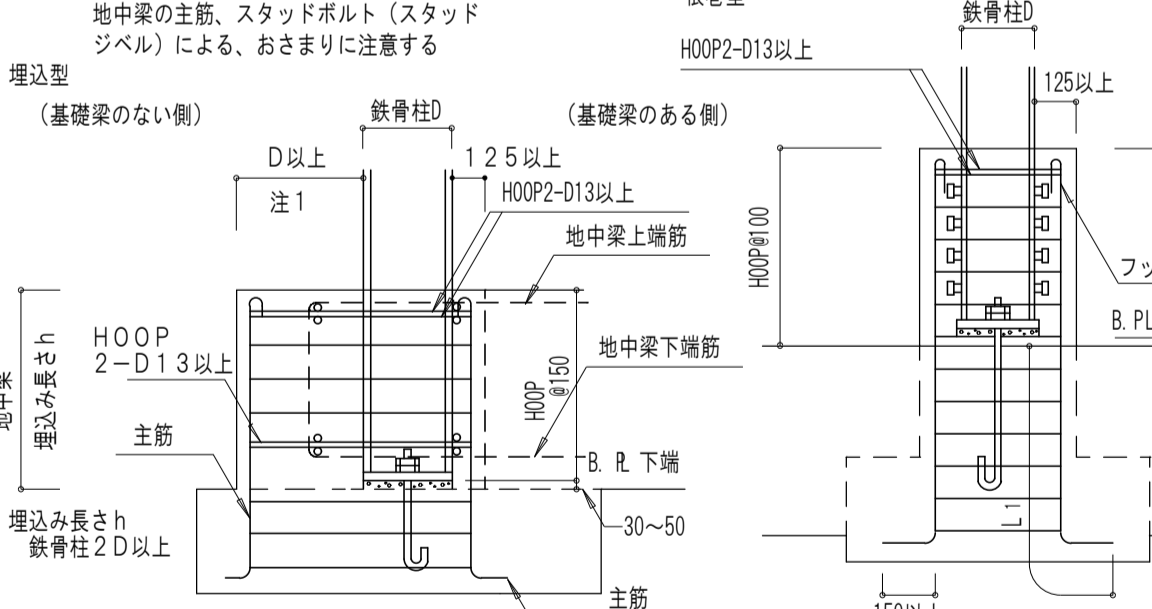
(1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



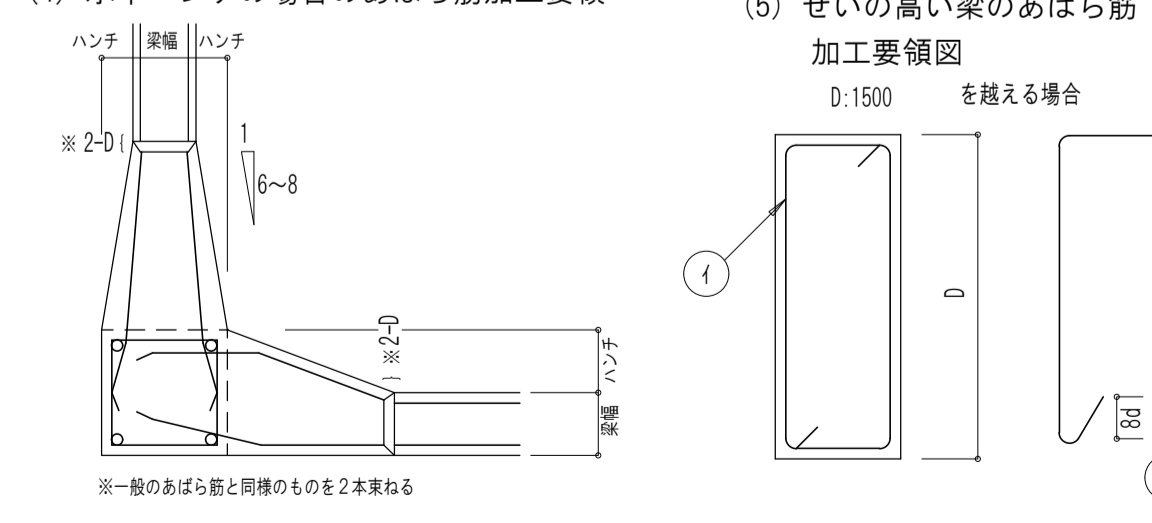
(2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

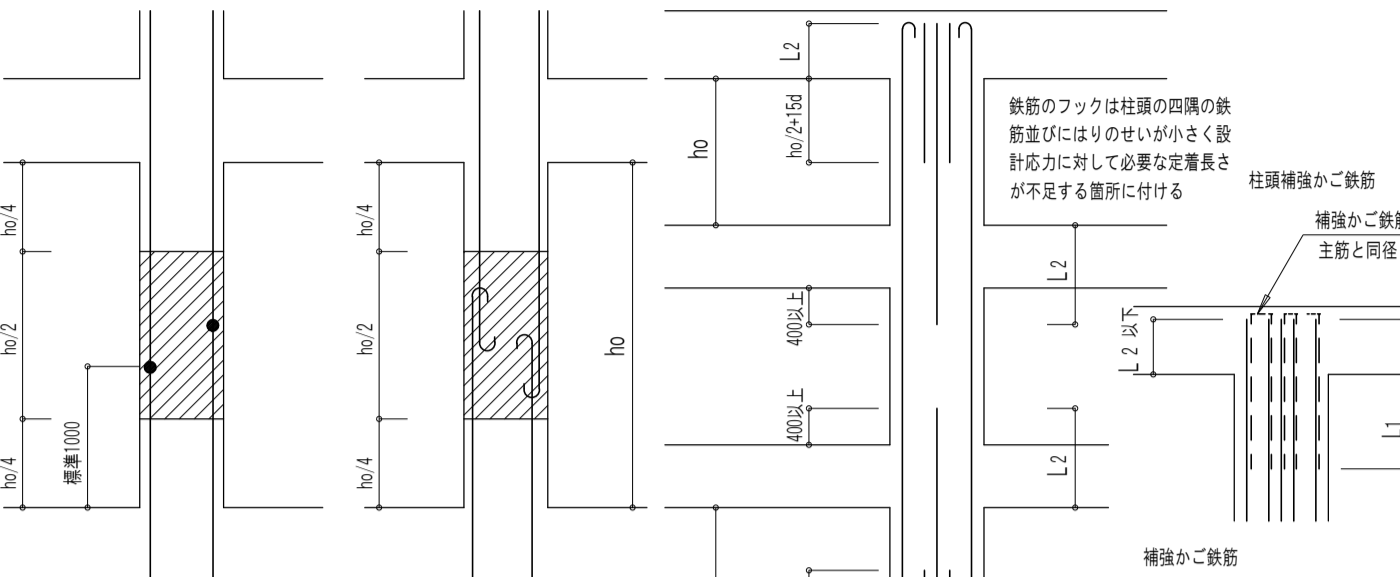


(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

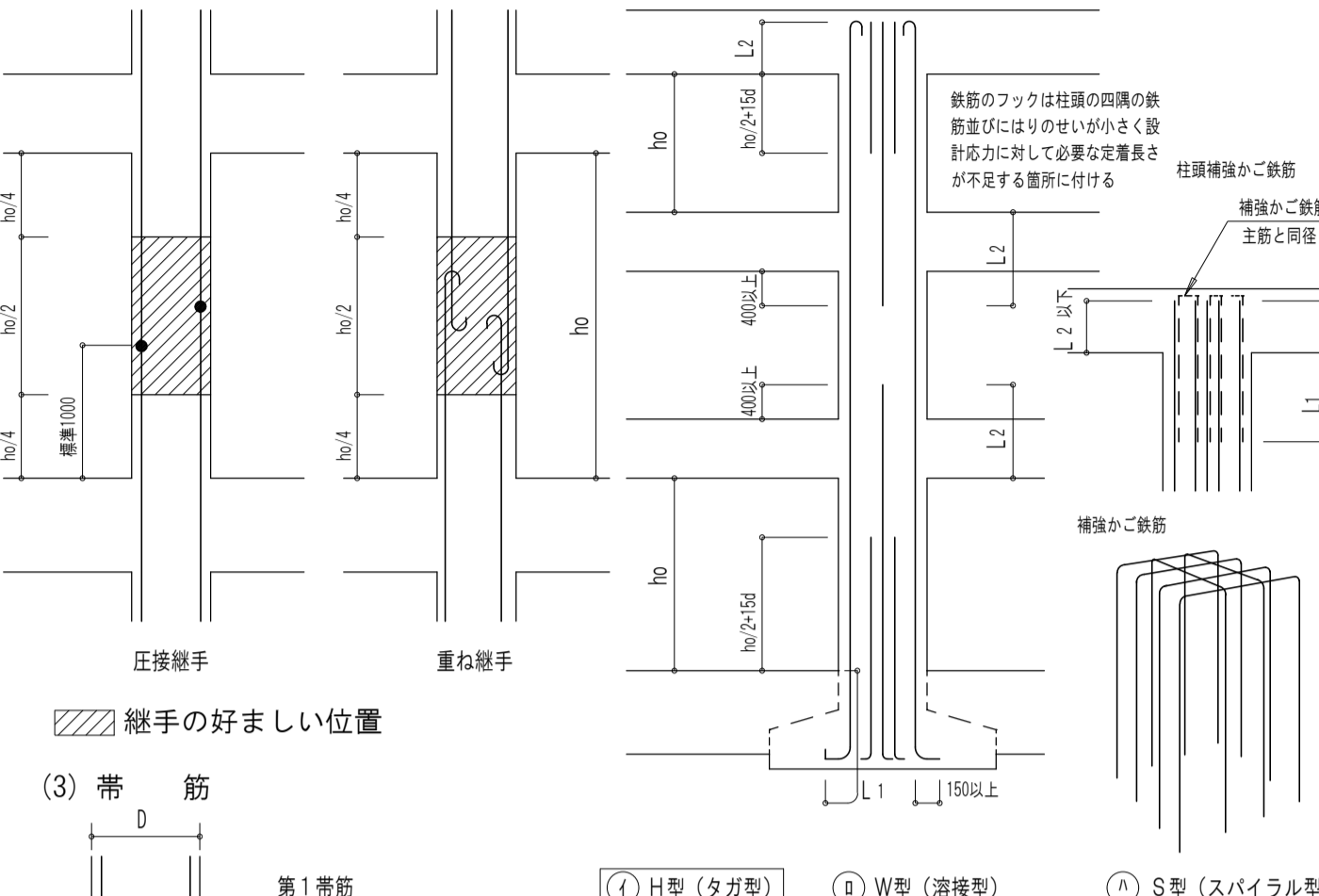


6. 柱

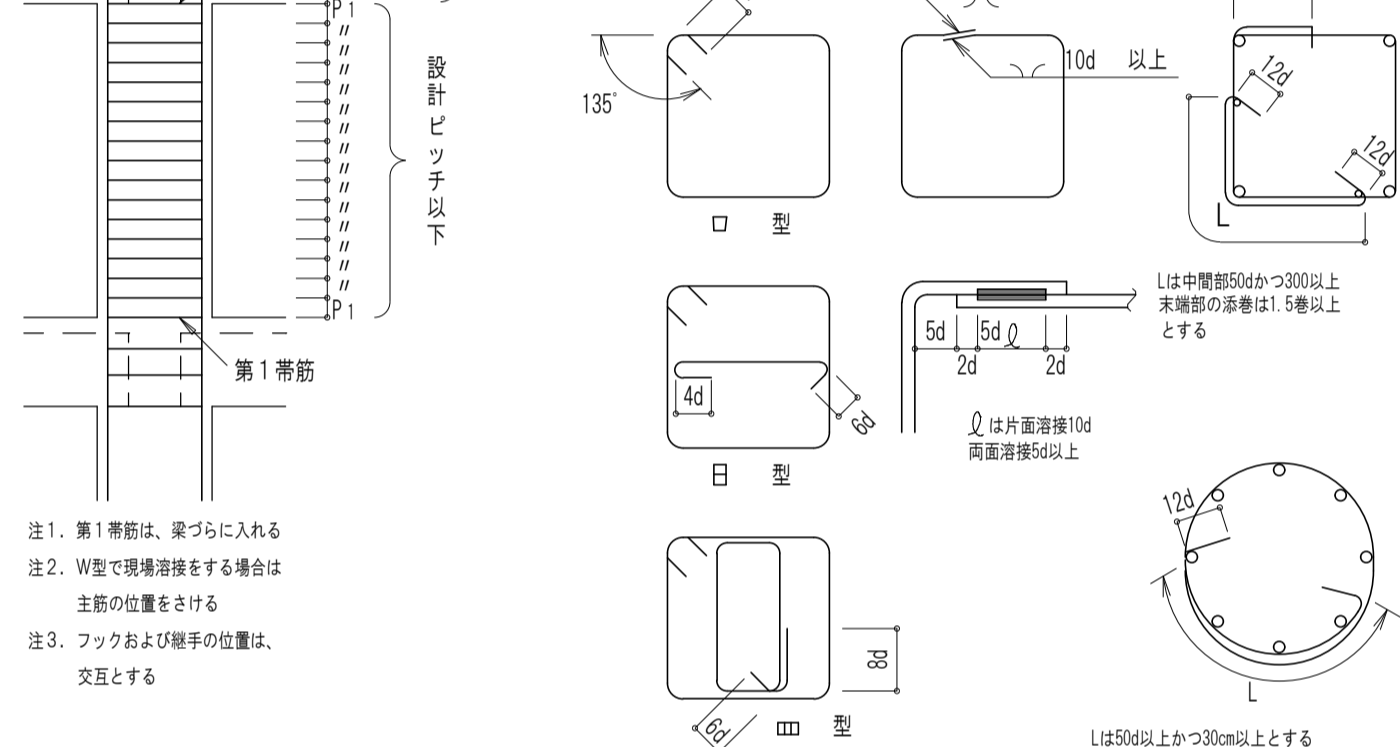
(1) 柱主筋の継手



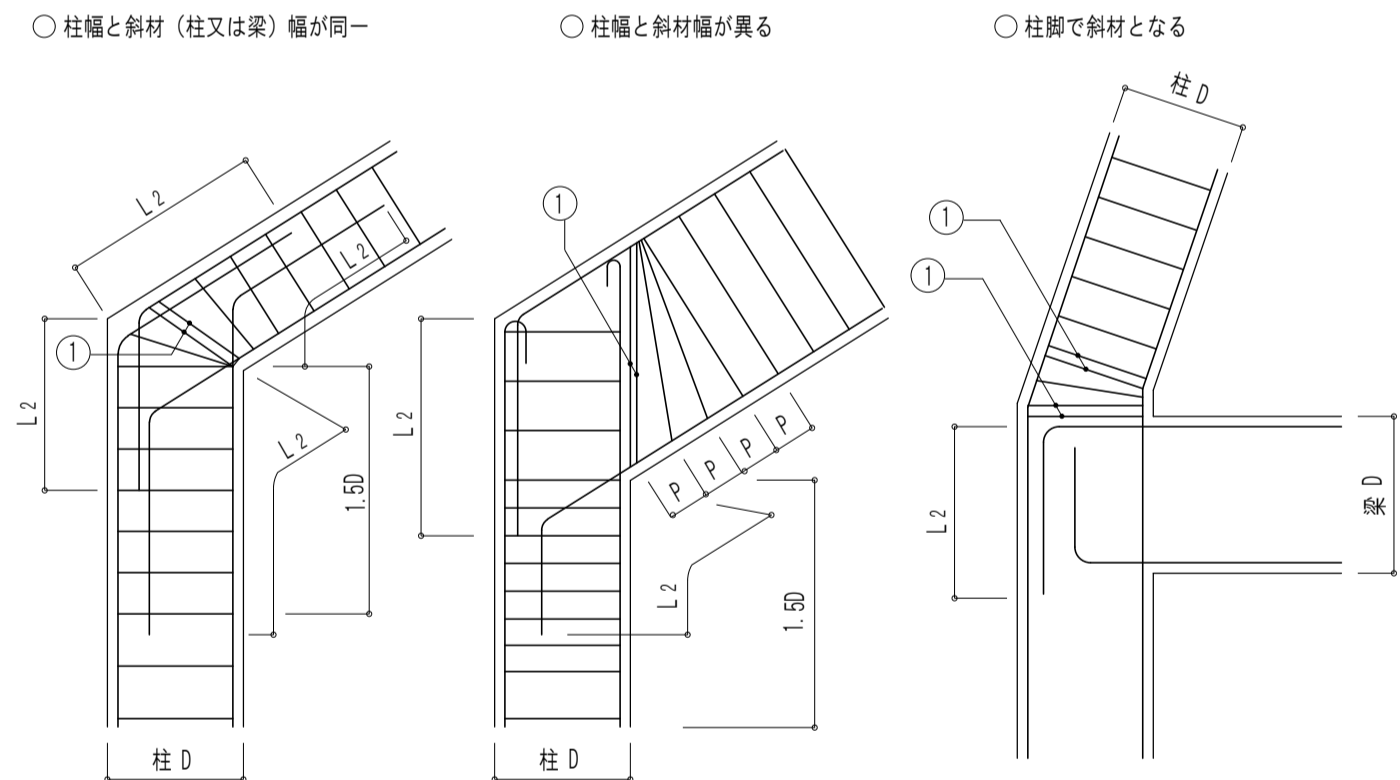
(2) 柱主筋の定着



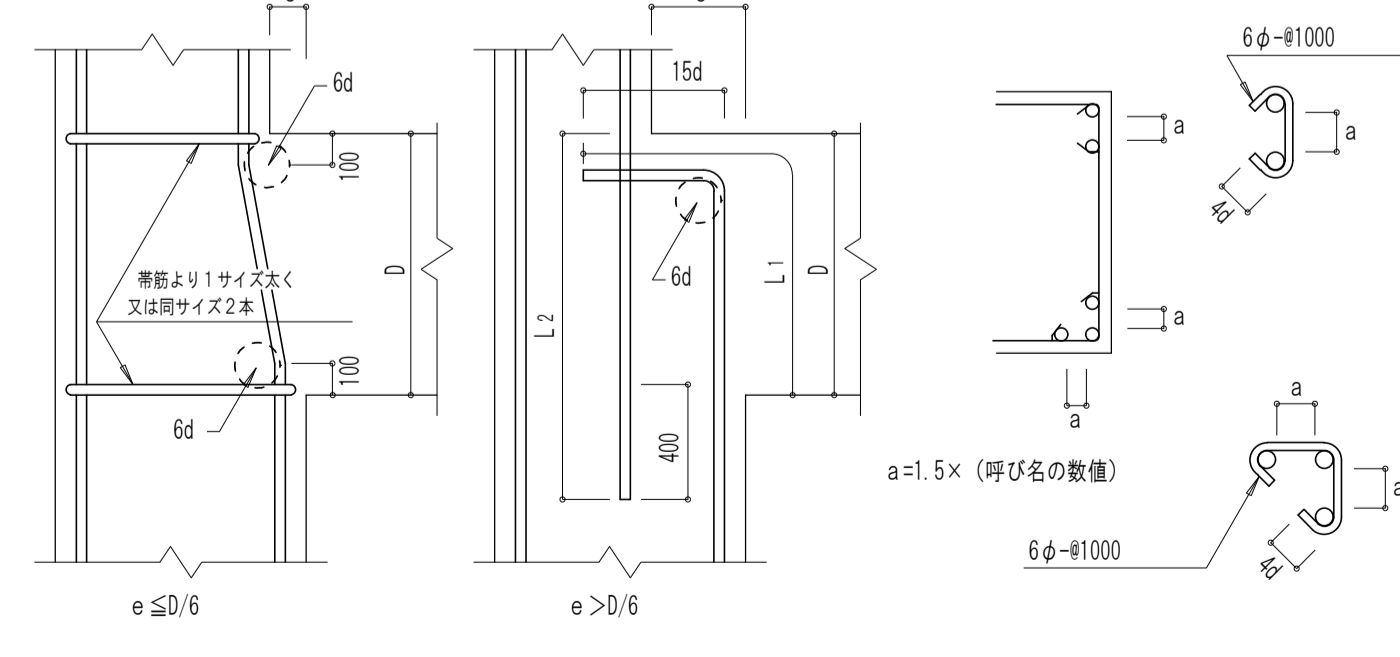
(3) 帯筋



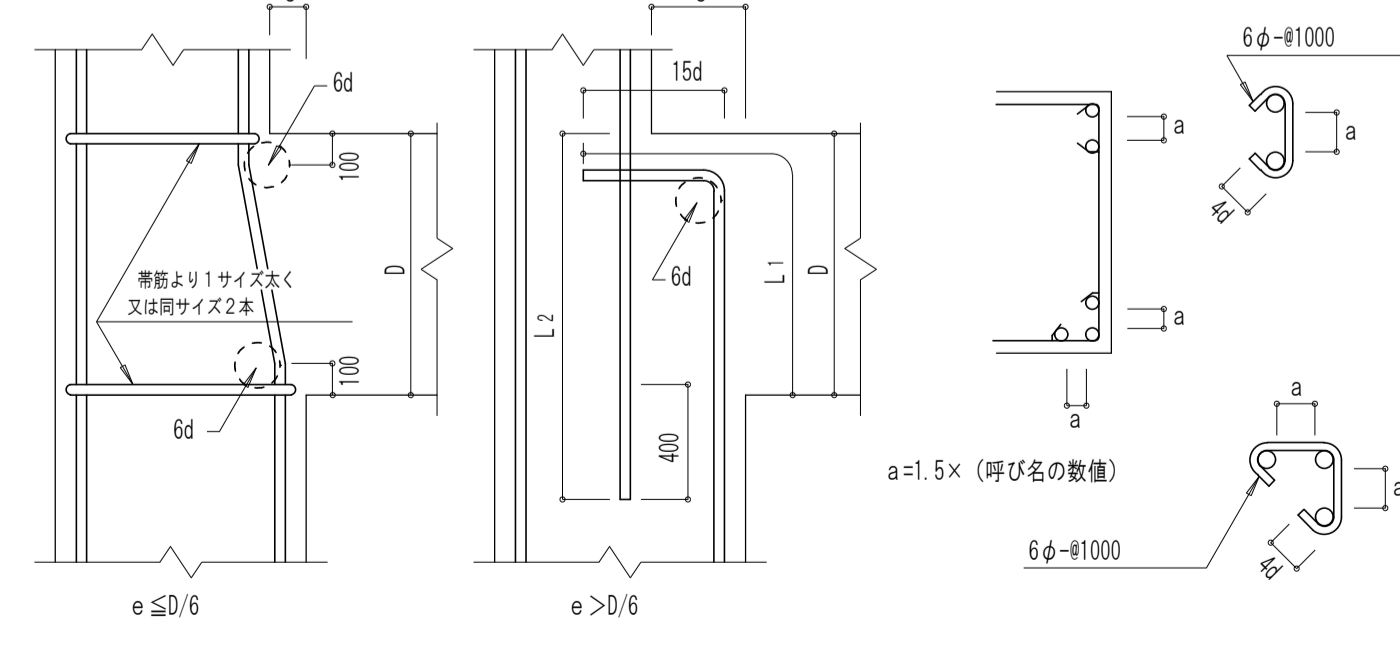
(4) 斜め柱・斜め梁



(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

L₀ = 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

① 大梁

② 小梁の定着

③ 片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置

(4) あばら筋の型

(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	D < 600 不要
	600 ≤ D < 900 2-D10(9φ) 1段
	900 ≤ D < 1200 4-D10(9φ) 2段
	1200 ≤ D D10(9φ) #300以内
幅止め筋	D10(9φ) #1000以内で割り付ける

8. 床板

(1) 定着および継手

① 片持床スラブ

② 一般床スラブ

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

(4) 床板開口部の補強

(5) 床板段差

(6) 土間コンクリート

① 軽作業の土間

② 間仕切壁との交叉部

(7) 金場

(8) 打継ぎ補強

9. 壁

(1) 定着

① 梁に

② 柱に

③ 床に

(2) スリット部

(3) 手摺、パラベット

(4) コンクリートブロック積壁

10. 柱、梁増打コンクリート補強

(1) 柱

(2) 梁

- 補強筋は、梁主筋の1段階(φ16以上)とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋φ10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- φ2000の場合補強筋を3本とする。
- φは100~200程度。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

(2) 鉄筋標準配筋

80 ≤ φ ≤ 100	100 < φ ≤ 150	150 < φ ≤ 250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13)
縦筋 ST 2-D13	縦筋 ST 2-D13-100#	縦筋 ST 2-D13-100#
	横筋 2-(2-D13)	横筋 2-(2-D13)
		上下縦筋 ST 2-D13

(3) 既製品

● リング型 □ バイプ型 □ 金網型 □ プレート型

12. 増築予定

(1) 柱、梁 (2) 地中梁 (3) 床版、壁

鉄骨構造標準図(2)

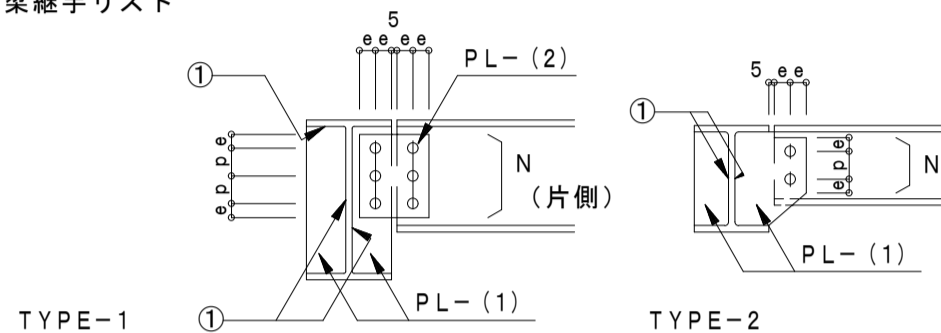
3. 継手規準図、その他

(1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)					ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小	標準	
M16	18.0	40	28	22	40	40	60	
M20	22.0	50	34	26	40	50	60	
M22	24.0	55	38	28	40	55	60	
M24	26.0	60	44	30	45	60	70	

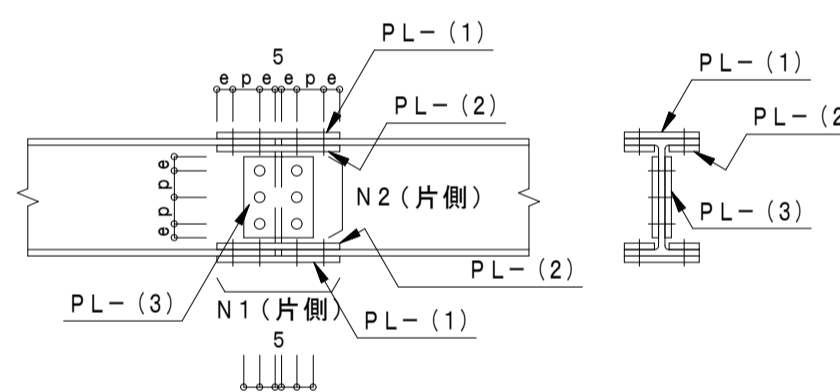
[注] (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
 (2) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこぎり線・機械仕上線の場合の縁端距離

(2) ピン接合継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
部材リストによる					

(3) 剛接合継手リスト

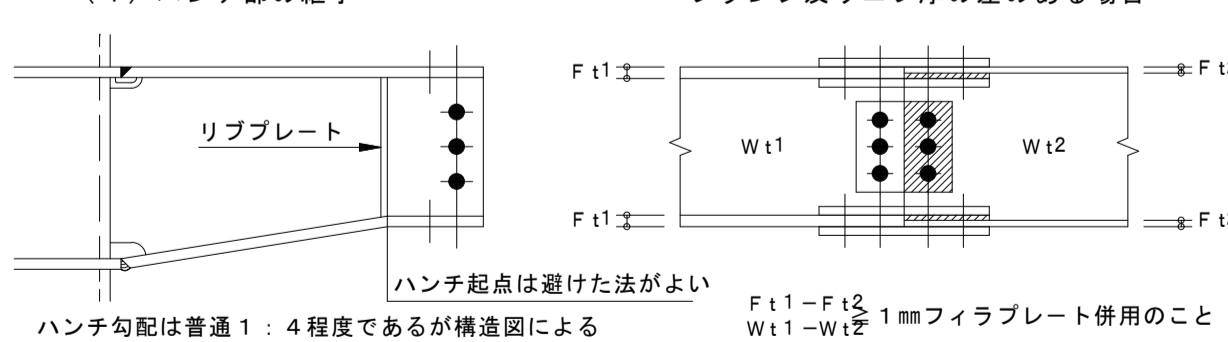


注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
部材リストによる						

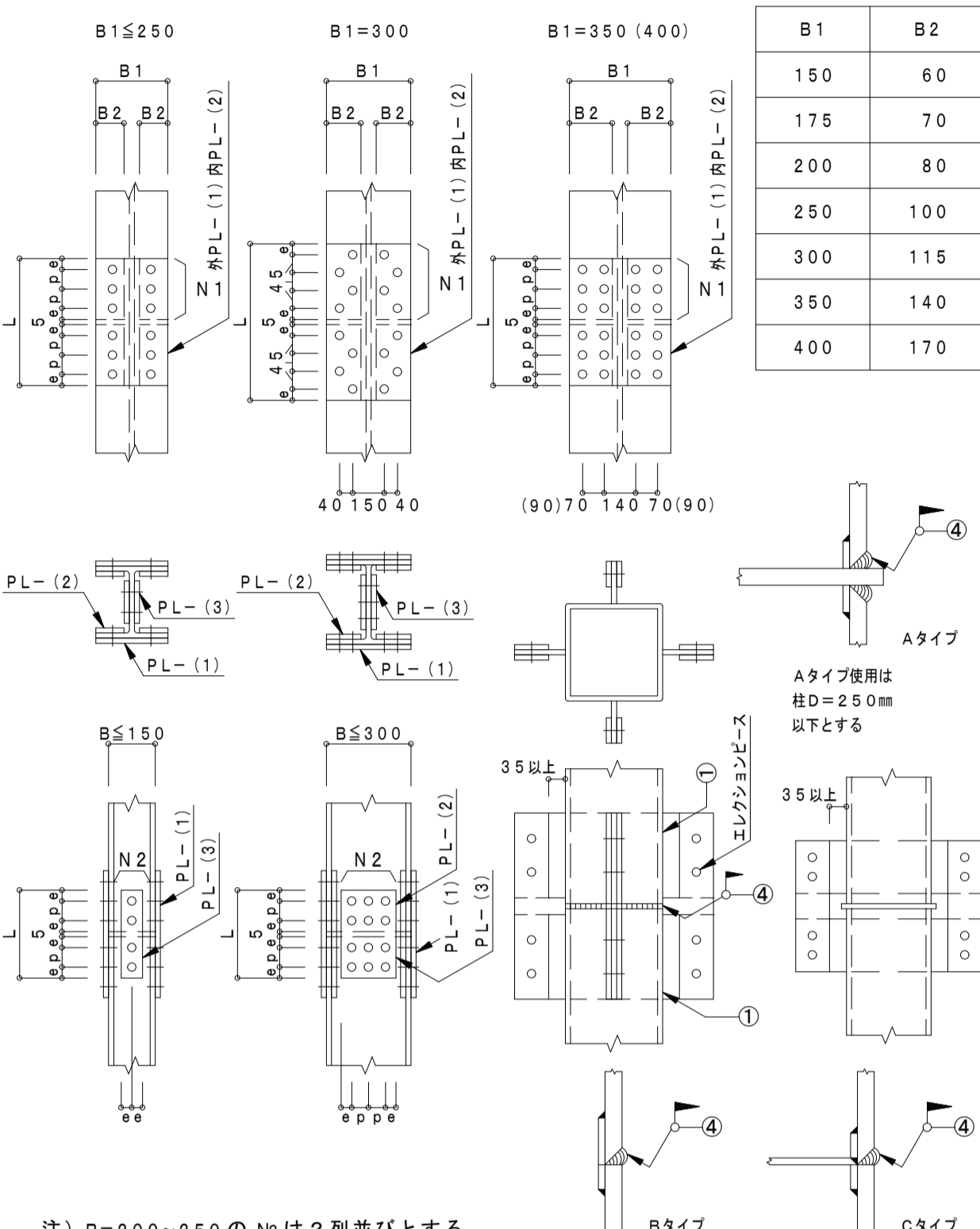
(4) ハンチ部の継手

フランジ及ウェブ厚の差がある場合



ハンチ勾配は普通 1 : 4 程度であるが構造図による
 ハンチ起点は避けた法がよい
 $Ft1 = Ft2$
 $Wt1 = Wt2$
 1mmフィラプレート併用のこと

(5) 柱継手リスト



注) B=200~250のN2は2列並びとする
 注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%を行う

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
部材リストによる						

(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする...JISA5540~5542~2003)

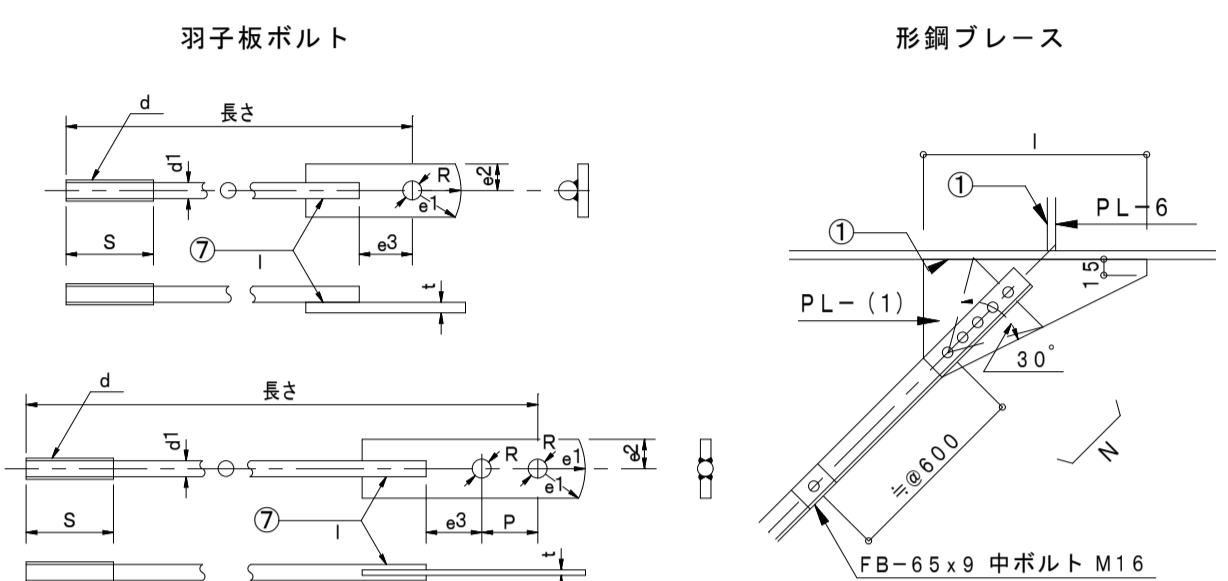
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24		
								最大	最小
最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99		
最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77		
調整ねじの長さ S	100	115	125	140	150	165	175		
取付ボルト穴径 許容差 ±0. -0.5mm R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5		
はしあき (最小) (2) e1	3.5	4.0	4.5	5.0	5.0	5.5	5.0		
へりあき (最小) (1) e2	2.2	2.8	2.8	3.4	3.4	3.8	3.8		
切板製 板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9		
平鋼製 へりあき (最小) (1) e2	1.9	2.5	2.5	3.2.5	3.2.5	3.7.5	3.7.5		
平鋼製 板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9		
ボルト端から取付ボルト穴心のあき (最小) e3	4.7	5.2	5.9	6.6	6.6	7.3	7.0		
溶接長さ (最小) l	4.0	5.0	5.5	6.0	7.5	8.5	8.5		
種類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は								
	JIS B 1180 中8g10.9								
ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20		
本数	1	1	1	1	1	1	2		

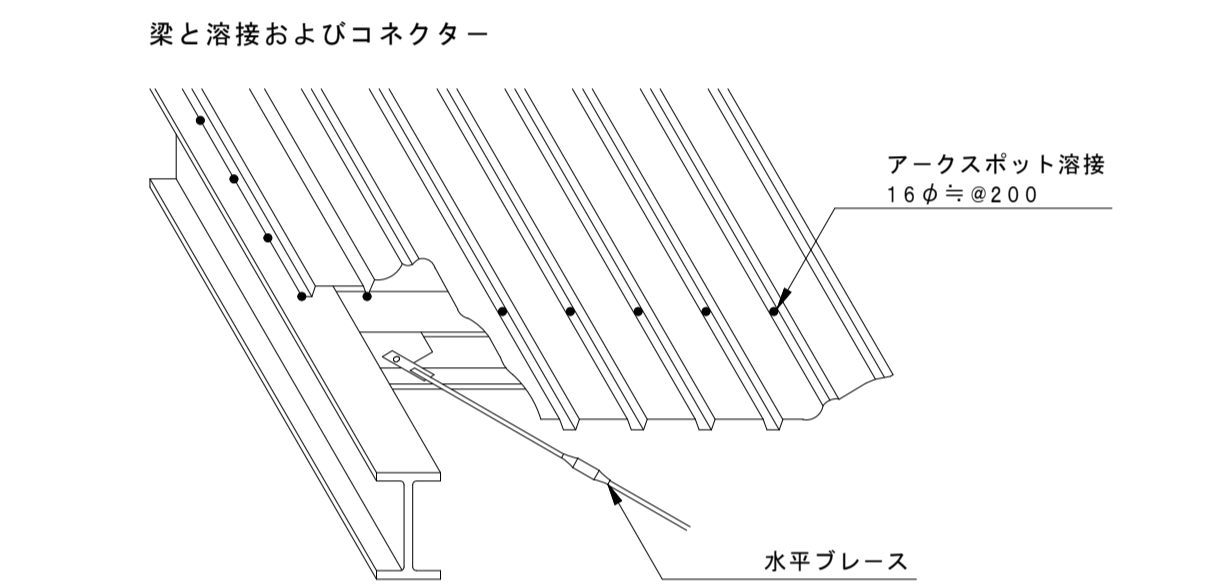
注) (1) e1, e2が確保されていれば形状は自由でよい
 (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支持) 接合とする

(b) 形鋼ブレース

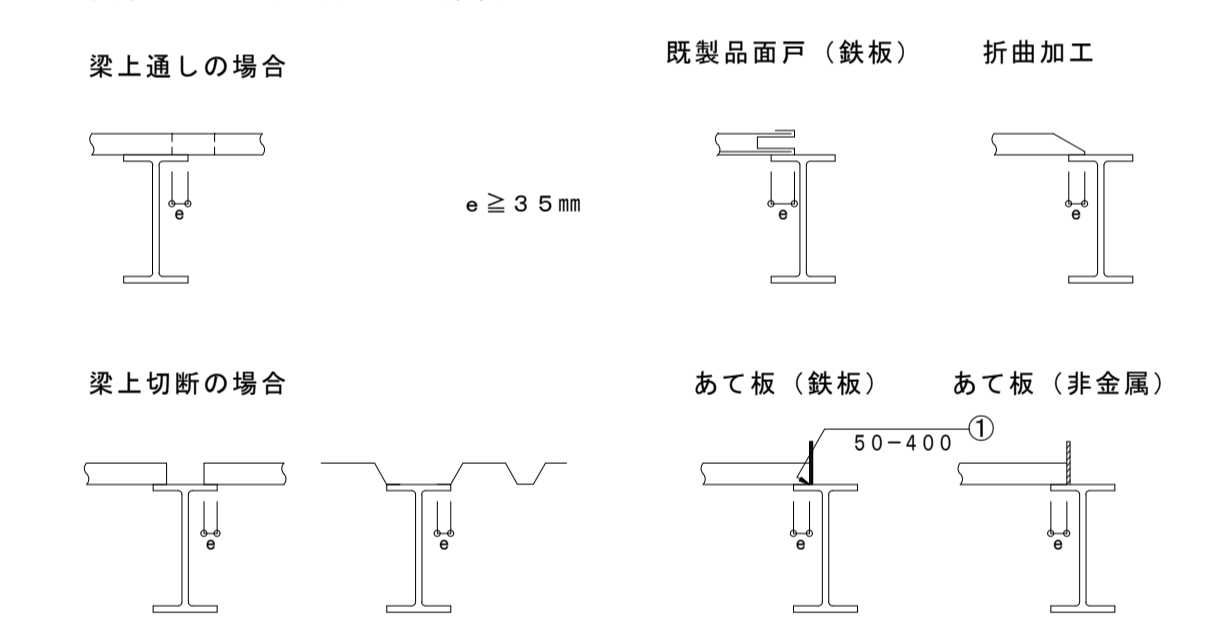
符号	部材	PL-(1)	N-径	l
部材リストによる				



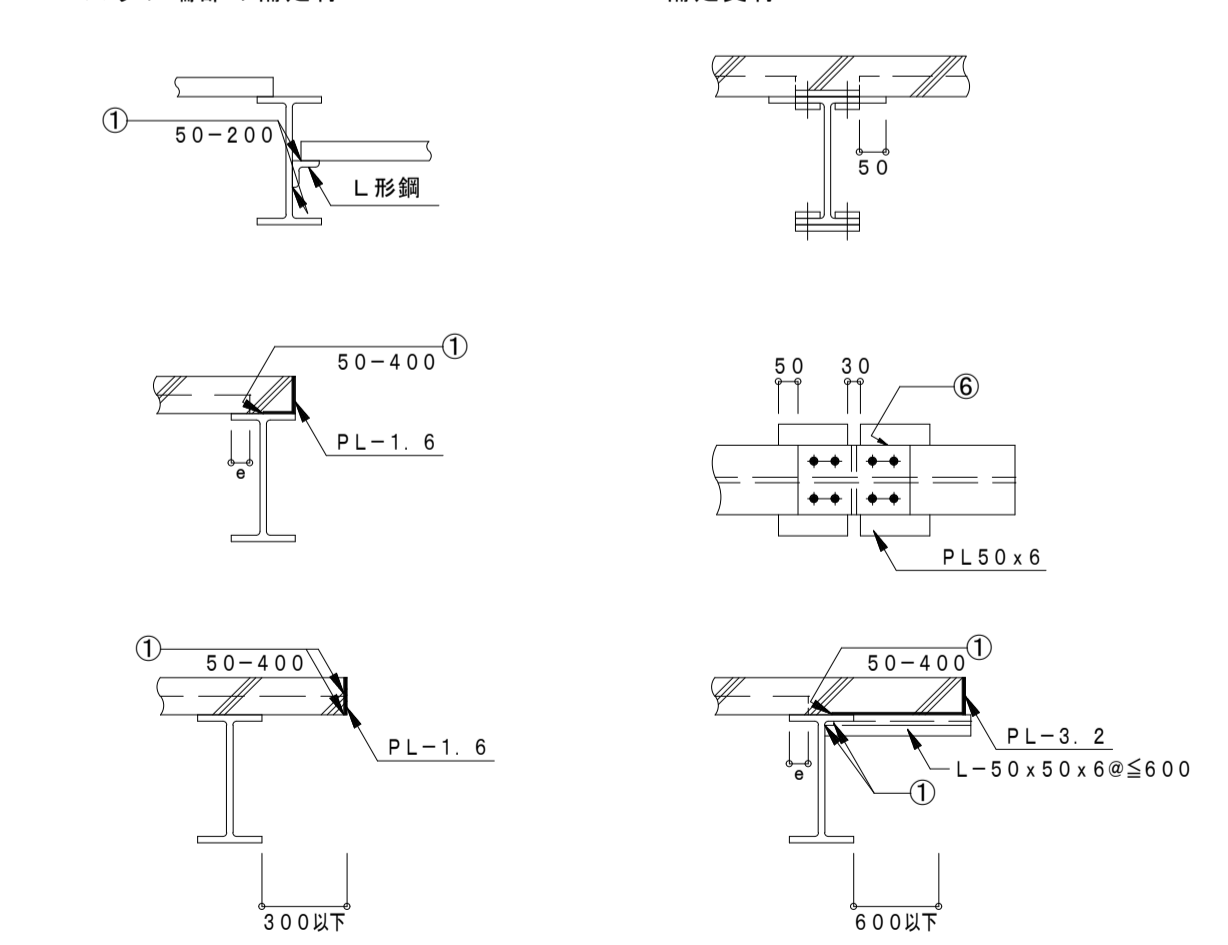
(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照) 梁と溶接およびコネクター



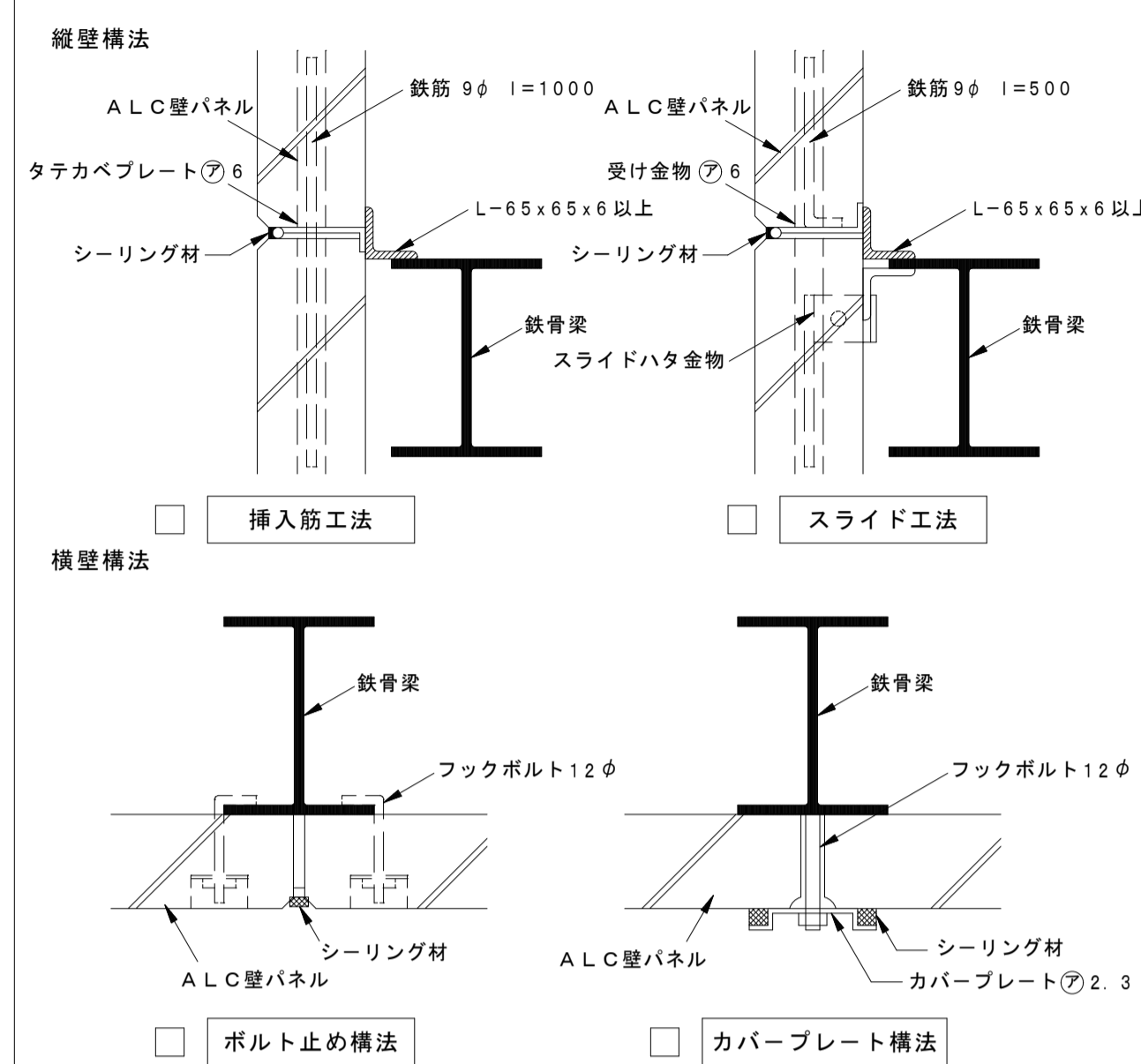
受梁へのかかり寸法および端部処理



スラブ端部の補足材



(8) ALC板取付要領

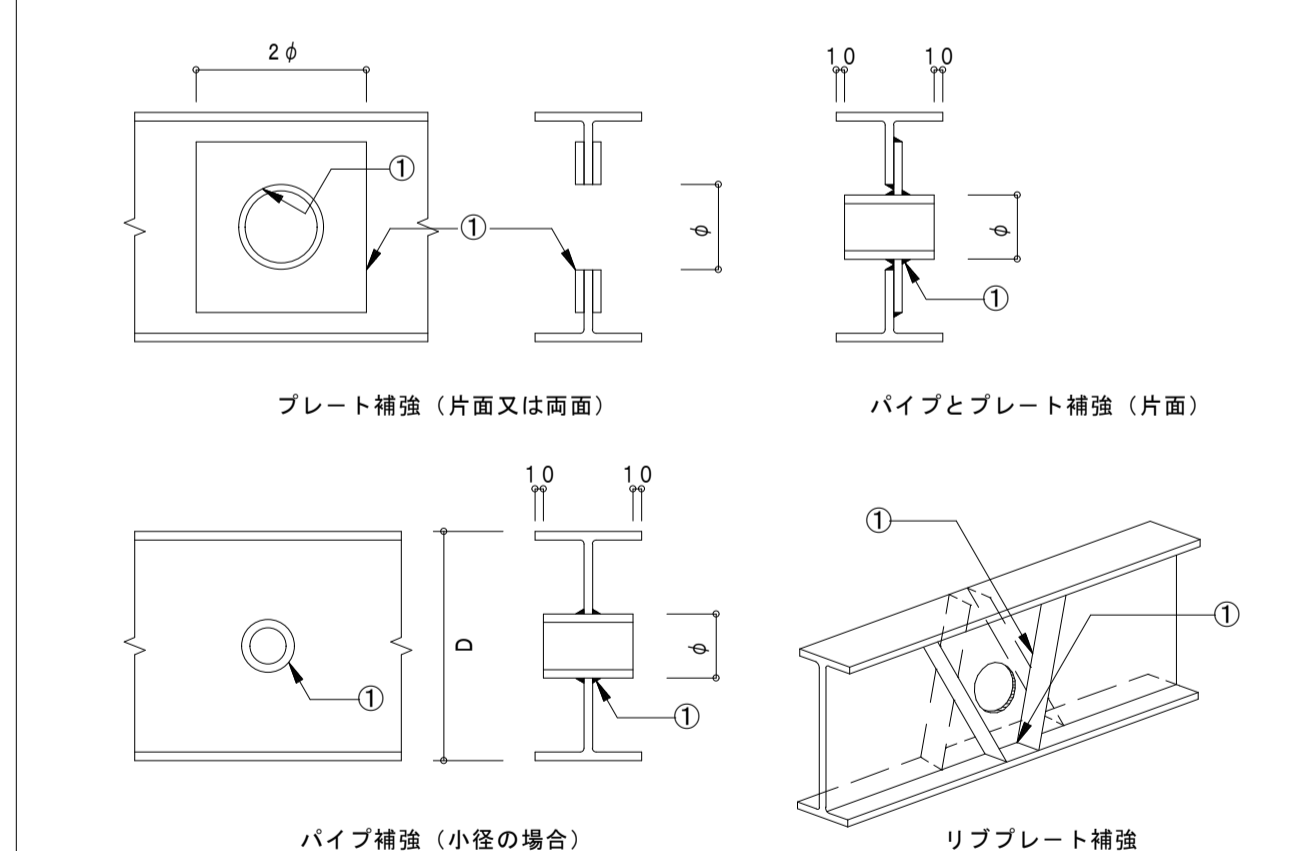


(9) 頭付きスタッド (JIS1198) スタッド材の標準形状・寸法

呼び名	スタッド材			
	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
φ16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
φ19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150

(10) 梁貫通補強

●計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
 ●梁端部 (スパンの1/10以上かつ2D以内) は避ける
 ●φ ≤ 0.4D



(11) その他

柱状改良(深層混合処理工法) 特記仕様書 (ECM工法)

1. 工事概要

本地業はセメントスラリーを用いた機械式攪拌深層処理工法による地盤改良である。

この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する工法によって地盤改良を行うものである。

2. 一般事項

- (1) 本地業は、本特記仕様による他、「改訂版 建物のための改良地盤の設計及び品質管理指針平成18年7月」(財)日本建築センター、以下指針という)による。
- (2) 本工法は、「(一財)日本建築センター」にて証明された建築技術審査証明取得工法(BGJ 審査証明-66)とする。

3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度(改良長+空掘長)、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承諾の上に変更することが出来る。
- (2) 改良柱体の設計基準強度は、 $F_c=900\text{KN}/\text{m}^2$ とする。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、配合管理、施工管理及び品質管理を行う。
 - ① 工事概要
(工事件名・現場住所、改良径、改良長、空掘長、改良本数、固化材の種類、添加量、設計基準強度)
 - ② 土質柱状図(現場調査結果)
 - ③ 施工要領(施工機械、施工手順)
 - ④ 配合計画(水/固化材比、固化材使用量)
 - ⑤ 工事工程計画
 - ⑥ 施工管理方法(施工管理、品質管理、安全対策)
 - ⑦ 施工組織図
- (4) セメントスラリーを用いた機械式攪拌深層混合処理工法の専門会社を本工事の施工業者とする。
- (5) 固化材と改良対象土を確実に攪拌することができ、供回りを防止する攪拌装置を装備する。

4. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工基準を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
 - I. 攪拌装置をコラム芯にセットする。
 - II. 所定の空掘り深度まで掘削する。
 - III. 固化材液を吐出しながら、混合攪拌する。
 - IV. 所定深度に到達したら、固化材液の吐出を停止し、攪拌装置で引抜き・貫入攪拌を行う。
 - V. 攪拌装置を所定攪拌回数回転させながら押し上げ・引き上げる。
- (3) 本工事により排出した発生土は、場内処分とする。
- (4) 施工に対して疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。

5. 施工機械

- (1) 所定の施工管理項目を計測・記録出来る管理装置を用いることとする。
- (2) 改良機本体は、本工事の施行仕様を満足させる施行制御・管理装置を装備したものとする。
- (3) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給出来るものとする。

6. 配合管理

- (1) セメントミルクに使用する材料は、セメント系固化材とする。
- (2) 配合計画
固化材液の配合(W/C)と使用量(セメント添加量)は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。
或いは、正確に土質を把握し、そのかつ土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

7. 施工管理

- ① 鉛直性 改良機本体のリーダー内に設置した傾斜計で管理する。
- ② コラム芯 事前に通し芯を水系等を出し、コラム芯にマークを設ける。
- ③ 掘削深度 改良機本体に設置した深度計で計測し記録する。
- ④ 改良径 攪拌装置の形状・寸法を管理装置で記録する。
- ⑤ スラリー比重 比重計(マッドバランス等)

8. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数 (モールドコア 頭部深部各1箇所)
- (2) 合否の判定
 X_i : 検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ ($1 \leq i \leq n$)
 n : コア抜き取り個数
モールドコアによる場合: $X_i = .075 \cdot q_{uf7}$
 q_{uf7} : モールドコア強度(7日強度)
 XL : 合否判定値
 F_c : 改良柱体の設計基準強度

$$\bar{X} n \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma d$$

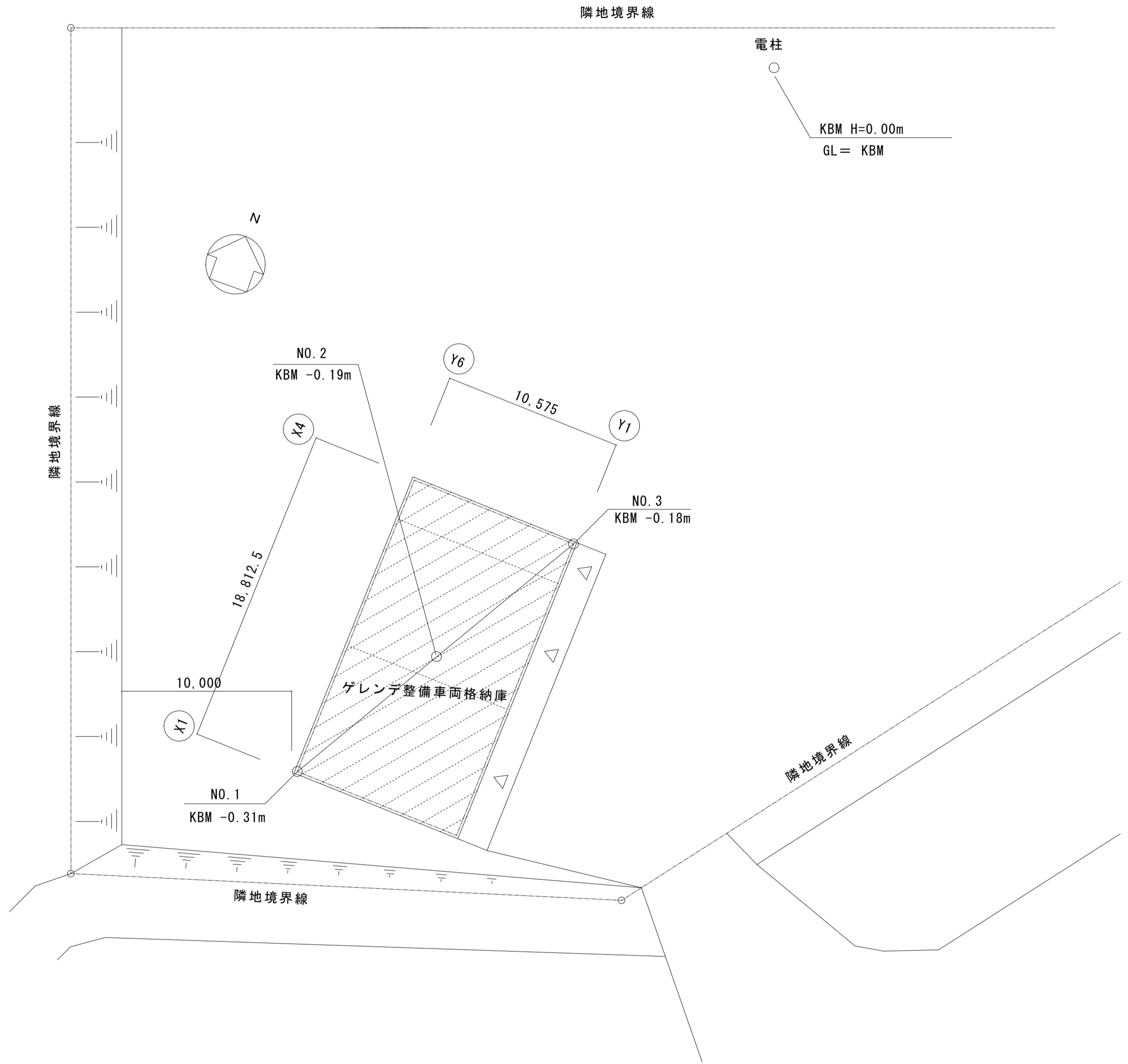
9. 報告

工事完了後、下記項目について報告書をまとめ、3部監督員に提出する。

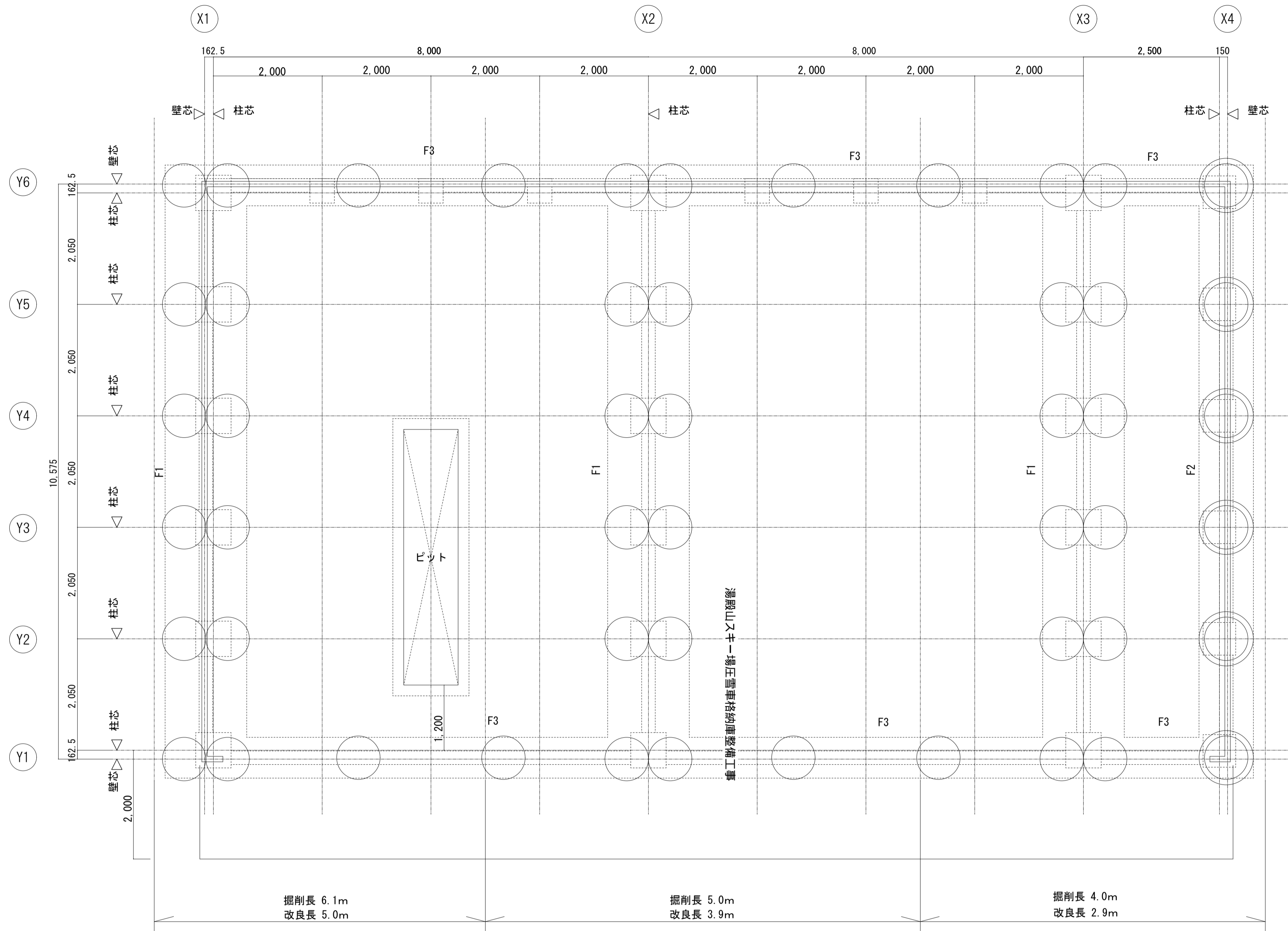
- ① コラムの伏図及び番号
- ② コラムの施行日
- ③ コラムの径及び長さ
- ④ 掘削深度
- ⑤ 打設結果一覧表
- ⑥ 回転トルク値、圧入トルク値
- ⑦ コア強度管理試験結果
- ⑧ 合格判定結果

ボーリング標準貫入値、土質構成

標準貫入試験 No. 1						標準貫入試験 No. 2						標準貫入試験 No. 3											
深度	土質	10	20	30	40	50	深度	土質	10	20	30	40	50	深度	土質	10	20	30	40	50			
0	現状地盤面	GL=KBM					790.810	0		GL=KBM					910.190	0		GL=KBM					920.180
1	盛土	柱状改良					790.810	1	盛土	柱状改良					910.190	1	盛土	柱状改良					920.180
2		柱状改良					790.810	2	礫混じりシルト	柱状改良					910.190	2	礫混じりシルト	柱状改良					920.180
3	礫混じり砂質シルト	柱状改良					5.000	3	礫混じりシルト	柱状改良					3.900	3	礫混じりシルト	柱状改良					2.900
4		柱状改良					5.000	4		柱状改良					3.900	4		柱状改良					2.900
5		柱状改良					5.000	5		柱状改良					3.900	5		柱状改良					2.900
6		柱状改良					5.000	6	玉石混じりシルト質砂礫	柱状改良					3.900	6	玉石混じりシルト質砂礫	柱状改良					2.900
7		柱状改良					5.000	7		柱状改良					3.900	7		柱状改良					2.900
8	シルト質砂礫	柱状改良					5.000	8		柱状改良					3.900	8		柱状改良					2.900
9		柱状改良					5.000	9		柱状改良					3.900	9		柱状改良					2.900
10		柱状改良					5.000	10		柱状改良					3.900	10		柱状改良					2.900
11		柱状改良					5.000	11		柱状改良					3.900	11		柱状改良					2.900
12	礫混じり砂質シルト	柱状改良					5.000	12		柱状改良					3.900	12		柱状改良					2.900
13		柱状改良					5.000	13		柱状改良					3.900	13		柱状改良					2.900
14		柱状改良					5.000	14		柱状改良					3.900	14		柱状改良					2.900
15		柱状改良					5.000	15		柱状改良					3.900	15		柱状改良					2.900

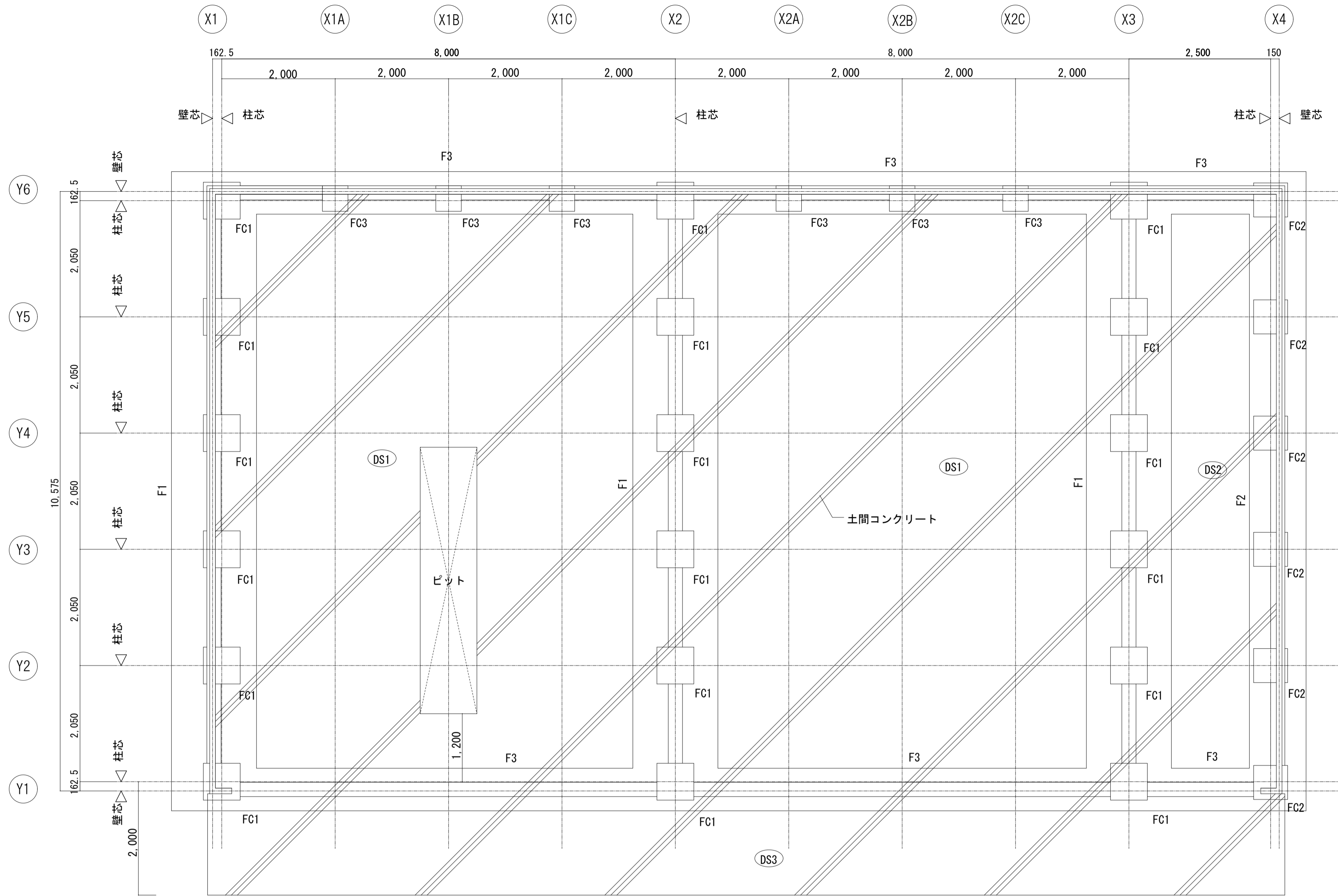


調査位置図



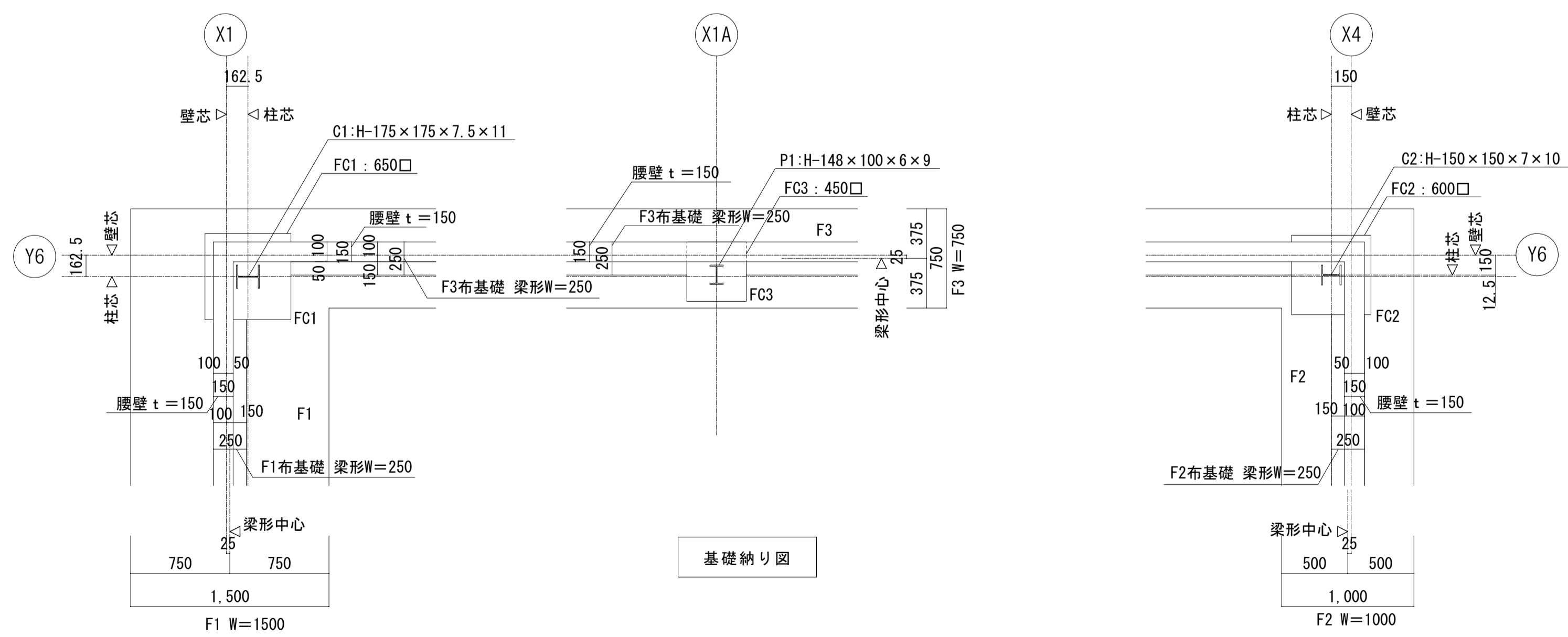
柱状改良伏図

柱状改良								
マーク	改良径	掘削長	空堀長	改良長	固化材配合量	改良体 設計基準強度	基礎底面における鉛直支持力	備考
○	800φ	図示	GL-1.10m	図示	300 Kg/m ³	Fc=1000 KN/m ²	qa=80KN/m ² (長期)	工法：深層混合処理工法 (ECM工法)
◎	1000φ	図示	GL-1.10m	図示	300 Kg/m ³	Fc=1000 KN/m ²	qa=80KN/m ² (長期)	



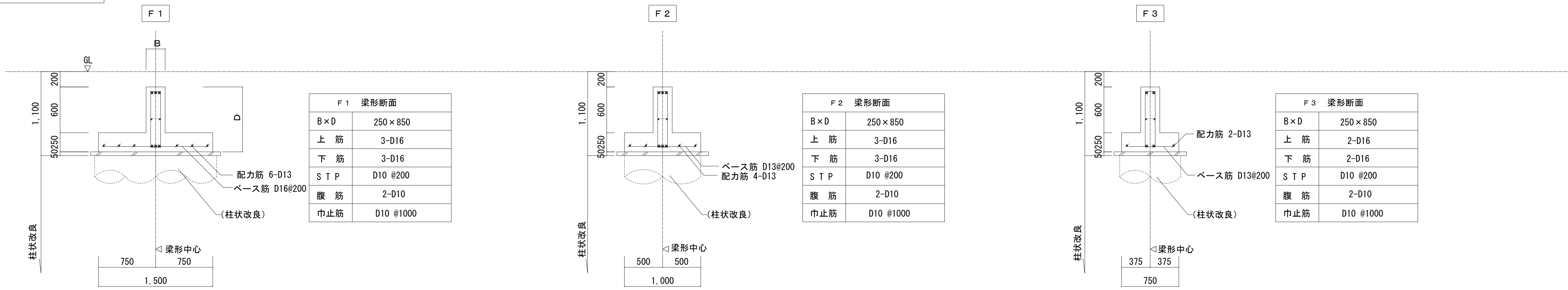
使用材料		
躯体コンクリート	設計基準強度	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
土間コンクリート	設計基準強度	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
捨てコンクリート	設計基準強度	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
異形棒鋼		SD295A D10~D16 (規格品)
		SD345 D19~ (規格品)

基礎伏図

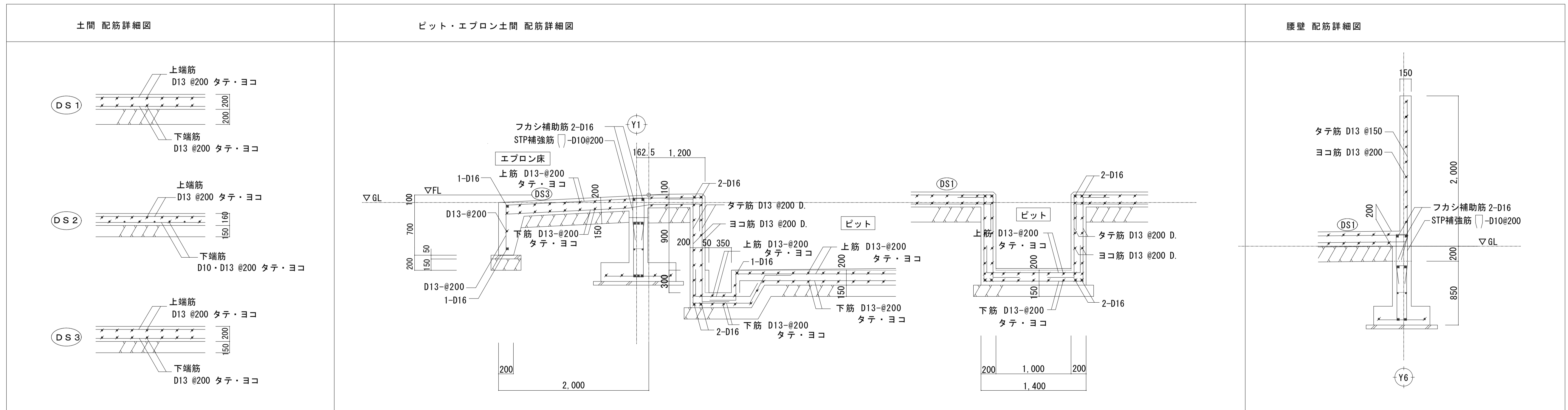


基礎納り図

基礎リスト



礎柱リスト			
符号	FC 1	FC 2	FC 3
断面			
主筋	16-D16	16-D16	8-D16
HOOP	D10-@100	D10-@100	D10-@150



鉄骨部材リスト

特記なき限り下記による。
 主柱のダイヤフラムはSM490Bとする。
 特記なき高力ボルトはF10T又はS10Tとする

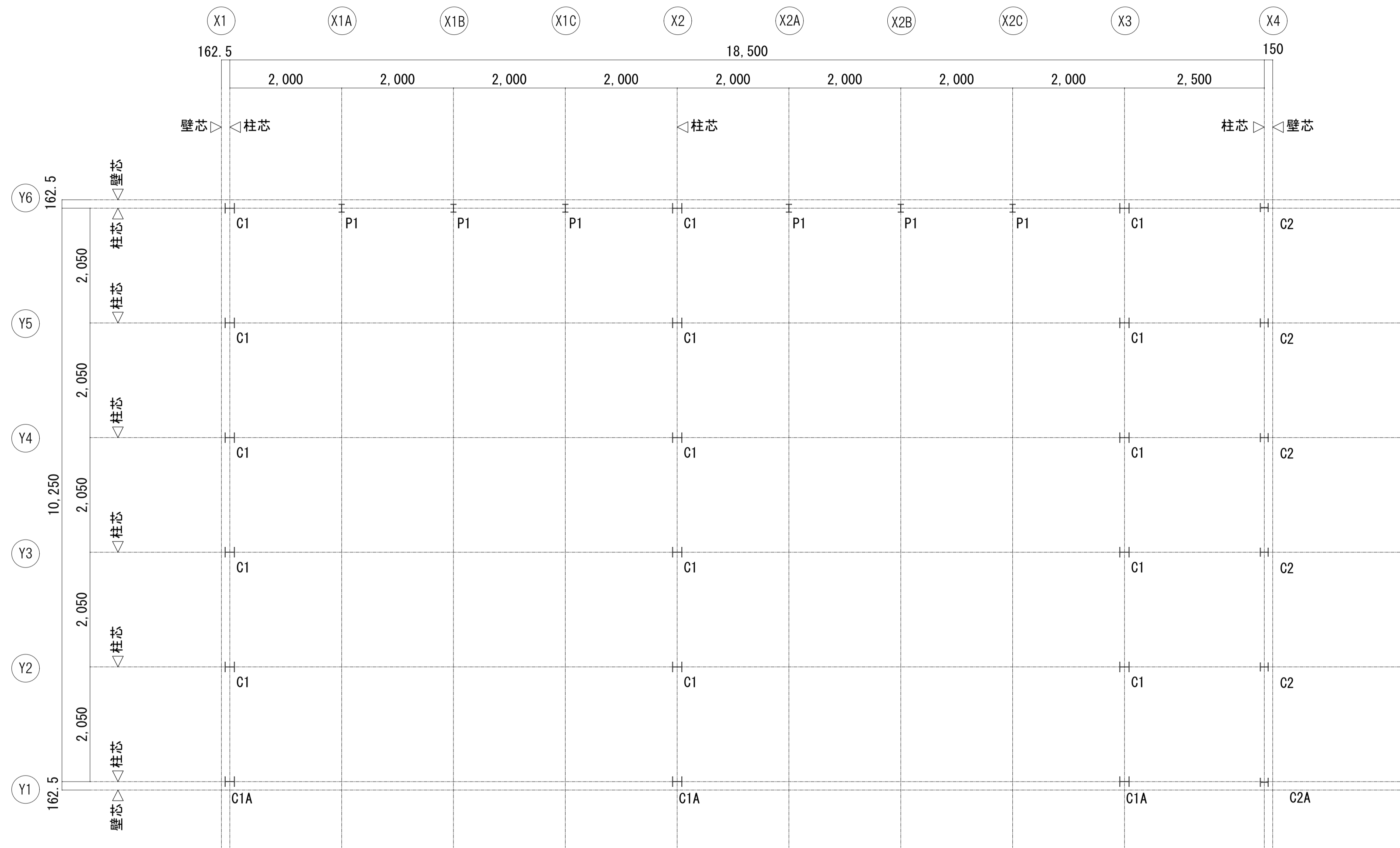
符 号	材 質	部 材	ジョイント・その他
(主柱)			
C 1 C 1 A	SS400	H-175×175×7.5×11	(柱脚詳細リスト参照)
C 2 C 2 A	SS400	H-150×150×7×10	(柱脚詳細リスト参照)
(間柱)			
P 1	SS400	H-148×100×6×9	(柱脚詳細リスト参照) G. PL- 9 HTB 2-M16
P 2	SS400	H-150×75×5×7	G. PL- 6 HTB 2-M16
(大梁)			
G 1	SS400	H-350×175×7×11	(継手詳細リスト参照)
G 2	SS400	H-250×125×6×9	(継手詳細リスト参照)
B 1	SS400	H-200×100×5.5×8	G. PL- 9 HTB 2-M16 壁ブレース (BR1またはBR2) 取付部は G. PL-12
B 2	SS400	H-200×100×5.5×8	G. PL- 9 HTB 2-M16 壁ブレース (BR1またはBR2) 取付部は G. PL-12
B 1 1	SS400	H-148×100×6×9	G. PL- 9 HTB 2-M16 壁ブレース (BR1またはBR2) 取付部は G. PL-12
(小梁) (つなぎ梁)			
B A 1	SS400	H-150×75×5×7	G. PL- 6 HTB 2-M16
B A 2	SS400	H-150×75×5×7	G. PL- 6 HTB 2-M20
(耐風梁)			
H B 1	SS400	H-148×100×6×9 (横使い)	G. PL- 9 HTB 2-M16
H B 2	SS400	H-194×150×6×9 (横使い)	G. PL- 9 HTB 2-M20
(壁ブレース)			
B R 1	SS400級	JISカーボン鋼筋 1-M27	G. PL-12 HTB 2-M20
B R 2	SS400級	JISカーボン鋼筋 1-M24	G. PL-12 HTB 2-M20
B R 3	SS400級	JISカーボン鋼筋 1-M20	G. PL- 9 HTB 1-M20
(ヤネブレース)	SS400級	JISカーボン鋼筋 1-M16	G. PL- 9 HTB 1-M16
(胴縁)	SSC400	C-100×50×20×2.3@450	G. PL-4.5 BOLT 2-M12
(開口補強材)	SSC400	C-100×50×20×2.3	G. PL-4.5 BOLT 2-M12

柱脚詳細リスト

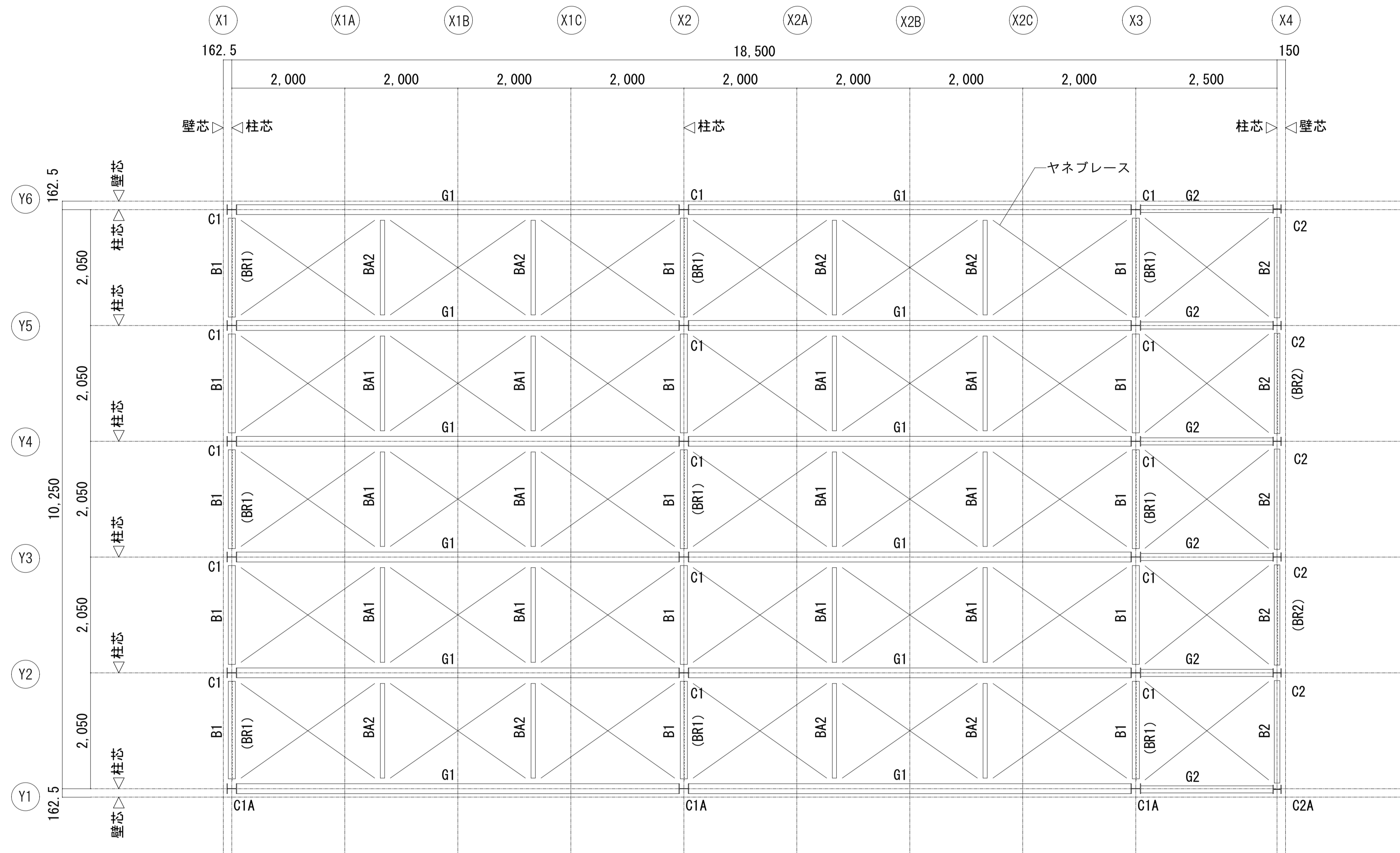
符 号	C1	C2	P1	
部 材	H-175x175x7.5x11	H-150x150x7x10	H-148x100x6x9	
詳細図				
へ-スプレート	B. PL-28x380x380	SM490B	B. PL-25x350x350	SM490B
アンカボルト	A. BOLT 4-M24 L=500	ABR490	A. BOLT 4-M20 L=400	ABR490
定着板	PL-16x75x75	PL-12x60x60	B. PL-19x200x300	A. BOLT 4-M16 L=400 フック付D.N

継手詳細リスト

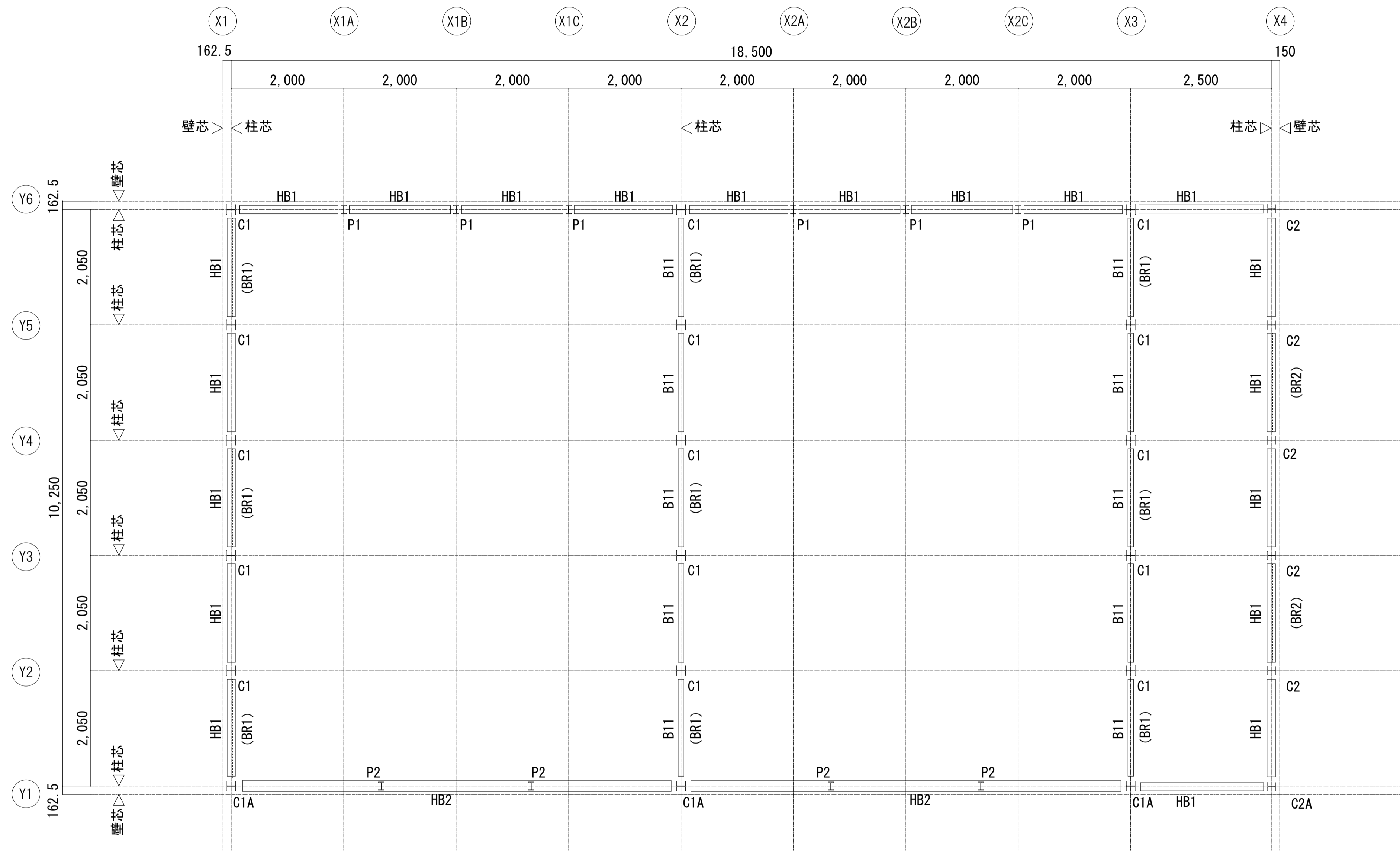
符 号	G1	G2				
部 材	H-350x175x7x11	H-250x125x6x9				
詳細図						
フランジ 外	1PL- 9x175x290	HTB S10T	8-M20	1PL-12x125x410	HTB S10T	12-M16
フランジ 内	2PL- 9x 70x290					
ウェブ	2PL- 6x260x170	HTB S10T	6-M20	2PL- 6x170x290	HTB S10T	8-M16



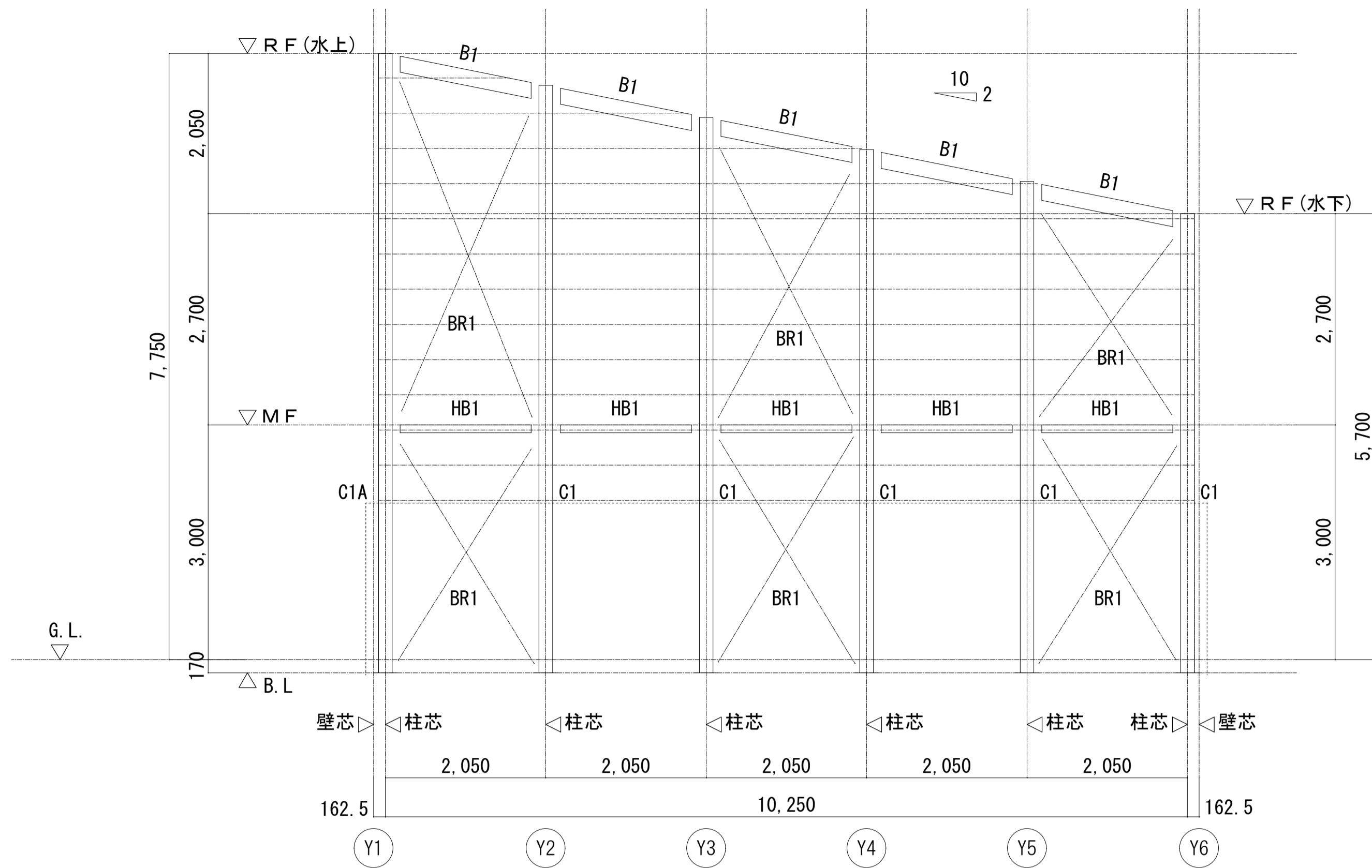
1 F、MF 柱伏図



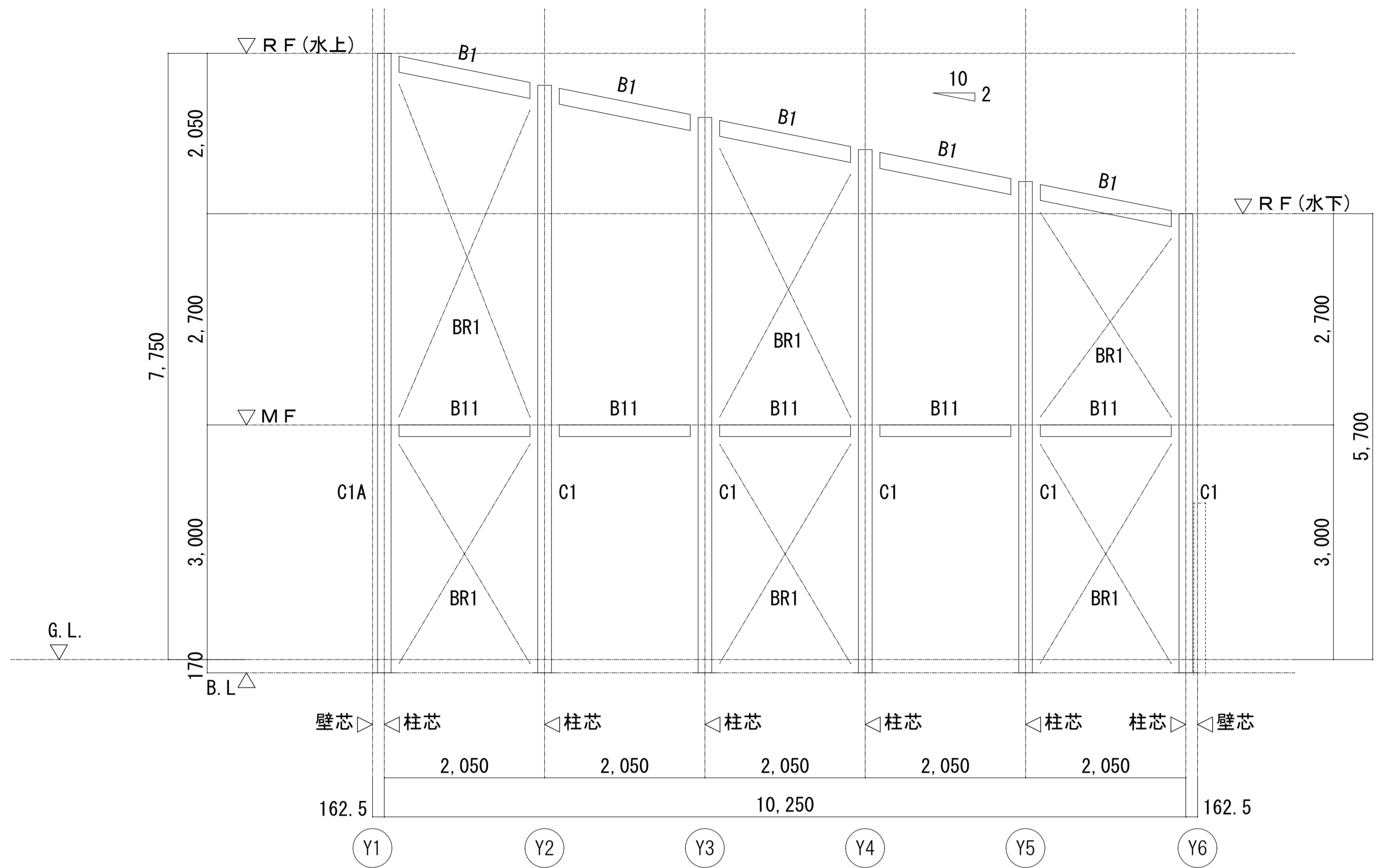
R F 梁伏図



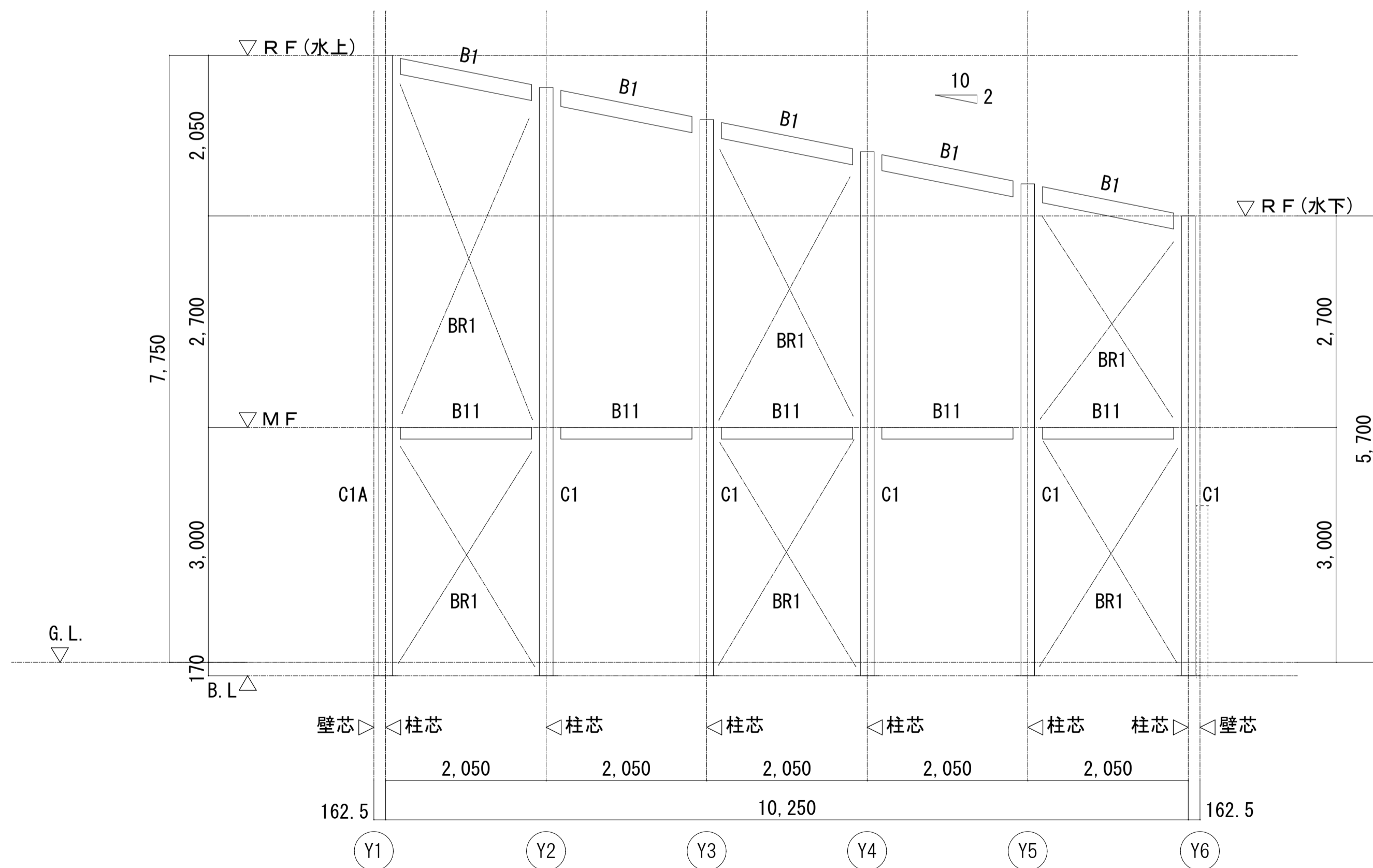
M F 梁伏図



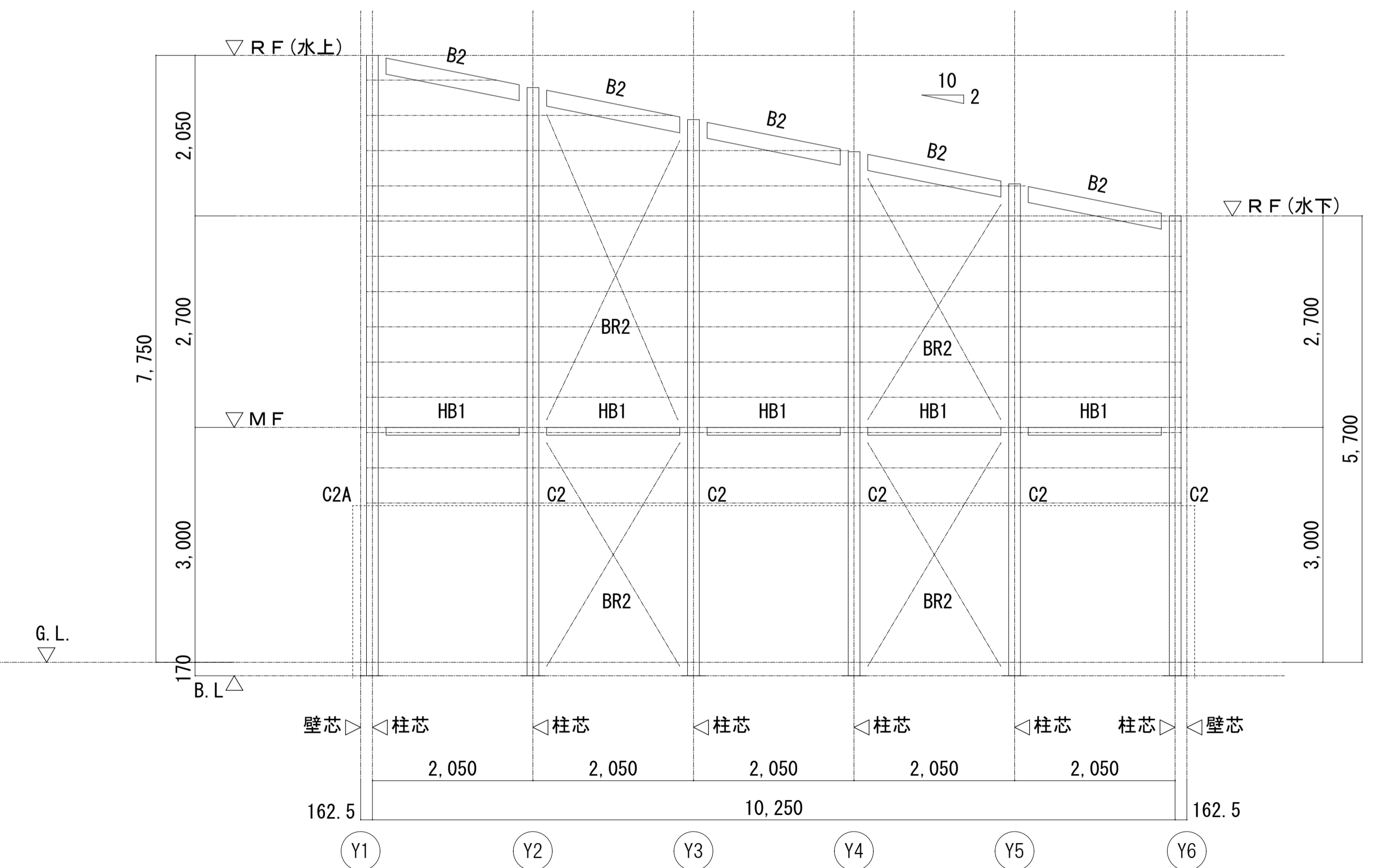
X1通り軸組図



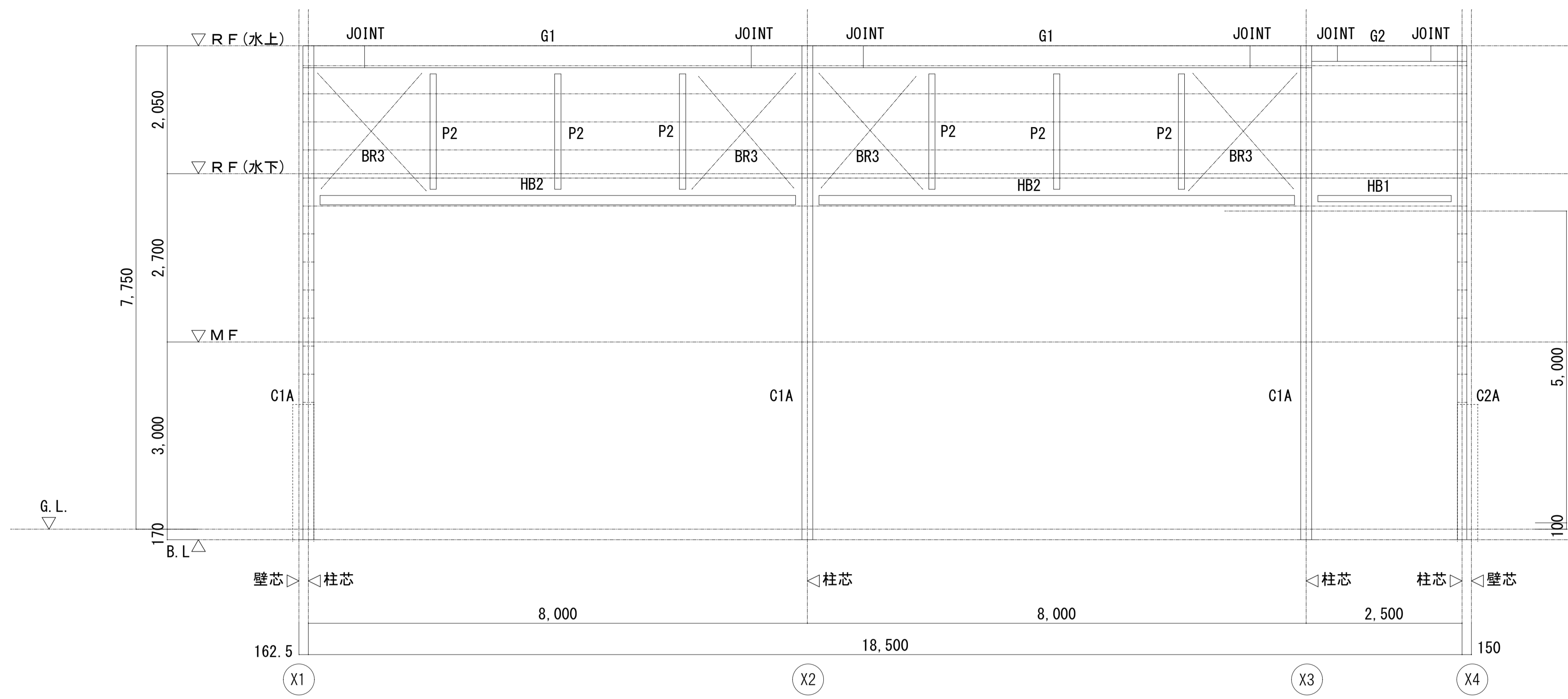
X2通り軸組図



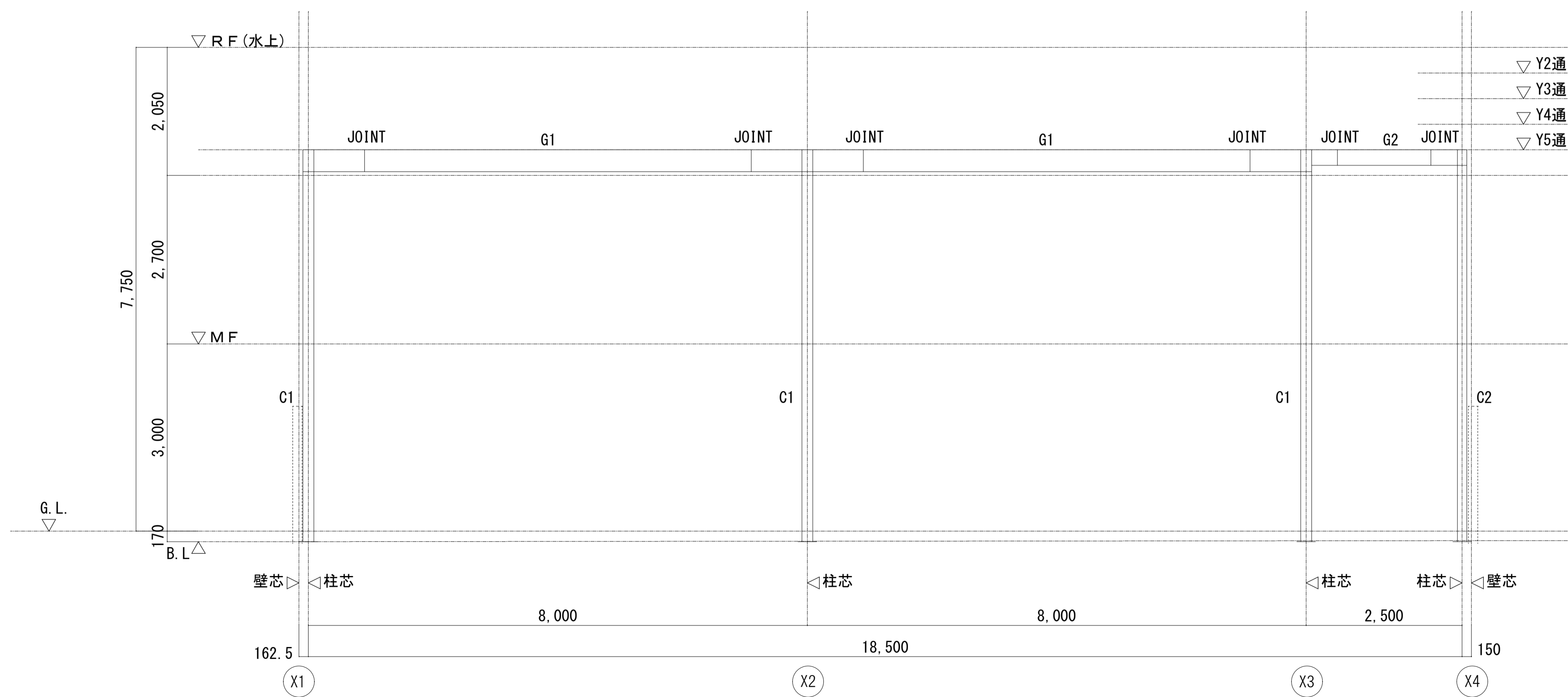
X3通り軸組図



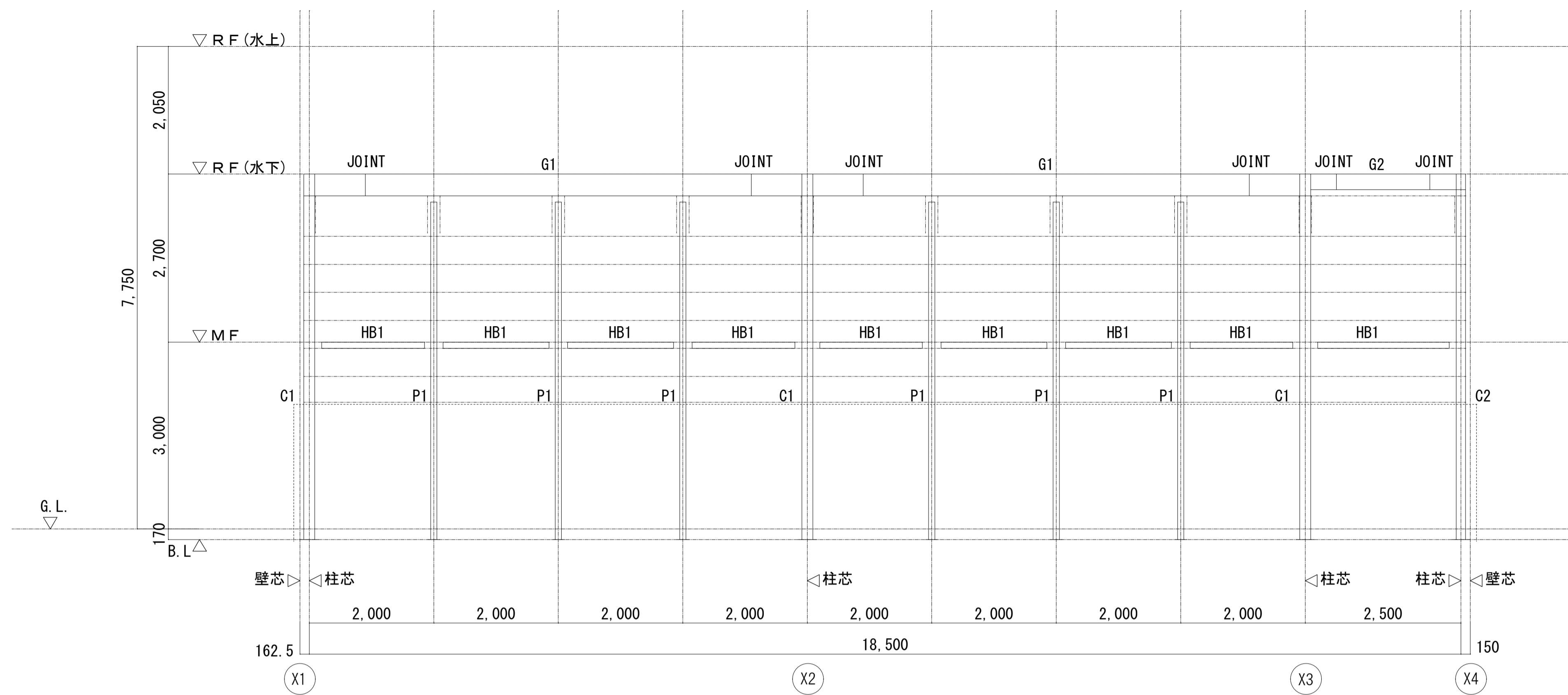
X4通り軸組図



Y1通り軸組図



Y2-Y5通り軸組図

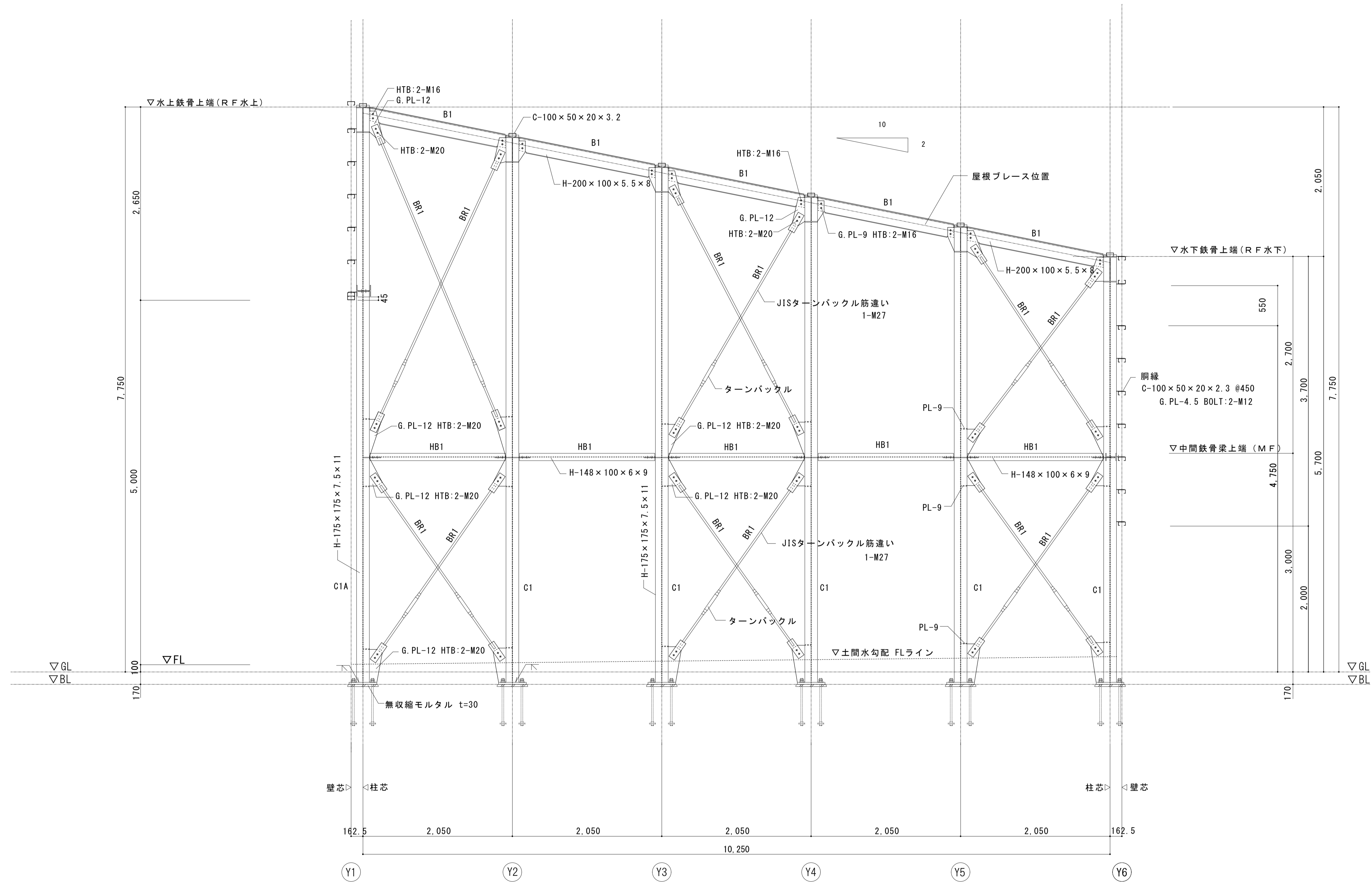


Y6通り軸組図

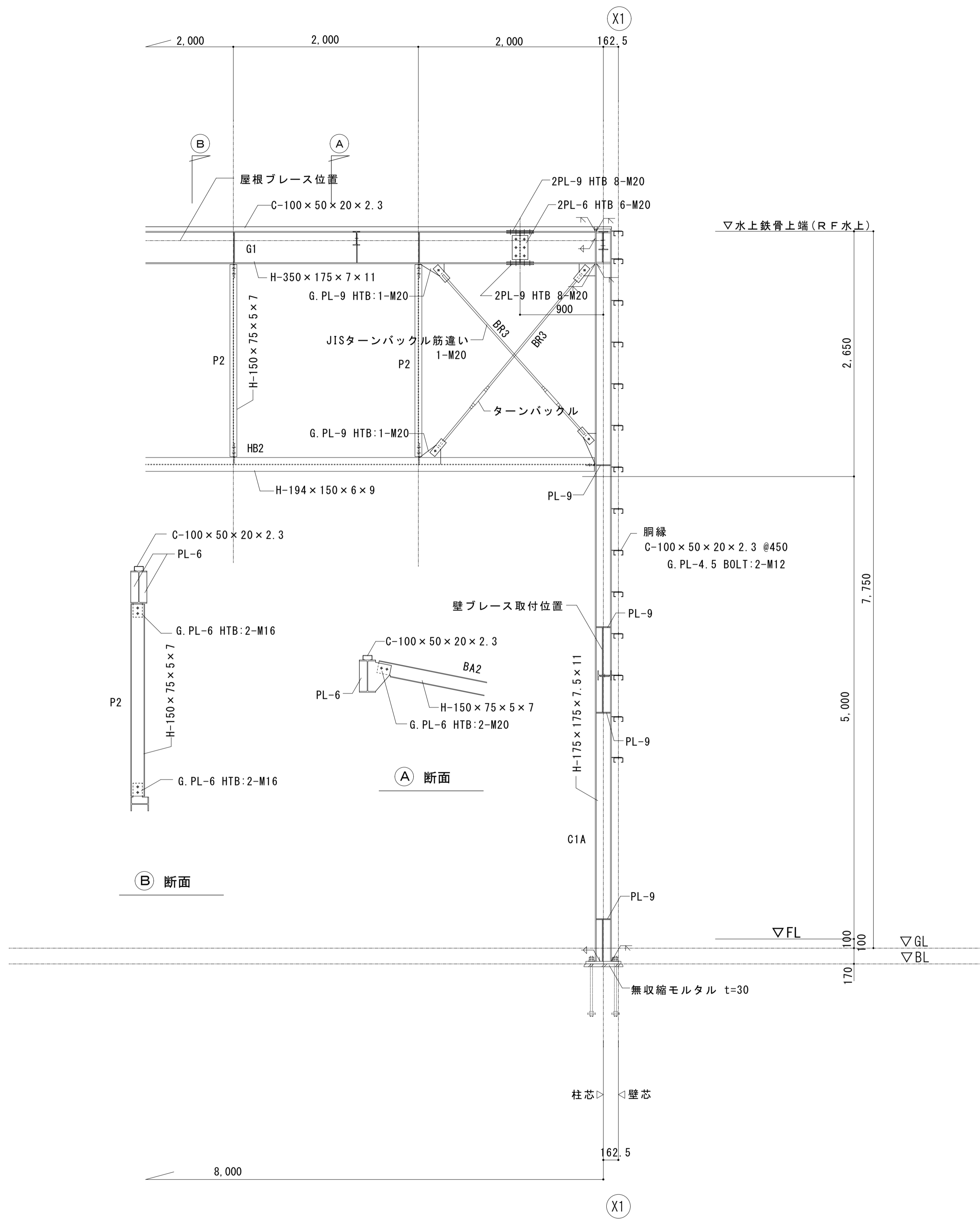
特記事項

1. 大梁ジョイント位置については下記とする。

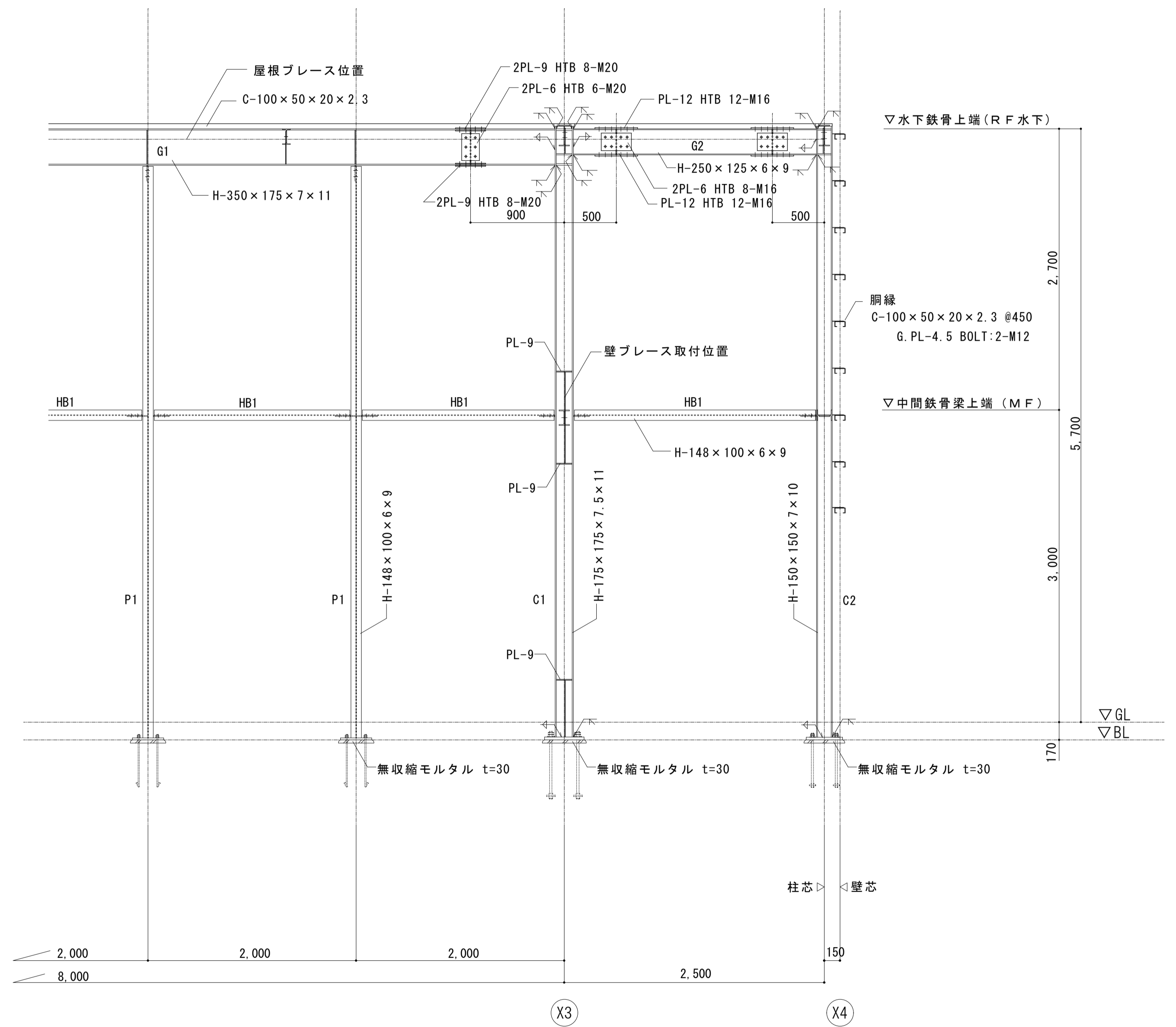
- ・ G 1 柱心より 900
- ・ G 2 柱心より 500



× 1 通り鉄骨詳細図



Y 1 通り鉄骨詳細図



Y 6 通り鉄骨詳細図